

岡山市埋蔵文化財センター年報 1

2000(平成12) 年度

2002年3月

岡山市教育委員会

埋蔵文化財センター一年報発刊にあたって

岡山市は備前岡山と言わっていましたように、備前国の西部に開けた城下町を礎にしていますが、今日では広域合併の結果、備前国南部の西半から備中国の南東部にまで市域が広がり、古代に栄えた吉備国的主要な地域の大半が市域に含まれるようになっています。このため、古墳を主とした遺跡の分布状態が極めて濃密度であり、全国的にもトップレベルの地にあると言えるばかりでなく、津島遺跡・造山古墳・備中高松城跡・岡山城跡・岡山後楽園を始として、16箇所に及ぶ史跡名勝も所在しており、内容的にも遜色ない状況にあると言えます。

こうした歴史的環境の下に、岡山市の文化財保護行政は、勢い埋蔵文化財の保護保存が中心となり、この十数年来開発に伴う遺跡の現状保存の折衝と記録保存の実施に追い捲られているのが実情であります。その行政的対応は、岡山市教育委員会事務局に設けられている文化課の、一係である文化財係が職掌としていましたが、埋蔵文化財の実務に当たる専用施設の整備が挙げず、良好な職場環境とは言えませんでした。一向に減少しない記録保存の社会的要請に基づいて、毎年毎年不斷に実施している発掘調査の実態と、報告書作成の職場環境の整備、さらには出土遺物の処置及び収蔵管理の面から、専用施設の整備がこの数年来の大きな課題となり、平成10年度に文化庁の補助事業で岡山市埋蔵文化財センターの建設の運びとなりました。

平成11年度からは文化財課の設置をみるとともに、課の専用施設としての埋蔵文化財センターの施設整備が実現し、遅ればせながら古代吉備国を中心とする行政セクションとして、独り立ちの職責と行政的取組みを行う組織整備が図られました。当市の埋蔵文化財行政の対応状況を、これまで『岡山市埋蔵文化財調査の概要』としてご報告させて頂いていましたが、平成12年度分からは『岡山市埋蔵文化財センター一年報』に改めてご報告させて頂くことに致しました。

岡山市埋蔵文化財センター一年報の第1号でご報告させて頂く内容が、発掘調査の現地作業に追われて、必ずしも記録保存の完遂の図れていない実情の許で、その概要をお示しすることにより、責務の一端を果すことができますならば、労苦が報われた感があります。

平成14年3月31日

岡山市教育委員会生涯学習部

文化財課長 出 宮 徳 尚

例　　言

1. 本書は2000(平成12)年度の埋蔵文化財に関する事業と調査成果、および保護行政の概要報告である。これまで『岡山市埋蔵文化財調査の概要』として刊行してきたが、岡山市埋蔵文化財センター設立に伴い書名を『岡山市埋蔵文化財センター年報』とあらためた。
2. 本書の編集は扇崎　由が担当した。発掘調査の概要の執筆・図面作成は各担当者が分担して行った。また、埋蔵文化財関連の協議と調整については、文化財課神谷正義が整理と原稿作成を行つたものである。
3. 本書に関連する遺物、実測図・写真などは岡山市埋蔵文化財センターで保管している。
4. 発掘調査の概要是あくまでも速報性に重点をおいている。したがって調査成果は整理途中のものを含んでおり、正式な報告書刊行の時点で訂正される場合のあることを、ご了承願いたい。
5. 実測、遺物の洗浄・整理、図面作成などで、多くの方々の協力を得ています。氏名の列記は省かせていただきますが、関係されたみなさまに感謝いたします。
6. 表紙裏デザインは、丸山智代さんにお願いしました。

目　　次

| | | |
|------|-------------------------|----|
| I. | 埋蔵文化財センターの組織と事業の概要..... | 1 |
| II. | 発掘調査の概要..... | 9 |
| III. | 埋蔵文化財関連の協議と調整..... | 27 |
| IV. | 資料紹介と研究ノート..... | 33 |

I. 埋蔵文化財センターの組織と事業の概要

1. センターの開設

岡山市埋蔵文化財センターは、埋蔵文化財の保護及び保存や埋蔵文化財に対する愛護意識の普及をはかることを目的に、発掘調査、出土物の整理・保存・収藏及びそれら成果の展示・公開・情報発信など岡山市における埋蔵文化財の拠点として、2000年4月1日岡山市網浜834-1に開設された。

場所はJR岡山駅の南東2.5km、近隣には関連する文化施設はないが、背後の山塊には網浜茶臼山古墳・湊茶臼山古墳を代表とする前期古墳群や、奈良時代前期創建といわれる網浜廃寺が所在する。また、朝寢鼻貝塚・津島遺跡・南方遺跡・鹿田遺跡・百間川遺跡群・七つ塙古墳群・金藏山古墳・賀田廃寺・備前国府関連遺跡などの旭川流域を構成する主要な遺跡まで5~6km圏内に位置する。さらに、車ではJR岡山駅まで15分、山陽自動車道岡山インターまで30分、国道2号まで10分と交通の利便性も高い。

現在、岡山市内には旧石器時代から近世まで約2,500箇所の遺跡が知られ、岡山市教育委員会では文化課(現文化財課)が所管となり、年次数件の埋蔵文化財の発掘調査を行ってきている。その出土品は幼稚園空き教室などの教育委員会施設や発掘現場事務所において分散保管・整理してきたが、管理面など様々な問題を抱えていたのも事実で、一括して保管できる施設が必要とされていた。一方で発掘調査や出土品が報道されることも多くなり、市民の埋蔵文化財や発掘調査に対する強い関心も持たれていた。平成3年度から毎年秋には市役所1階市民ホールにおいて発掘調査速報展を開催してきたが、長期間の会場確保が困難なうえ土曜・日曜が閉庁日に当たるなど、見学には大きな制約が課されており、誰もがいつでも自由に見学できる展示室を備えた施設が望まれていた。

このような中、ようやく岡山市にも埋蔵文化財センターが設置されることとなり、平成12年4月18日文化庁記念物課岡村道雄主任調査官をはじめ、岡山県文化課長・市議会議長・文教委員長・市議員・地元関係者を来賓に迎えて竣工式が執り行われ、あわせて岡山市長によりセンター建設に際しご助力をいただいた方々に感謝状が贈呈された。

建物は鉄筋コンクリート3階建て、敷地面積2,442.82m²、建築面積845.09m²、延床面積1,895.79m²、駐車場10台分、総事業費7億7千万円である。

建物内部を公開スペース・作業スペース・事務スペース・研究スペース・収蔵スペースの五つに大きく区分し、公開スペースは展示室・収蔵展示室・図書コーナー、作業スペースは遺物整理室・水洗室・鉄器処理室・木器処理室・仮収蔵室、事務スペースは事務室・会議室・研究スペースは研究室・図面整理室・書庫・写場、収蔵スペースは特別収蔵庫・収蔵庫という構成をとった。

展示室には七つのコーナーを設置している。①「発掘作業の流れ」では、写真パネルで掘る・探す・記録する・遺物を洗う・復元するという一連の作業過程を追う。②「遺跡年表」は、市内の主要な遺跡を全国の遺跡と対比しながら年表形式で表示している。③「立体模型で遊ぼう」では、市域の代表的な遺跡の概要を紹介している。タッチパネルにより時代別・地域別に検索でき、選択した遺跡の場所は立体模型上に表示される。④「南方遺



テープカット



展示室

跡」では、弥生中期貝塚の剥ぎ取りパネルを展示。⑤「企画・連報展示」では、最近調査した話題の遺跡や遺物の展示や、収蔵品の中からテーマ展示を行う。⑥「常設展示」では、旧石器時代から近世まで市内の代表的な出土物を中心とした時代構成により、考古学からたどる岡山の歴史を学ぶことができるようしている。⑦「さわってみよう」は、弥生土器・須恵器・石器・鉄滓・動物骨などを自由にさわってその質感などを体感できる。「遺跡年表」と「さわってみよう」は、展示室内の柱を利用したコーナーで、「さわってみよう」の反対側には休憩用のいすを柱に作りつけた。

収蔵展示室では、壺・甕・埴輪・かまどなどの大型品を中心に完形品の土器を展示をかねて収蔵している。

センターは、日曜・祝日・年末年始を除き開館しているので、多くの方に活用していただきたい。

○岡山市埋蔵文化財センター条例

平成12年3月22日
市条例第51号

(設置)

第1条 埋蔵文化財の保護及び保存並びに埋蔵文化財に対する愛護意識の普及等を図るために、地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第30条の規定により、岡山市埋蔵文化財センター(以下「文化財センター」という。)を岡山市網浜834番地の1に設置する。

(事業)

第2条 文化財センター、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 埋蔵文化財の保護及び保存の業務に関すること。
- (2) 埋蔵文化財の調査研究及び資料収集に関すること。
- (3) 発掘等の調査により出土した文化財(以下「出土遺物」という。)の整理及び保存に関すること。
- (4) 出土遺物及び収集資料の保管及び活用に関すること。
- (5) 埋蔵文化財に対する愛護意識の普及啓発の活動に関すること。
- (6) 前各号に掲げる事項の情報提供に関すること。

(保管資料の活用)

第3条 文化財センターに展示室を設置し、無料で公開するものとする。

2 文化財センターが保管する出土遺物及び収集資料並びに図書等を、研究その他の教育的目的のために使用しようとする者は、岡山市教育委員会(以下「教育委員会」という。)の許可を受けなければならない。

(遵守事項)

第4条 文化財センターの利用者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- (1) 資料及び施設等に損傷のおそれのある行為をしないこと。
- (2) 他人に危害を及ぼし、又は迷惑をかける行為をしないこと。
- (3) その他教育委員会が定めた事項。

2 教育委員会は、前項の規定に違反した者又はそのおそれのある者を、館外に退去させることができる。

(損害賠償)

第5条 来館者又は資料の利用者が、資料、施設等をき損し、又は亡失したときは、その損害を賠償しなければならない。ただし、市長がやむを得ないと認めたときは、賠償額を減免することができる。

(委任)

第6条 この条例に定めるものほか必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附 則

この条例は、平成12年4月1日から施行する。

○岡山市埋蔵文化財センター条例施行規則

平成12年3月24日

市教育委員会規則第16号

(趣旨)

第1条 この規則は、岡山市埋蔵文化財センター条例(平成12年市条例第51号。以下「条例」という。)

第6条の規定に基づき、条例の施行について必要な事項を定めるものとする。

(職員)

第2条 岡山市埋蔵文化財センター(以下「文化財センター」という。)に所長を置く。

3 文化財センターに所長補佐、主査、主任、文化財保護主事、文化財保護主事補、主事、事務員その他の職員を置くことができる。

(展示室の公開日及び時間)

第3条 展示室の公開日は、月曜日から土曜日までとする。ただし、国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日及び年末年始の休日(12月29日から翌年の1月3日までの日をいう。)を除く。

2 公開時間は、午前9時から午後4時30分までとする。

3 前2項の規定にかかわらず、所長が必要と認めるときは、これを変更することができる。

第4条 この規則に定めるものほか、文化財センターの管理及び運用について必要な事項は、教育委員会の承認を得て所長が別に定める。

附 則

この規則は、平成12年4月1日から施行する。

2. センターの組織

岡山市教育委員会 —— 生涯学習部 —— 文化財課 —— 岡山市埋蔵文化財センター

文化財課

課長 出宮徳尚
調整主任 三宅一正
文化財専門監 根木 修
主 査 神谷正義
主 任 羅久井和恵

埋蔵文化財センター

所長 根木 修(文化財専門監事取扱)
主任 宇垣匡雅(岡山県から派遣)
主任 乗岡 実
主任 扇崎 由(岡山県へ派遣)
文化財保護主事 草原孝典
文化財保護主事 高橋伸二
文化財保護主事 河田健司
文化財保護主事 安川 滿

3. 事業の概要

平成12年度月別入館者数

| 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 総計 |
|----|-----|----|----|-----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|
| 99 | 219 | 68 | 59 | 157 | 57 | 43 | 60 | 30 | 52 | 19 | 49 | 912 |

開設当初や夏休み期には100名を越える入館者を迎えた月もあったが、年度後半には40~60名台で推移し、月平均で50名前後である。センターが開設されたことを市民の皆さんにもっと広く知って頂けるようアピールをしていく必要があろう。

資料の貸出

(12件)

| 遺跡等名 | 資料名 | 点数 | 貸出期間 | 貸出先 | 事由 | 備考 |
|-----------|-----------------|----|-------------------|-------------------------------------|------------------------------------|---------------------|
| 須恵器短頸壺 | | 2 | | | | |
| 須恵器壺蓋 | | 1 | | | | |
| 須恵器広口壺 | | 1 | 12・4・12~12・9・30 | 岡山県立吉備路郷土館 | 企画展2000「吉備の古代山城~鬼城山・大廻り小廻り山柵櫛バネル展」 | |
| 須恵器長頸壺 | | 1 | | | | |
| 南方(済生会) | 剣形木製品複製 | 1 | | 香芝市二丈山博物館 | 企画展「Replica~甦る文化財~」 | 大阪府立弥生文化博物館所蔵複製品による |
| 市内出土 | 備前鏡 | 30 | 12・7・8~12・7・9 | 長浜文化財実行委員会 | 長浜文化財シンポジウム「近世城下町の諸相」 | |
| 南方(済生会) | さじ | 4 | | | | |
| | フォーク | 1 | 12・9~12・12 | 静岡市立登呂博物館 | 特別展「どううのごはんなあに~登呂村の株わい料理・再現~」 | |
| 岡山城本丸中の段 | 金箔桐文軒丸瓦 | 1 | | | | |
| | 金箔唐草文軒平瓦 | 1 | | | | |
| | 金箔巴文式形鳥食瓦 | 1 | | | | |
| | 金箔巴文板状瓦 | 1 | 12・9・21~13・6・30 | 国立歴史民俗博物館・福岡市博物館・兵庫県立博物館・読売新聞社社会事業部 | 企画展「天下統一と城」 | |
| | 金箔桐文鬼瓦 | 2 | | | | |
| | 人物貼付鬼瓦 | 1 | | | | |
| 岡山城二の丸 | 金箔鬼瓦 | 1 | | | | |
| 塚段1号墳 | ガラス小玉 | 80 | 12・10・1~13・3・17 | 鍛野早苗 | 非破壊分析による学術研究 | |
| 塚段2号墳 | ガラス小玉 | 19 | | | | |
| | 漆巻りジョッキ形容器 | 1 | | | | |
| 南方(済生会) | 漆巻り杓子 | 1 | 12・10・13~12・12・14 | 神戸市埋蔵文化財センター | 特別展「色彩の考古学」 | |
| | 漆巻り高杯 | 1 | | | | |
| 岡山城本丸中の段 | 土器・陶磁器 | 9 | 12・12・20~13・4・25 | 岡山県立吉備路郷土館 | 企画展「江戸のもよー発掘された江戸の美」 | |
| 北方長田 | 器台 | 1 | 13・1・11~13・3・31 | 岡山市水道局 | 水質試験場玄間に展示 | |
| | 壺 | 1 | | | | |
| 津寺(加茂小) | 土偶形土製品 | 1 | | 安城市歴史博物館 | 常設展示「顔のメッセージ」 | 安城市歴史博物館所蔵複製品による |
| 天瀬 | 童の描かれた器台 | 3 | | | | |
| | 未成年物の描かれた刀函形土製品 | 1 | | | | |
| 南方(済生会) | 鹿の描かれた剣形木製品 | 1 | 13・1・23~13・4・5 | 安城市歴史博物館 | 特別展「弥生の絵画倭人の顔~描かれた2000年前の世界~」 | |
| | 建物の描かれた板材 | 1 | | | | |
| 津島江道(閏北中) | 鹿・弓の描かれた小堀 | 1 | | | | |
| | 鹿角製釣針 | 1 | | | | |
| 南方(済生会) | 貝製釣針 | 1 | 13・3・8~13・6・3 | 神戸市埋蔵文化財センター | 平成13年度企画展 | |
| | 木製スプーン | 2 | | | | |
| | 木製フォーク | 1 | | | | |

掲載許可等

(19件)

| 許可日 | 遺跡名 | 資料名 | 点数 | 依頼主 | 掲載誌等 |
|--------|-----------|-----------------|----|------------------|-------------------------------------|
| 120411 | 大廻り小廻り山城跡 | 一の木戸石壠他 | 26 | 岡山県立吉備路郷土館 | 企画展2000「吉備の古代山城・鬼城山・大廻り小廻り山発掘ペナル展」 |
| 120512 | 南方(済生会) | 彩紋杓子 | 1 | | |
| | | 彩紋高杯 | 1 | | |
| | | ナスビ形鏡 | 1 | | |
| | | ジロッキ形容器 | 1 | 株式会社山川出版社 | 『岡山県の歴史(新版県史シリーズ33)』 |
| | | 分銅形土製品 | 1 | | |
| | | 大廻り小廻り山城跡 石壠 | 1 | | |
| | 津島江道(岡北中) | 水田跡 | 1 | | |
| 120714 | 南方(済生会) | 戈の柄全体 | 1 | 雄山閣株式会社 | 『考古学による日本歴史第6巻戦争』 |
| | | 戈の柄孔部分 | 1 | | |
| 120726 | 南方(済生会) | 木製さじ | 1 | | |
| | | 木製フォーク | 1 | 静岡市立登呂博物館 | 特別展「きょうのごはんなあに? -登呂村の味わい料理・再現-」 |
| | | イノシシ下顎骨出土状況 | 1 | | |
| 120817 | 南方(済生会) | 漆塗りショコラ形容器 | 1 | | |
| | | 漆塗り杓子 | 1 | 神戸市埋蔵文化財センター | 特別展「色彩の考古学」 |
| | | 漆塗り高杯 | 1 | | |
| 120901 | 南方(済生会) | イノシシ下顎骨出土状況 | 1 | 小澤 智生 | 「縄文・弥生時代に豚は飼われていたか?」 『李尚考古学第73号』 |
| 120908 | 岡山城本丸中の段 | 金箔欄干軒丸瓦 | 1 | | |
| | | 金箔唐草文軒平瓦 | 1 | | |
| | | 金箔巴文大形鳥居瓦 | 1 | 国立歴史民俗博物館・福岡市博物館 | |
| | | 金箔巴文板状鬼瓦 | 1 | 兵庫県立博物館・競売新 | 企画展「天下統一と城」 |
| | | 金箔欄干鬼瓦 | 2 | 聞社会事業部 | |
| | | 人物貼付鬼瓦 | 1 | | |
| 120908 | 岡山城二の丸 | 金箔鬼瓦 | 1 | | |
| | 岡山城 | 天守全景 | 1 | | |
| 120908 | 岡山城本丸中の段 | 金箔瓦集合写真 | 1 | 国立歴史民俗博物館 | 企画展「天下統一と城」 |
| | | 金箔軒丸瓦・軒平瓦 | 1 | | |
| | | 金箔鳥居瓦 | 1 | | |
| | | 全景 | 1 | 株式会社新人物往来社 | 別冊『歴史読本』63号 |
| 121002 | 造山古墳 | 航空写真 | 1 | 株式会社講談社 | 『日本の歴史3巻』「大王から天皇へ」 |
| 121120 | 南方 | 壺 | 2 | 東京国立博物館 | 特別展「土器の造形-縄文の藝術・弥生の静-」 |
| 121207 | 南方(済生会) | 魚介類 | 1 | | |
| | | 人頭骨と盾 | 1 | | |
| | | 石鎌 | 1 | 朝日新聞社 | 朝日選書667『発掘 日本の原像-旧石器から弥生時代まで-』 |
| | | 石劍 | 1 | | |
| | | 石斧 | 1 | | |
| 130112 | 南方(済生会) | 竜の描かれた器台 | 3 | | |
| | | 高木植物の活かした分離形式製品 | 1 | | |
| | | 鹿の描かれた劍形木製品 | 1 | 安城市歴史博物館 | 特別展「弥生の絵面倭人の顔-描かれた2000年前の世界-」 |
| | | 建物の描かれた板材 | 1 | | |
| | | 鹿・弓の描かれた小壺 | 1 | | |
| 130112 | 尾上車山古墳 | 航空写真 | 1 | 株式会社新人物往来社 | 別冊『歴史読本』71号 |
| | 造山古墳 | 航空写真 | 1 | | |
| 130124 | 南方(済生会) | 石器 | 1 | 高田浩司 | 論文掲載のため |
| 130207 | 南方(済生会) | 蓋 | 1 | 株式会社山川出版社 | 『文化財探訪クラブ 海磁器の世界』 |
| 130226 | 二日市 | 灰釉溝縁皿 | 1 | 東洋陶磁学会 | 『東洋陶磁史』(東洋陶磁学会25周年記念出版) |
| 130306 | 南方釜田 | 器台 | 1 | 福井 優 | 「吉備の弥生器台」「古代吉備」 |
| 130312 | 造山古墳 | 航空写真 | 1 | 有限会社ZEN事務所 | 『ジバング俱乐部』平成13年4月号 |

複製許可等

(1件)

| 遺跡等名 | 資料名 | 点数 | 複製者 |
|---------|--------|----|----------|
| 津寺(加茂小) | 土偶形土製品 | 1 | 安城市歴史博物館 |

資料の借用

(1件)

| 遺跡名 | 資料名 | 点数 | 借用期間 | 借用先 | 事由 |
|------|------------|----|----------------|---------|------------------|
| 大島周辺 | ナイフ形石器など | 39 | 12・4・1～13・3・31 | 小野伸・小野勢 | 埋蔵文化財センター常設展示のため |
| | 縄文土器 | 13 | | | |
| | 石鏃 | 2 | | | |
| 金山貝塚 | フレイク・模形石器等 | 3 | 12・4・1～13・3・31 | 小野伸・小野勢 | 埋蔵文化財センター常設展示のため |
| | 剥片 | 1袋 | | | |
| | 円鏃 | 1 | | | |
| 石池 | 石器等 | 22 | 12・4・1～13・3・31 | 小野伸・小野勢 | 埋蔵文化財センター常設展示のため |
| | 土器片 | 4 | | | |
| | 不明 | 多數 | | | |

掲載依頼

(1件)

| 依頼日 | 遺跡名等 | 資料名 | 点数 | 依頼先 | 掲載誌等 |
|---------|-------|---------------------------------------|------------------|-----------|----------------------|
| 13・1・15 | 池田家文庫 | 御城内御絵図 御書院御絵図 牙城櫓郭實測図 岡山城古写真 | 1 1 1 3 | 岡山大学附属図書館 | 『史跡岡山城跡本丸下の段発掘調査報告書』 |

資料調査

| 氏名 | 所属 | 資料名 |
|------|-------|--|
| 寺前直人 | 大阪大学 | 南方遺跡 銅劍・武器形石器、沢田(市道)遺跡 打製石鏃、南方(済生会)遺跡 武器形木製品・石器 |
| 中村大介 | 大阪大学 | 津寺(加茂小)遺跡・南方釜田遺跡・南方(済生会)遺跡 土製品、南方遺跡・沢田(市道)遺跡 弥生前期壺 |
| 吉田 広 | 愛媛大学 | 南方遺跡・南方釜田遺跡 銅劍 |
| 井上 茜 | 名古屋大学 | 南方(済生会)遺跡 弓 |
| 福井 優 | 岡山大学 | 南方釜田遺跡 器台 |

視察

| 年月日 | 氏名等 | 目的 |
|----------|---------------------|-------------------|
| 12・07・10 | 新潟市議会総務常任委員会 16名 | 行政視察 |
| 13・03・01 | 諫山えりか(新潟市埋蔵文化財センター) | 調査体制、設備、事業内容、遺物見学 |

現地説明会

平成12年度は下記の2遺跡で現地説明会を行った。これからも見学者の安全性の問題等、大きな支障のない限り各現場1回は現地説明会を開くようにしていきたい。

岡山城石垣解体修理

2000年11月4日 参加150名

川入・中撫川遺跡

2001年1月13日 参加50名



平成12年度 発掘調査速報展

2000年10月25日～10月27日

岡山市役所1階市民ホール

文化の日を中心とする11月1日から7日までの文化財保護強調週間にあわせて、平成3年度から発掘調査速報展を開催してきて今年度で10回目となった。3日間とごくわずかな期間であったにもかかわらず、約2000名の方々が見学下さった。発掘調査に対する市民の皆さんのがんばりのあらわれだと思われる。展示した遺跡・資料は次のとおり。

金蔵山古墳 円筒埴輪

妹尾住田遺跡 平安中期～鎌倉後半、青磁・緑釉・灰釉など

北口遺跡 古墳末、須恵器・土師器・鉄鉱石・鉄滓・鉄器など

備前国府関連遺跡 平安後期、須恵器・土師器など

川入・中撫川遺跡 古墳前期土師器・奥山久米寺式軒丸瓦など

北方長田遺跡 弥生後期土器など

岡山城本丸下の段跡 瓦・陶磁器など

金山寺三重塔保存修理 棟札・大工忘れ道具・瓦など

埋蔵文化財報告会

10月28日 埋蔵文化財センター会議室 参加20名

発掘調査速報展で紹介した遺跡・文化財について、スライド写真や資料をもとに解説を行った。参加者数は決して多いとはいえたが、その分参加者一人一人の疑問にきめ細かく応じることができたとおもわれる。

報告書等の刊行

『足守藩武家屋敷跡・II－足守小学校プール建設に伴う発掘調査報告－』

足守藩武家屋敷地の調査。江戸時代後期の土坑・溝・井戸などを検出。

『史跡岡山城跡本丸下の段発掘調査報告』

史跡整備に伴い中の段に引き続き行った調査。江戸時代の絵図と一致する位置と内容の構跡・城門・井戸などの遺構が遺存。江戸時代初期までの郭の変遷が判明。岡山城とその近隣の瓦編年、軒丸瓦の同窯関係や文様系譜などについての論考も収録。

『三手向原遺跡－中世土師器窯と集落遺跡の発掘調査報告－』

古墳時代中期～後期の集落、中世の集落および土師器焼成窯と窯道具が出土。古墳時代の土器編年やそれを指標とした集落の変遷、中世集落の様相などの考察も収録。

『岡山市埋蔵文化財調査の概要 1999(平成11年度)』

ホームページの公開

岡山市埋蔵文化財センターが岡山市役所の庁内 LAN に接続されたことを機に、平成13年3月9日ホームページを開設した。

ホームページはセンターの施設等の案内・紹介のページ「埋蔵文化財センターって?」と、事業に関する速報的なページ「NEWS!」を中心に構成した。収蔵品紹介のページ「今月の一品」では第1回として、岡山市指定重要文化財(考古資料)の片岡家銅鐸を所有者の片岡俊彦氏のご協力により掲載した。また、「Q&A」のコーナーやメールリンクも設け埋蔵文化財に関する質問やホームページに対する意見などを受け付けることとした。

なお、本年度中は試験運用の側面もあり、アクセスカウンターの設置などはしていない。掲示板などの設置もその管理の難しさなどから今回は設置を見送った。また、今回の運用で、画像数の多さや画像サイズの大きさなどからスムーズにアクセスできないこと、調査・研究目的や一般の人が得たい情報に十分に対応していないことなどの問題が今後の改良課題としてあげられた。

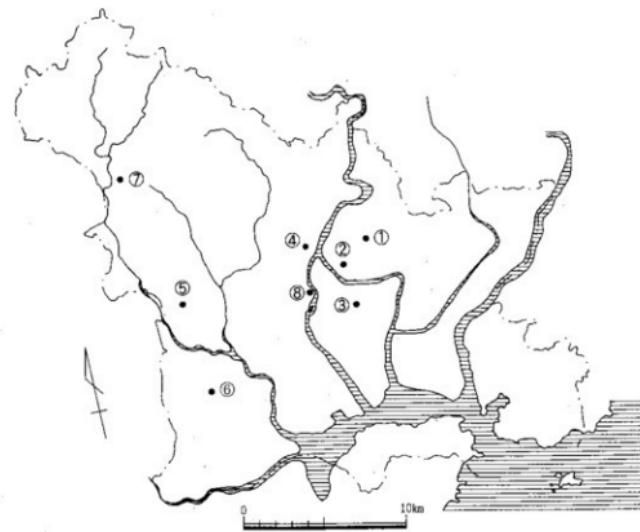
ホームページアドレス <http://www.city.okayama.okayama.jp/kyouiku/maibun/index.htm>



ホームページ画面

II. 発掘調査の概要

- ①ハガ(高島小)遺跡
- ②原尾島遺跡
- ③金蔵山古墳
- ④神宮寺山古墳
- ⑤川入・中撫川(市道)遺跡
- ⑥妹尾住田遺跡
- ⑦足守深茂遺跡
- ⑧岡山城本丸石垣解体修理



ハガ(高島小)遺跡

所在地 岡山市国府市場

調査原因 プール建設

時代 古代～中世

調査期間 000626～010502

調査面積 1200m²

担当者 草原孝典

遺跡の概要 ハガ遺跡は、旭川東岸の平野部北半に位置する。敷地を造成するためのよう壁部分の調査区からは、9～10世紀の区画に用いられたと推測される溝や、磁北に方向を合わせた掘建柱建物が検出され、三彩陶器なども出土したことから、官衙的性格の遺跡であることが推測された。付近は備前國府推定地であり、本遺跡は備前國府に関係する施設であることが推測される。

調査の概要 検出された遺構面は3面で、それぞれ7世紀、8世紀末～12世紀、13～15世紀である。

7世紀面では、柱穴・溝・墓が検出された。溝は微地形に即しており、集落周辺に広がる水田への給水を目的としたものであったと考えられる。柱穴等はあまり多くなく、配置にも規則性がうかがわれないことから、一般的な集落といえる。

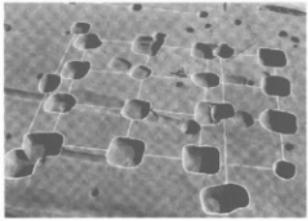
8世紀末～12世紀面では、前回の調査成果と、周辺の微地形・水田地割等の検討から、溝や築地で区画された一辺108mの方形の外郭に、東西幅40mの方形の内郭が想定された。いずれも磁北に方向を合わせている。内郭からは瓦・瓦塔・泥塔・灯明痕のある土器・瓦鉢が出土しており、とくに土器については出土した杯全てに灯明痕があった。これらのことから内郭は、仏教的な施設であったと考えられる。ただし、出土した瓦の量のことから、建物が總瓦葺とは思われないことや、回廊がめぐっていないなどから、一般的な古代寺院の景観とは異なっているようである。外郭には、倉庫と思われる總柱建物があり、るつぼを投棄した土壤などが検出されていることから、工房的な施設であったことがうかがわれる。このほか特筆すべき遺物としては、三彩の多嘴壺・羊形硯があり、いずれも極めて限定された遺跡でしか出土しないものであり、この遺構面が國府レベルのものであることを示唆している。また、内郭南側の溝から出土した軒丸瓦は7世紀末まで遡るものであり、この溝が下層の7世紀の墓の周溝を切っていることから、この遺構面が該期まで遡る可能性が推測される。



第1図 調査地点



第2図 土器焼成窯

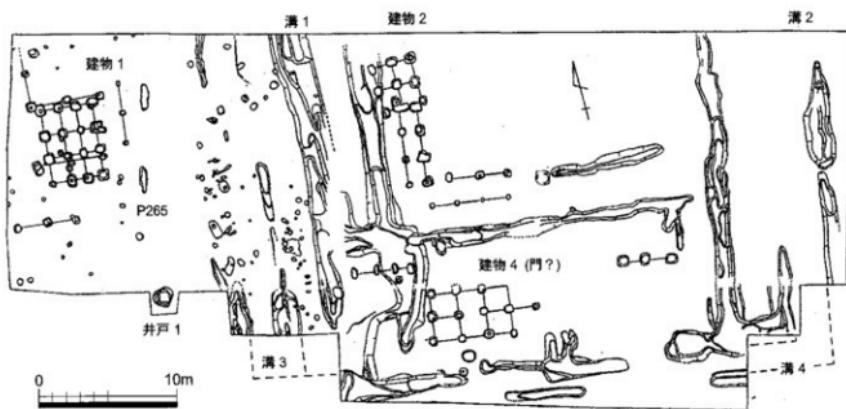


第3図 古代總柱建物

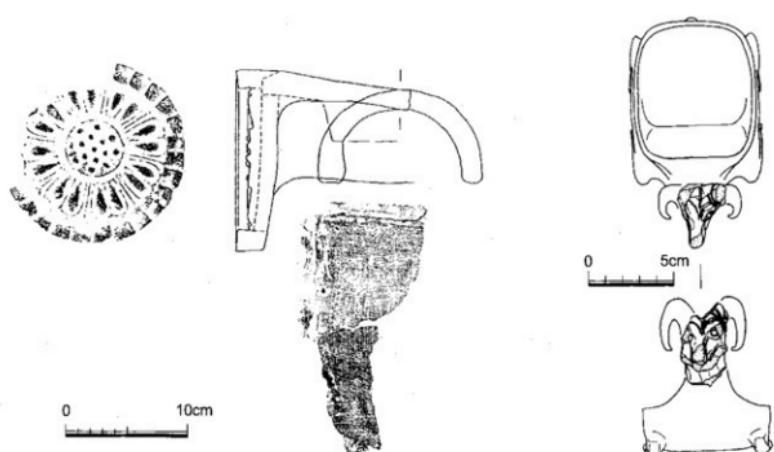


第4図 古代内郭全景

13～15世紀の遺構面では、散在的な柱穴と土器焼成窯が検出された。この遺構面の上面水田層から順文を鏡面に墨書した倭鏡が出土しており、この倭鏡の年代が15世紀後半～16世紀と考えられることから、付近に中世寺院か、もしくは中世寺院の一隅に調査区が位置する可能性がある。



第5図 8～11世紀遺構配置図



第6図 内郭溝出土軒丸瓦

第7図 羊形硯

原尾島遺跡

所在地 岡山市藤原光町1-5-5
調査原因 共同住宅建設
時代 弥生時代～

調査期間 000605～000606
調査面積 25m²
担当者 高橋伸二

遺跡の概要 当該地は岡山県教育委員会によって調査された百間川原尾島遺跡に近接している。前年度に実施された試掘調査によって包含層が確認されており、遺構の存在が予想された。

調査の概要 建物本体部分は設計変更等により掘削が遺構面まで到達しないため、調査は浄化槽部分を対象に行われた。調査は建物の基礎を除去した後に遺構の検出作業を行ったが、海拔3.6m程度まではすでに建物基礎によって擾乱されており水田の面的な検出は行えなかった。

今回の調査では中世と考えられる水田層直下と、須恵器細片が混入する包含層の下とで2面の遺構面を検出した。

水田層直下で検出された遺構は土坑1基と数基のピットで遺物は土坑内から須恵器細片が検出されたのみである。これらの遺構が乗る厚さ30～40cm程度の土層からは須恵器細片が少量検出され、この土層直下からは4基のピットを検出したが遺物は検出されなかつた。この遺構面より下も厚さ10～20cm程度の包含層状の暗褐色土が堆積しており少量の弥生土器片を検出した。

出土遺物は土坑から須恵器細片を検出したほかは包含層から少量の須恵器片と弥生土器片を採集したのみで図示したもの以外は細片である。

まとめ 今回の調査では当初多数の遺構が検出されることが期待されたが、検出された遺構は土坑1基と小ピットのみであり微高地の縁辺部にあたるものと考えられ、遺構の本体は北側の建物部分にあるものと考えられる。



第1図 調査地点



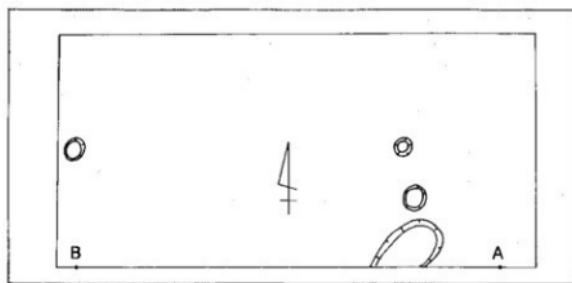
第2図 上層遺構面



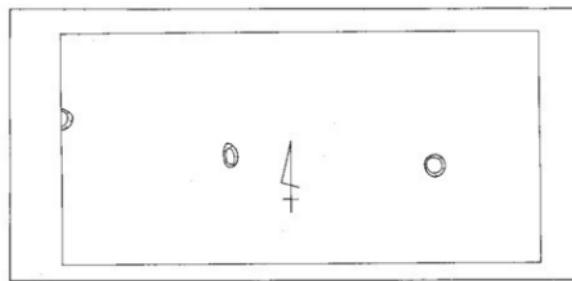
第3図 下層遺構面



第4図 土層断面



上層遺構図



下層遺構図



第5図 平面・断面図



第6図 出土遺物

金藏山古墳

所在地 岡山市沢田字竜王1062

調査期間 000508～000518

調査原因 自然崩壊

調査面積 1 m²

時代 古墳時代

担当者 宇垣国雅・乗岡 実

遺跡の概要 金藏山古墳は岡山市街地の東側に所在する操山丘陵に築かれた大形の前方後円墳である。墳丘全長165mを測り、造山古墳や備前車塚古墳などとともに吉備を代表する前半期古墳の一つである。1952年に後円部頂を中心発掘調査が実施され主体部の構造や副葬品が明らかとなっており、なかでも主体部上に設けられた方形区画とそれに配された形象埴輪群は中期初頭の大形古墳の墳頂施設の好例としてよく知られている。

今回実施したのは後円部西裾部の調査である。後円部の南西側には柿畠が所在するが、畑と山林の境には高さ1～3mの段差が生じている。この法面に円筒埴輪1点が露呈していることが明らかになったが、半ば近くが露出しており崩落あるいは紛失のおそれがあるが多分に考えられる状態であった。また、その位置から後円部墳端をめぐる埴輪のうちの1つであり、後円部西裾の位置を確定する資料である可能性が考えられたため、小規模な発掘調査を実施して埴輪の取り上げをおこなうこととした。

調査の概要 調査は露呈した円筒埴輪部分に小規模な調査区を設定し、あわせて法面にあらわれた断面の検討を行った。

調査の結果、埴輪は後円部墳端に設けられた埴輪列を構成するものであり、口縁を接する密度で配列されていることが明らかになった。

埴輪列は幅2.4m、深さ65cmを測る断面が逆台形の溝状の掘り込み内に設置されている。

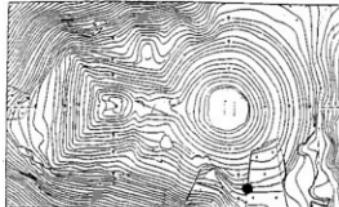
掘り込みの底面には長さ50cmの大形の石材が置かれ、これを基部とする葺石が上方にむかってのびる。この葺石は長さ25cm前後の大きさの石材を組んだものである。埴輪列は葺石基部石材の上に設置され、第1突帯の上側まで埋めて固定している。つまり、埴輪設置の段階で溝状の掘り込みはほぼ半分が埋め戻され、上記の葺石の下端は埋め込まれている。この後埴輪列の外側には小角礫による石敷き面が設けられる。一方、墳丘側には角礫と円礫を密に用いた石敷きが設けられ、それは墳丘側では上層葺石となって先に設けられた葺石を厚く覆う構造となることが判明した。これは金藏山古墳の墳丘斜面の基本的な構造である可能性が強いが、溝状の掘り込みを伴うのは調査位置付近が丘陵の稜線部にあたっているため、墳端位置をなるべく下げるための特殊な工作と推定される。

埴輪は突帯3条をもつもので、器高51cm、口径31cmを測る。該期の良好な埴輪資料であることは言うまでもないが、注目されるのは突帯貼り付け前に方形刺突を設けていることで、岡山県下ではじめての確認例となる。畿内から埴輪製作技術の伝搬があったことを示すと考えられる。

以上のようにきわめて小規模な調査であったが金藏山古墳の埴輪構造の解明という大きな成果を得ることができた。詳細については次年度刊行予定の報告書に示したい。



第1図 調査位置



第2図 調査区位置



第3図 塙輪の露出状態



第4図 塙輪列と石敷き・葺石



第5図 塙輪列および葺石断面

神宮寺山古墳

所在地 岡山市中井町1-701-1他
調査原因 マンション建設
時代 古墳時代

調査期間 000809
調査面積 13m²
担当者 宇垣匡雅 乗岡 実

調査の経過 神宮寺古墳後円部南側にマンション建設が計画されたため、試掘調査を実施した。トレーニング3本を設定し後円部裾の残存状況を確認したところ、この部分では後円部の裾が近世の河道によって大きく浸食されていることが明らかになった。

調査の概要 南側に設定したトレーニング2では地表下2mまで砂が堆積している。トレーニング1においても5層に瓦片、6層に陶磁器が含まれ、7層にも瓦片(近世)が認められた。

一方、トレーニング3には墳丘が残存しており、盛土の厚さ47cmを測る。断面の北側では水平に土が積まれていて、対し南側では斜めに積まれており、このトレーニングの盛土の南端が墳端に近いことを予想させるが、葺石や埴輪列などの古墳外表施設は失われている。

トレーニング3・1の墳丘残存部分には弥生時代の遺構とみられる土層(15層)や包含層(16層)がみられ、河道肩北側の墳丘下には弥生時代の集落遺跡が所在すると判断される。

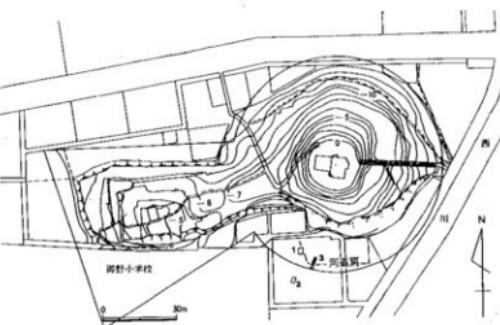
弥生土器小片を採集できたのみであり、擾乱層、河道堆積から埴輪片は全く出土しなかった。

なお、本墳は周濠の有無が決してない。上記のような状況のため、ここではそれについては何とも言えないが、墳丘10・11・13層には18層(褐色粘土-弥生前期か)のブロックが含まれており、古墳築成時にかなり深い掘削がなされている可能性がある。

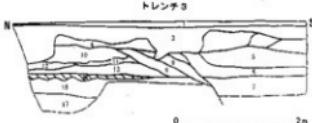
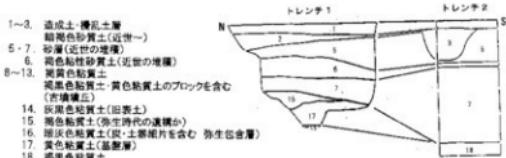
トレーニング3の南側付近に墳端を想定した場合、本墳の後円部径は89m前後と推定される。



第1図 調査位置



第2図 トレーニング位置図(1/2000)



第3図 土層断面図(S=1/80)

川入・中撫川(市道)遺跡

所在地 岡山市中撫川
調査原因 道路建設
時代 弥生時代前期～中世

調査期間 00401～010331
調査面積 約4600m²(5735m²の内)
担当者 河田健司・安川満

遺跡の概要 川入・中撫川遺跡は足守川左岸、足守川流域の遺跡群の南端付近にあたる。かつては足守川が「吉備穴海」にそぞぐ河口付近にあたると考えられる。遺跡の性格、範囲などは不明な点も多いが、岡山市川入・中撫川、庭瀬にわたる広大な範囲に遺構、遺物の存在が確認されている。調査地点は山陽新幹線建設に伴い調査された川入遺跡法万寺調査区⁽¹⁾の南隣であり、山陽新幹線およびその側道の建設に伴う調査では弥生時代中期以降各時代にわたる遺構が濃密に検出されている。また、隣接する大道西調査区では築地状遺構や平城宮式瓦も検出されており、その立地なども含め港湾的な施設が存在したともいわれている。

調査の概要 調査は市道中撫川平野線建設に伴うものであり、1997年5月に行った試掘調査に基づいて山陽新幹線から南へ約300m、5735m²の範囲を調査対象とした。本年度は法万寺II～IV、船橋調査区の調査を完了した。

法万寺I調査区とは異なり現代水田層直下で微高地基盤となつており、基盤層上面の海拔高は約1.3mとなっている。法万寺IV・船橋調査区では検出された柱穴などは浅く、遺構面がかなり削平されているものと考えられるが、法万寺II・III調査区では一部に中世段階と思われる水田層が検出されているほか検出遺構も溝のほかはほとんどなく、元々やや低い地形だったものと思われる。また、船橋調査区の南半部は南に向かって大きく落ち込む低湿地となっており、調査区以南も同様の状況が続くことが試掘調査から窺われる。

検出遺構は法万寺II・III調査区では法万寺I調査区から続く古墳時代初頭の溝(S D610など)のほかはごく少ない。先述のとおりやや低い微高地末端部の状況と考えられる。一方、法万寺IV・船橋調査区では再び微高地部分にかかるようで、弥生後期末を中心とする構群、古墳時代初頭の井戸、古墳時代とみられる竪穴住居跡のほか、古代とみられる掘立柱建物群、井戸などを検出した。また、法万寺IV調査区南端の谷状地形最下層からは弥生前期に遡る土器片が出土している。

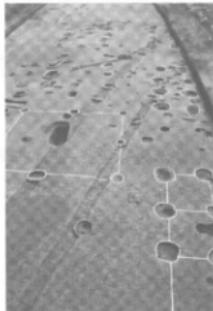
構群は複数の溝が重複しつつ微高地の縁辺に沿ってほぼ南北方向に掘られており、特に法万寺IV調査区南端付近の溝(S D1326・S D1330)では多量の土器が埋土中に投棄されていた。この土器群は弥生後期末を中心とするものでほぼ完形の状態で捨てられているものが多い。器種は壺、甕、高壺、器台、製塩土器など多



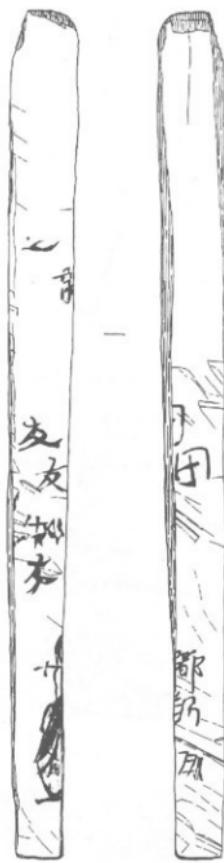
第1図 調査地の位置



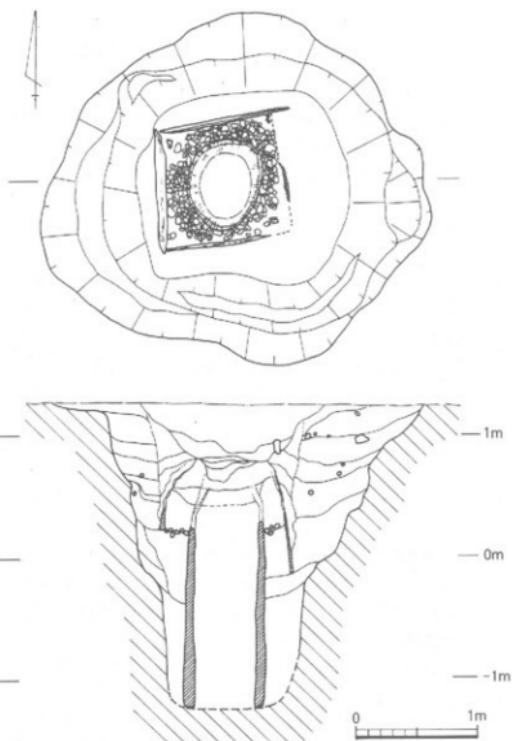
第2図 弥生後期末の溝と土器の出土状況(法万寺IV)



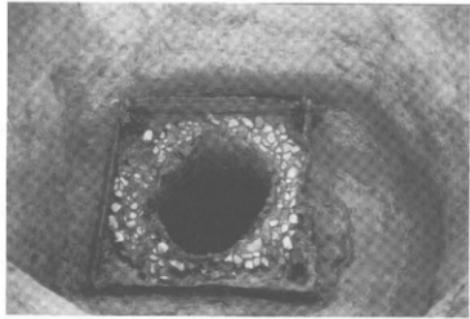
第3図 堀建柱建物群(法万寺IV)



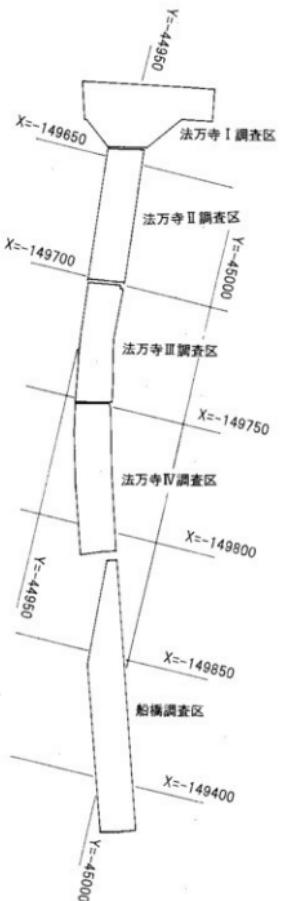
第4図 木札(習書木筒)



第5図 井戸(SE1425)



第6図 井戸(SE1425)



第7図 調査区の配置
(1/2,000)

彩である。甕や製塙土器には煤などの使用痕はなく、焼成時に破損したと思われる剥離が認められるものが多い。焼成時の破損品、不良品を一括投棄したものである可能性が高い。

掘立柱建物群は法万寺IV調査区中央付近で検出された。2間×3間の建物5棟が集中しており、特に倉庫とみられる総柱建物3棟はほぼ同一の軸線に南北に並んでいる。これらは弥生時代末の構造などを切っており、法万寺I調査区の状況などから古代段階と考えられるが、遺物はほとんどなく時期を限定できない。また、船橋調査区の微高地末端付近では井戸(S E 1425)を検出した。この井戸は掘方の径約3mを測る大規模なもので、深さは現状で約2.5m、海拔-1.25mに達している。径60cmほどの広葉樹を削り抜いた井戸枠を埋設した後、その上部の外側に円礫を敷き、その付近から上を板材で方形に囲んでいる。削り抜きの井戸枠の外側からは木札が井戸枠に沿って出土した。この木札は現状で長さ52.4cm、幅約4cm、厚さ2.0cmの針葉樹の板材で、木札上部は焼損、両側縁は欠損している。表裏両面に「都」「友」「田」などの字が繰り返し墨書きされており、習書木簡と考えられる。また、井戸の最上層からは石製模造品かとも思われる不明石製品2点、垂飾状の石製品1点が出土している。微高地の岬状に突出した末端という特異な位置やこうした石製品の存在から何らかの祭祀に関わる井戸である可能性もある。時期を判定する材料に乏しいが、円礫とともに出土した須恵器片から奈良時代のものとおもわれる。この井戸のある微高地末端以南は大きく落ち込んで低湿地状になっており、その中の小流路状部分からは堰状の構造物が壊れたような杭列と加工木の集積が出土した。

なお、船橋調査区の一部は用地買収が間に合わず、調査は次年度以降に持ち越しとなった。

まとめ　今回の調査で弥生時代以降の遺構群が予想以上に南に展開することが確認された。特に古代段階には、かなり広い範囲に比較的整然とした建物群が存在していると思われる。調査区が微高地縁辺に沿うような形のトレンチであるため遺跡を構造的に把握することが困難で、また時期的な変遷も十分に押さえられなかつたが、こうした問題を今後の遺物等の整理、近隣の調査の課題としたい。

注

(1) 大谷猛・正岡睦夫・枝川陽 1974 「川入遺跡の調査」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』第2集

岡山県教育委員会

柳瀬昭彦・江見正己・中野雅美 1977 「上東・川入」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』16 岡山県教育委員会

妹尾住田遺跡

所在地 岡山市妹尾字上寺1180番地
調査原因 市営住宅建設(ガス庫・ゴミ収集所)
時代 繩紋時代～中世

調査期間 000526～000620
調査面積 36.9m²
担当者 草原孝典

遺跡の概要 妹尾住田遺跡は、早島丘陵の東端の小丘陵の裾部に位置するが、この景観は近世の干拓以降のものであり、中世以前は内海が広がっており、海浜部の遺跡であった。市営住宅本体部の発掘調査では、10世紀の官衙的配置の建物群や、多くの縄文陶器を出土した遺構面が確認されており、妹尾地域の歴史的意味を考える上で重要な成果を得ることができた。そのほか、12世紀後半から14世紀の集落跡もその上面にはあり、遺構の密度は高い。しかし、遺構の配置や出土遺物からは、一般的な集落であったと思われる。

調査の概要 本体部の北側に計画されたガス庫とゴミ収集所部分の調査で、前者からは中世の遺構面、後者からは中世と古代の遺構面が検出された。ガス庫調査区は、遺跡背後の丘陵端部の斜面部にあたり、長さ2mほどの自然石の周囲を掘り下げる多量のかわらけを投棄していた。本体部の調査区北東端部でもかわらけが層的に集積していたことから、自然石の周辺に少なくとも径10mほどの範囲で、かわらけ溜りが形成されているのもと考えられる。

ゴミ収集所調査区では、中世に属する柱穴と、古代の溝が検出された。古代の溝は10世紀の官衙的配置の建物群を囲む溝の一部と考えられ、少なくともこの溝は丘陵裾部までとりついていたことが確認された。

このほか、敷地北西部で駐車場として遺構面が保存される部分では、予想したよりも遺構面のレベルが高かったために、表土造成の際に遺構面が露出した箇所があった。それ以下の掘削をおこなわないよう確認し、露出した遺構を最小限の調査をおこなって記録し、埋め戻した。

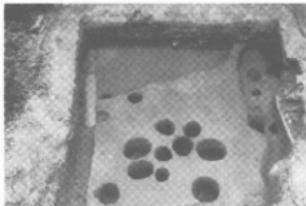
この部分では、礎石の抜き取り穴を検出し、本体調査区で一部検出した建物の北西コーナー付近と考えられた。したがって、10世紀の官衙的配置の建物群の中心建物は、L字形に2棟配置されていたといえる。



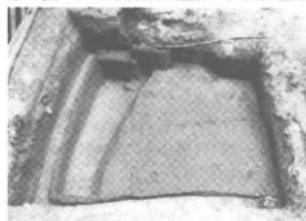
第1図 調査地点



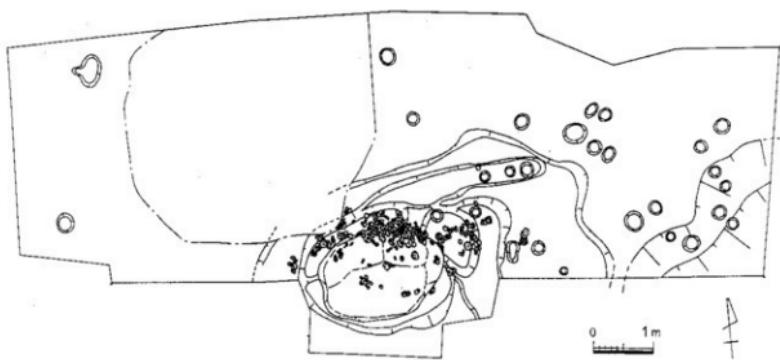
第2図 ガス庫調査区（C区）



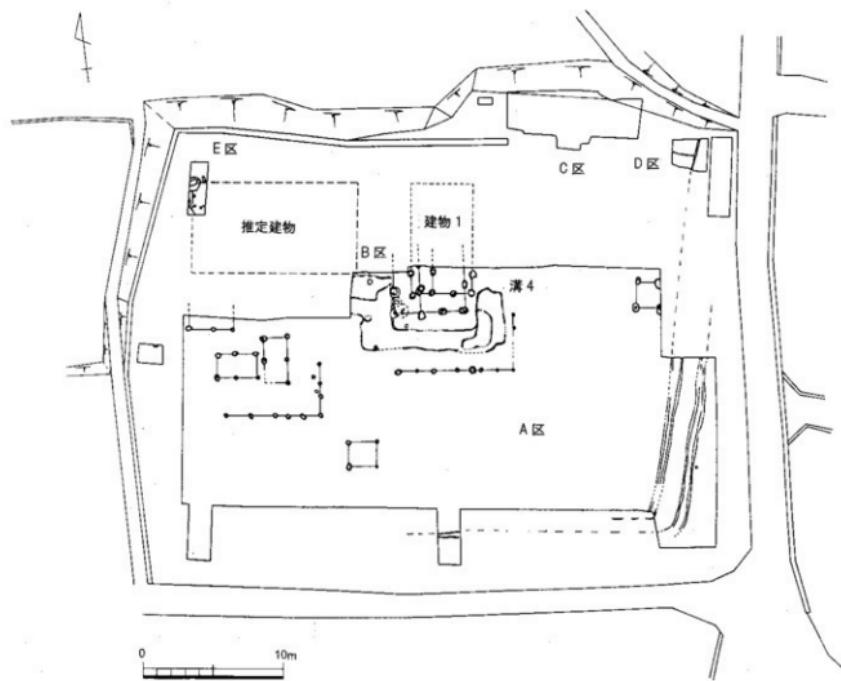
第3図 ゴミ収集所調査区（D区）上層



第4図 ゴミ収集所調査区（D区）下層



第5図 ガス庫(C区)遺構配置



第6図 9・10世紀遺構全体図

足守深茂遺跡

所在地 岡山市足守2168-1ほか

調査原因 済化センター建設

時代 繩文時代～中世

調査期間 001106～010330

調査面積 2626m²

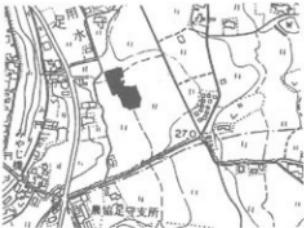
担当者 宇垣匡雅・高橋伸二

遺跡の概要 足守深茂遺跡は足守川中流域の東岸の丘陵端部に位置している。この遺跡の周辺を含む足守地城は京都神護寺に伝わる「備中国足守庄絵図」に描かれている景観が良好に残されており、過去にもすくも山遺跡をはじめ足守庄関連遺跡などの調査も行われた。当該地は絵図にも残る八幡山の北側に位置しており、莊園関連の遺構や試掘調査の結果から集落の存在が予想された。

調査の概要 莊園に関連する遺構は中世の水田と溝が検出された。この水田は2面確認されたが上層水田は概ね中世後半、下層水田は中世前半の時期である。この水田に伴う溝は数次にわたって改修されながら使用されており、護岸の杭列群や溝から水田への導水に使用された木樋なども検出された。

さらに下層の基盤土の上面では、一部古墳時代以前のものも含め弥生時代の溝、貯藏穴などの土坑、柱穴群、小ピット群、竪穴住居跡などが検出されたほか、繩文時代後期から晩期の溝、土坑などが検出された。調査地は北側から南側に緩く傾斜しており、調査区南端の低地部をはじめ調査区のほぼ全域から繩文土器が検出されたが、明確な遺構を検出しえないものも多い。

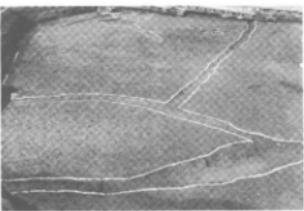
まとめ 今回の調査は莊園内の水田や灌漑施設を検出し、さらに縄文から弥生時代の集落の一端をとらえることができた。当該地は縄文後・晩期をはじめ弥生時代の遺構も前期から後期までほぼ全時期のものが検出されており拠点集落であったと考えられる。



第1図 調査地点



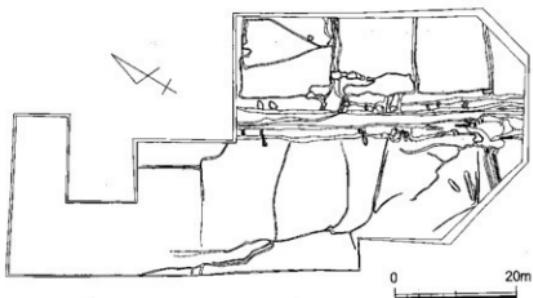
第2図 上層水田



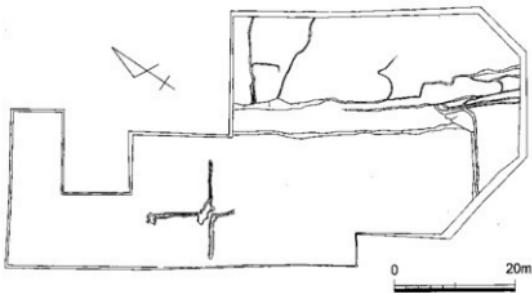
第3図 基盤上面（調査区南東部）



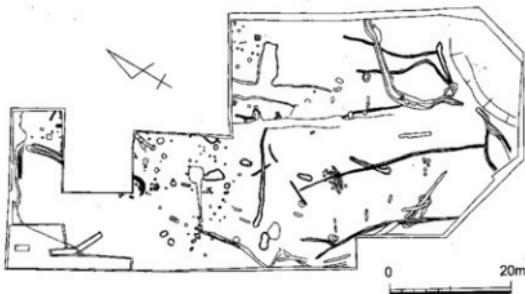
第4図 基盤上面（調査区中央部）



第5図 上層水田



第6図 下層水田



第7図 基盤面

岡山城本丸石垣解体修理

所在地 岡山市丸の内
調査原因 史跡整備
時代 近世

調査期間 000901~010331
修理面積 267m²
担当者 乗岡 実

遺跡の概要 近世城郭としての岡山城の基本構造を造ったのは宇喜多秀家で、慶長2年(1597)に完成したと伝わるが、以後の城主の小早川秀秋や池田氏も整備改造を行った。本丸は旭川の西岸にあり、天守のある本段、西に一段下がった中の段、それらを取り巻く下の段からなり、国指定史跡 岡山城跡の中核部をなす。平成4年度から史跡整備を目指しての発掘調査を実施してきたが、平成11年度からは三か年計画で傷みの激しい中の段の南西石垣の解体修理を行っている。平成12年度は石垣を本格的に解体し、併せて石垣背後の構造や石材などを調査した。

調査の概要 修理対象の石垣はほぼ南北に延び、天端長は約37mある。南は入角を隔てて大納戸櫓の橹台石垣に続いており、必然的にこの橹台の北辺上部にも解体作業が及ぶ結果となった。石垣の現状高は9m余りであるが、下部は構築以降の数次の造成土で埋まっており、本来の高さは10.8mあり、立ち上がりの角度は50~57度である。

石材は主に花崗岩で、自然石もしくはそれを僅かにハツって整えたもので、最大で幅1.5m級、平均的ななもので幅0.6~0.8mである。先年の中の段の発掘調査で、この石垣の背後12mほどの位置で宇喜多秀家時代の高石垣が埋め込まれていることが確認されており、また北端の入角では池田忠雄期の割石積み石垣に覆われることから、17世紀初頭の小早川秀秋から池田忠雄期の石垣と判断できる。

解体中の知見として、裏込の及ぶ範囲が築石裏敷数十cmと予想外に薄い事や、背後の造成土に粗砂層部があることが判り、こうした構造的な弱点が孕み出しの一因であると展望できた。また、築石は花崗岩主体とはいへ岩石学的特徴にバラツキがあり、各地からの寄せ集め材とみられ、海岸部での転石採集であることを示す、力



第1図 位置図



第2図 石垣北部



第3図 石垣南部



第4図 石垣の裏込

キ殻が付着したものも1点だけであるが検出できた。さらに、石垣の上方の三分の一程度とそれ以下では細部構造が異なり、上部は下部に対して積み直しを受けた結果の可能性が強いことも窺えた。すなわち、下部は、復元される立ち上がり断面が直線で、築石は小口を石垣面に向けて横に置き、裏込は大きめの角礫を主体に円礫部もあるのに対し、上部は立ち上がり断面がやや急に変化し、築石に立石を含んで、裏込は円礫だけである。先年の中の段の発掘調査では、この修理石垣と背中合わせに4mほど隔てて組み合う城内側の低石垣が、新古二列ある事が判っており、今回の知見と整合する。下部は小早川秀秋期、上部は池田忠継期の補修部と展望できよう。

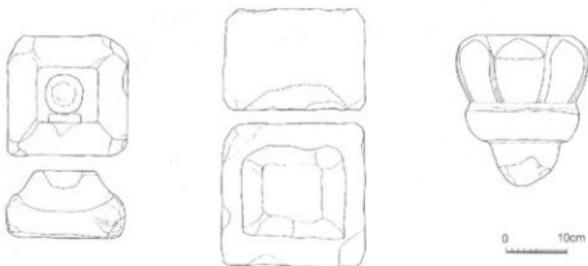
古い部分に属す石垣半ばの中位では、豊島石の宝篋印塔材やコゴメ石の五輪塔材が合計3個、裏込として投入されていた。また、石垣背後の造成土では粗密をもちらながら瓦片が散見されたが、石垣の積み直し部分に対応する大納戸櫓の櫓台上部の造成土からは、まとまった量の瓦が出土した。



第5図 解体中の石垣(北から)



第6図 石垣中位の解体



第7図 裏込出土の石造物(1／8)

左：コゴメ石の五輪塔火輪 中：豊島石の五輪塔地輪？ 右：豊島石の宝篋印塔(諸花)

第8圖 構造石垣各圖 (1 / 160)

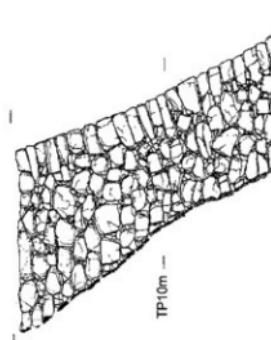
大船戸構造台北面



TP 5m —

断面B

断面A



TP 10m —

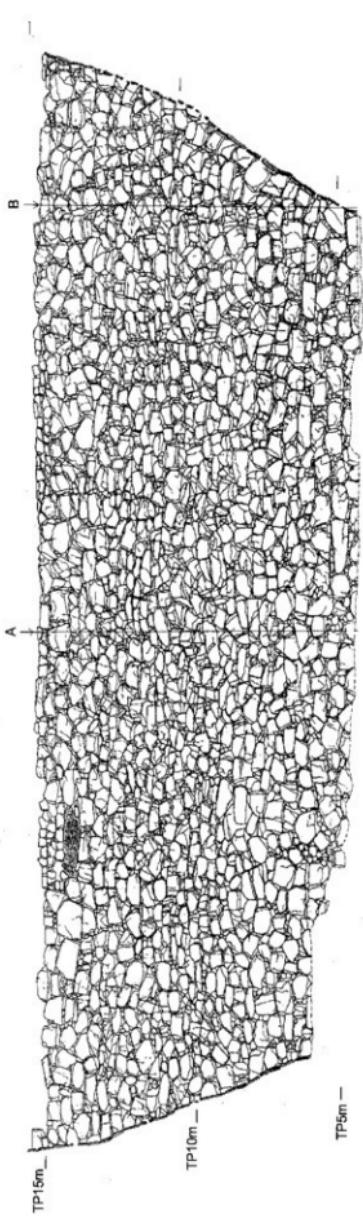


TP 15m —

TP 10m —

TP 5m —

立面



TP 15m —

TP 10m —

TP 5m —

A — B

III. 埋蔵文化財関連の協議と調整

埋蔵文化財の協議は文化財課において、日常業務として、開発行為事前指導時および建築確認申請時による埋蔵文化財の存在状況に関する助言指導を行う。その内容・協議次第では立会・確認調査・試掘調査・設計変更等を要請し、最終手段として発掘調査を計画・実施する。

ほとんどは、口頭によるお願ひとメモを残す程度であるが、現地踏査・試掘確認を実施する場合は、「埋蔵文化財等の存在状況確認調査について」を申請してもらい、その結果を通知する。そして、その後の協議を始点としている。

2000年度の「埋蔵文化財等の存在状況確認調査」の申請件数は24件。内訳は、現地踏査11件、試掘対応13件であった。実際に試掘調査を実施したのは、民間事業9件、公共事業3件であった。そのなかで包蔵地を確認し、遺跡と認定されたのは10件である。また、建築確認申請時に132件の相談があり、立会に対応したのは54件であった。

それらの協議を経て、岡山市教育委員会で取り扱った埋蔵文化財発掘の届出・通知等(直當分を含む)の一覧は以下の通りである。一覧は文化財課受付において年度の区分をしている。

| | |
|----------------------|----------------|
| 埋蔵文化財発掘の報告(第58条の2) | 5件 |
| 埋蔵文化財発掘の届出(第57条の1) | 6件 |
| 埋蔵文化財発掘の届出(第57条の2) | 29件 |
| 埋蔵文化財発掘の届出(第57条の3) | 40件 |
| 遺跡発見の届出・通知(第57条の5・6) | 1件 |
| 史跡の現状変更許可の通知(第80条) | 24件 |
| 埋蔵文化財試掘調査・確認調査報告 | 12件 |
| 埋蔵文化財認定・発見通知 | 10件(認定4件・通知6件) |

このほか、市域内での発掘調査として以下の遺跡がある。詳細は「岡山県埋蔵文化財報告31」(岡山県教育委員会2001年)に紹介されている。

- ・百間川原尾島遺跡(旭川改修に伴う発掘調査)
- ・高松田中遺跡(岡山自動車道4車線化に伴う発掘調査)
- ・津島遺跡(岡山県陸上競技場改修に伴う発掘調査)
- ・川入遺跡ほか(一般県道吉備津松島線道路改築に伴う発掘調査)
- ・岡山城二の丸跡(県立図書館建設に伴う発掘調査)

埋蔵文化財発掘の通知(第58条の2第1項)

(5件)

| 遺跡の名称 | 遺跡の種類 | 所在地 | 工事の目的 | 面積 | 工事期間 | 氏名・機関 | 住 所 | 遺跡の時代 | 受付年月日 |
|-----------|---------|---------------|------------------------------------|--------------------|-------------------|---------------------|--------------|--------------|----------|
| 金蔵山古墳 | 古墳 | 岡山市沢田1062 | 自然崩壊 | 1m ² | 20000509～20000518 | 岡山市教育委員会 教育長戸村彰孝 | 岡山市大供1丁目1番1号 | 古墳 | 20000509 |
| 鉢尾住田遺跡 | 集落跡・官衙跡 | 岡山市鉢尾字上寺1180番 | 集合住宅 | 36.9m ² | 20000526～20001031 | 岡山市教育委員会 教育長戸村彰孝 | 岡山市大供1丁目1番1号 | 平安・平 安・中世 | 20000526 |
| 原尾島遺跡 | 集落跡 | 岡山市藤原光町1-5-5 | 集合住宅 | 17.4m ² | 20000605～20010331 | 岡山市教育委員会 教育長戸村彰孝 | 岡山市大供1丁目1番1号 | 弥生・古 墳 | 20000608 |
| ハガ(高島小)遺跡 | 集落跡・官衙跡 | 岡山市国府市場167-1他 | 学校 | 1178m ² | 20000626～20010331 | 岡山市教育委員会 教育長戸村彰孝 | 岡山市大供1丁目1番1号 | 平安・中 世 | 20000626 |
| 足守深茂遺跡 | 集落跡 | 岡山市足守2168-1ほか | 上下水道(足 守浄化セン ターハ下水処理 場建設) | 2626m ² | 20001113～20010331 | 岡山市教育委員会 教育長戸村彰孝 | 岡山市大供1丁目1番1号 | 弥生 | 20001116 |

第57条第1項

(6件)

| 遺跡の名称 | 遺跡の種類 | 所在地 | 工事の目的 | 面 積 | 工事期間 | 指導事項 | 氏名・機関 | 住 所 | 遺跡の時代 | 受付年月日 | |
|--------|-------|---------------|-----------------|-----------------------|-------------------|------------------------|----------------|---------------------------|----------------------------------|----------|--|
| 津島遺跡 | 散布地 | 岡山市津島東4丁目255 | 学校 | 2569.94m ² | 20000821～20010331 | 学校法人加計 発掘調査 加計 勉 | 岡山市理大 町1-1 | 織文・弥生・ 吉墳・奈良・ 平安・中世 | 20000628 | | |
| 鹿田遺跡 | 集落跡 | 岡山市鹿田町4丁目5番1号 | その他建物 (病院) | 1,410m ² | 20000901～20010331 | 発掘調査 | 岡山大学長 河野伊一郎 | 岡山市津島 中1丁目1番1号 | 織文・弥生・ 吉墳・奈良・ 平安・中世 | 20000724 | |
| 鹿田遺跡 | 集落跡 | 岡山市鹿田町2丁目5番1号 | その他建物 (病院) | 517m ² | 20001101～20010331 | 慎重工事 | 岡山大学長 河野伊一郎 | 岡山市津島 中1丁目1番1号 | 織文・弥生・ 吉墳・奈良・ 平安・中世 | 20000927 | |
| 津島同大遺跡 | 集落跡 | 岡山市津島中3丁目1番1号 | 学校 | 35m ² | 20011204～20012129 | 慎重に発 掘調査 | 岡山大学長 河野伊一郎 | 岡山市津島 中1丁目1番1号 | 織文・弥生・ 吉墳・奈良・ 平安・中世・ 近世 | 20001102 | |
| 津島同大遺跡 | 集落跡 | 岡山市津島中3丁目1番1号 | その他建物 (ポンプ構) | 20m ² | 2001126～20020330 | 慎重に発 掘調査 | 岡山大学長 河野伊一郎 | 岡山市津島 中1丁目1番1号 | 織文・弥生・ 吉墳・奈良・ 平安・中世・ 近世 | 20001226 | |
| 津島同大遺跡 | 集落跡 | 岡山市津島中1丁目1番1号 | 学校(本部棟 新設) | 1,334m ² | 20010319～20010830 | 慎重に発 掘調査 | 岡山大学長 河野伊一郎 | 岡山市津島 中1丁目1番1号 | 織文・弥生・ 吉墳・奈良・ 平安・中世・ 近世 | 20010216 | |

第57条の2第1項

(29件)

| 遺跡の名称 | 遺跡の種類 | 所 在 地 | 工事の目的 | 面 積 | 工事期間 | 指導事項 | 氏名・機関 | 住 所 | 遺跡の時代 | 受付年月日 |
|--------------------|------------------|-------------------------------|--------------|----------------------|-------------------|------|-------------------------------|---------------------|------------------------|----------|
| 岡山城跡 | 城館跡 | 岡山市石鶴町5-167他 | 店舗 | 97.86m ² | 20000508～20000831 | 工事立会 | 矢部孝 | 岡山市石鶴町5-15 | 近世 | 20000418 |
| 雄町遺跡 | 集落跡 | 岡山市雄町264-1他5箇 | 店舗(増築工 事) | 175.97m ² | 20000520～20000715 | 工事立会 | 岡崎バス株式会 社取締役社長 小堀光信 | 岡山市西大寺 上1丁目1番50号 | 弥生 | 20000426 |
| 北方地蔵遺跡 | 集落跡・生 産遺跡(水田) | 岡山市大和町2丁目297番3 | 個人住宅 | 86.19m ² | 20000530～20000930 | 工事立会 | 加地充昌 | 岡山市南部5-4-2 403号 | 弥生・古 墳・奈良・ 平安・中世 | 20000428 |
| 三野宮之段遺跡 | 散布地 | 岡山市三野1丁 目215-2番地先 ～7番地先 | 送電用管路の 埋設 | 79.0m ² | 20000515～20000531 | 工事立会 | 中国電力株式会 社岡山支店取締 役支店長牧征雄 | 岡山市内山下1 丁目11番1号 | 中世 | 20000502 |
| 原尾島遺跡・生 産遺跡(水田) | 集落跡・生 産遺跡(水田) | 岡山市原尾島 714-6, 714-7 | 個人住宅 | 581.91m ² | 20000501～20010228 | 工事立会 | 千原宗敬 | 岡山市原尾島 1-8-1 | 弥生・古 墳 | 20000404 |

| 遺跡の名称 | 遺跡の種類 | 所 在 地 | 工事の目的 | 面 積 | 工事期間 | 指導事項 | 氏名・機関 | 住 所 | 遺跡の時代 | 受付年月日 |
|---------------------|----------------------|---|-------------------|-----------------------------|-----------------------|-----------------|--|-----------------------------|------------------------------|----------|
| 幡多寺跡 | 社寺跡 | 岡山市赤字田塔ノ東15番6 | 個人住宅 | 225.12m ² | 20000701~2001231 | 工事立会 | 柴山芳久 | 岡山市津島東4丁目7-21 | 弥生・奈良・平安 | 20000515 |
| 原尾島遺跡 | 集落跡 | 岡山市麻原光町1-5-5 | 集合住宅 | 304.57m ² | 20000605~20010331 | 発掘調査 (浄化槽部分) | 農林漁業企賃公庫 式会社岡山支店長 大塚政敏 | 岡山市麻星町9-18-401 | 弥生・古墳 | 20000516 |
| 庭瀬川崎遺跡 | 集落跡 | 岡山市庭瀬430番地 | 通信設備関係 (電信柱設置) | 0.21m ² | 許可~20000720 | 工事立会 | 西日本電信電報株 式会社岡山支店長 朝上一紀 | 岡山市中山下2丁目1-90 | 弥生・中世 | 20000614 |
| 津島遺跡 | 散布地 | 岡山市津島東4丁目2445-4 | 集合住宅 | 207.75m ² | 20000801~20010131 | 工事立会 | 川田美男 | 岡山市津島東4丁目7-48 | 弥生 | 20000627 |
| 津島遺跡 | 散布地 | 岡山市津島東4丁目2525 | 学校 | 269.94m ² | 20000821 | 工事着手 前発掘調査 | 学校法人加計学園 前田長 加計始 | 岡山市理大町1-1 | 織文・弥 生・古墳 奈良・平 安・中世 | 20000628 |
| 津島遺跡 | 生産遺跡 (水田) | 岡山市学南町2丁目139-20 | 店舗 | 191.76m ² | 20000719~20001130 | 工事立会 | エヌズコーヒー ショパン有限公司 代表取締役藤井尚智 | 赤磐郡麻生町 板が丘東2丁目 2番地の19 | 弥生・古 墳・奈良・平 安 | 20000629 |
| 国府遺跡 | 集落跡・官 衙跡 | 岡山市中井284-6 | 個人住宅 | 218m ² | 20000801~20010124 | 工事立会 | 山縣成日 | 岡山市坂園551-2 | 弥生・古墳 | 20000629 |
| 津島遺跡 | 散布地・生 産遺跡 (水田) | 岡山市学南町2丁目205-1、 206-1、206-2 | 店舗 | 1244.57m ² | 20000912~20011030 | 工事立会 | 株式会社さか らーく代表取締 役野亮 | 東京都武蔵野 市西久保1丁目 25番8号 | 弥生 | 20000717 |
| 岡山城二の丸 城跡 | 城館跡 | 岡山市表町1丁目104 | 集合住宅 | 92.9m ² | 20000817~20010531 | 工事立会 | 株式会社熊谷組 山曾業所 田中宏治 | 岡山市本町9番 18号 | 近世 | 20000801 |
| 岡山城跡 (伝伝本丸 跡) | 城館跡 | 岡山市丸の内2丁目9-1 | その他建物 (病院) | 5065.22m ² | 20001010~20011030 | 工事立会 | 医療法人社団十全 会心臓病センター 櫛原病院理事長 櫛原宣 | 岡山市丸の内2 丁目1番10号 | 近世 | 20000824 |
| 津島遺跡 | 生産遺跡 (水田) | 岡山市津島新 野1丁目977-1、 977-6 | 集合住宅 | 340.44m ² | 20000918~200102未 定 | 工事立会 | 有限会社カネツ取 締役 樋口ヒヂ | 岡山市谷万成2 丁目6番22号 | 弥生 | 20000828 |
| 津島遺跡 | 集落跡・生 産遺跡 (水田) | 岡山市学南町2 丁目756-1、 756-4、756-5 | 集合住宅 | 670.31m ² | 20001001~20010320 | 工事立会 | 森川憲代 | 赤磐郡瀬戸町 尾ヶ丘3-18 | 弥生 | 20000901 |
| 神宮寺山古 墳 | 古墳 | 岡山市中井町1-701-1、 702、703-1の一 部、703-2の一 部 | 集合住宅 | 609.38m ² | 20001106~20010315 | 工事立会 | 辻恭介 | 岡山市中井町1 丁目5-41 | 古墳 | 20001010 |
| 津倉遺跡 | 散布地 | 岡山市津倉2丁 目5番6号ほか | 集合住宅 | 640.49m ² | 20001130~20010331 | 工事立会 | 内田牧子 | 岡山市津倉町2 丁目5番31号 | 弥生 | 20001019 |
| 津島南遺跡 | 散布地 | 岡山市津島南1 丁目1100-5 | 集合住宅 | 107.92m ² | 20001201~20010330 | 工事立会 | 宇野千鶴 | 岡山市津島南1 丁目5-8-1 | 弥生 | 20001106 |
| 津島遺跡 | 生産遺跡 (水田) | 岡山市津島福 居1丁目2075-9 | 集合住宅 | 231.52m ² | 20001201~20010312 | 工事立会 | 羅波英純 | 岡山市津島福 居1丁目14-38 | 弥生 | 20001116 |
| 絵岡町遺 跡・南方遺 跡 | 集落跡・生 産遺跡 (水田) | 岡山市固体町 75番24 | 学校 (グラン K) | 13,335.5 2m ² | 20001204~ 20010120 | 工事立会 | 学校法人古柳学園 理事長 井尻昭夫 | 岡山市学南町2 丁目10番1号 | 弥生・古 墳・奈良・平 安・中世 | 20001127 |
| 岡山城二ノ 丸遺跡 | 城館跡 | 岡山市内下1 丁目13-102 | 個人住宅 | 20.40m ² | 20010209~ 20010531 | 工事立会 | 板屋新次 | 岡山市内下1 丁目13-2 | 近世 | 20010110 |
| 広瀬遺跡 | 集落跡 | 岡山市広瀬町 219-1 | 個人住宅 | 71.56m ² | 20010315~ 20010330 | 工事立会 | 山下浩一 | 岡山市広瀬町 8-17 | 弥生・平 安・中世 | 20010118 |
| 津島遺跡 | 集落跡・生 産遺跡 (水田) | 岡山市伊福町3 丁目68番6 | 個人住宅 | 82.74m ² | 20010210~ 20010710 | 工事立会 | 小谷康博 | 岡山市伊福町2 丁目32-22 | 弥生 | 20010124 |
| 絵岡町遺跡 | 集落跡 | 岡山市絵岡町 1411-25 | 集合住宅 | 86.57m ² | 20010310~ 20010731 | 工事立会 | 伊藤憲治 | 笠岡市神島 3461 | 弥生 | 20010209 |
| 岡山城二ノ 丸遺跡 | 城館跡 | 岡山市丸の内1 丁目5-101 | その他建物 (映画館) | 433.29m ² | 20010315~ 20010630 | 工事立会 | 有限会社シネマ クレール取締役 浜田高夫 | 岡山市石闇町1 番3号 | 近世 | 20010226 |
| 赤東遺跡 | 集落跡 | 岡山市赤字田 下中田167-16 | 個人住宅 | 186.22m ² | 20010420~ 20010820 | 工事立会 | 安田寛治郎 | 赤磐郡麻生町3-6- 19 | 弥生 | 20010307 |
| 北方遺跡 | 集落跡 | 岡山市北方1丁 目665番1 | 事務所建設 | 373.71m ² | 20010605~ 20011001 | 工事立会 | ㈱サカエ 代表取 締役社長 吉田雄三 | 倉敷市米田町 803番地 | 弥生 | 20010316 |

第57条の3 第1項

(40件)

| 遺跡の名称 | 遺跡の種類 | 所在地 | 工事の目的 | 面 積 | 工事期間 | 指導事項 | 氏名・機関 | 住 所 | 遺跡の時代 | 受付年月日 |
|------------|-----------------|-------------------------------|------------------|-------------------------|-----------------------|-------------------|--------------------|---------------|----------------------|----------|
| 坪井北遺跡・奥坂遺跡 | 散布地 | 岡山市山田1521-3地先～大内田461-3地先 | 上下水道 | 794.2 m ² | 200005末～ | 工事立会 | 岡山市水道事業管理者水道局長遠藤嘉昭 | 岡山市鹿田町2丁目1番1号 | 弥生 | 20000417 |
| 津島遺跡 | 散布地 | 岡山市津島福原1丁目2109-1～2281-1番地 | 下水道 | 352.7 m ² | 200005上旬～20001130 | 工事立会 | 岡山市長萩原誠司 | 岡山市大供1丁目1番1号 | 弥生・古墳 | 20000426 |
| 津島遺跡 | 集落跡・生産跡 (水田) | 岡山市津島福原1丁目2139-2～2119-3番地先 | 下水道 | 282 m ² | 200005上旬～20001130 | 工事立会 | 岡山市長萩原誠司 | 岡山市大供1丁目1番1号 | 弥生・古墳 | 20000426 |
| 津島遺跡 | 散布地 | 岡山市宇南町3丁目326-6番地先～341-1番地 | 下水道 | 526 m ² | 200005上旬～20001130 | 工事立会 | 岡山市長萩原誠司 | 岡山市大供1丁目1番1号 | 弥生・古墳 | 20000426 |
| 津島遺跡 | 散布地 | 岡山市宇南町2丁目816-2番地～3丁目949-1番地 | 下水道 | 551 m ² | 200005上旬～20001130 | 工事立会 | 岡山市長萩原誠司 | 岡山市大供1丁目1番1号 | 弥生・古墳 | 20000426 |
| 津島遺跡 | 散布地 | 岡山市津島新野1丁目965-3番地～976-8番地 | 下水道 | 301 m ² | 200005上旬～20010228 | 工事立会 | 岡山市長萩原誠司 | 岡山市大供1丁目1番1号 | 弥生・古墳 | 20000426 |
| 天瀬遺跡 | 集落跡・生産跡 (水田) | 岡山市天瀬2-10番地先～天瀬8-8 | 水管配管工事 | 107.13 m ² | 20000508～20010225 | 工事立会 | 岡山市水道事業管理者水道局長遠藤嘉昭 | 岡山市鹿田町2丁目1番1号 | 弥生・古墳 | 20000502 |
| 吉備律杉尾西遺跡 | 散布地 | 岡山市吉備律杉尾西8-1番・吉備津宇奥田227-3 | 上下水道 | 10,823.6 m ² | 20000703～3rd 20000731 | 立会及び工事着手前の試掘・発掘調査 | 岡山市水道事業管理者水道局長遠藤嘉昭 | 岡山市鹿田町2丁目1番1号 | 古墳 | 20000511 |
| 大供中道遺跡 | 散布地 | 岡山市大供1丁目5-25～大供1丁目5-16 | 上下水道(配水管布設工事) | 73.36 m ² | 20000601～20000728 | 工事立会 | 岡山市水道事業管理者水道局長遠藤嘉昭 | 岡山市鹿田町2丁目1番1号 | 弥生・古墳 | 20000515 |
| 岡山城二ノ丸遺構 | 城郭跡 | 岡山市内山下1丁目2-1地先～内山下1丁目8-6地先 | 上下水道(配水管布設工事) | 190.2 m ² | 20000601～20000728 | 工事立会 | 岡山市水道事業管理者水道局長遠藤嘉昭 | 岡山市鹿田町2丁目1番1号 | 近世 | 20000515 |
| 妹尾住田遺跡 | 集落跡・貝塚 | 岡山市妹尾字上寺118番地 | 市営住宅 | | 20000630～ | 工事着手前発掘調査 | 岡山市教育委員会教育長戸村彰季 | 岡山市大供1丁目1番1号 | 平安・中世 | 20000523 |
| 津島遺跡 | 集落跡・生産跡 (水田) | 岡山市津島中3丁目～津島東2丁目 | 下水道 | 37.97 m ² | 200009中旬～20010331 | 工事立会 | 岡山市長萩原誠司 | 岡山市大供1丁目1番1号 | 弥生・古墳・奈良・平安・中世 | 20000629 |
| 高松沼田遺跡 | 集落跡 | 岡山市高松原古才275番地～278番地 | 道路 | 260.0 m ² | 20000720～2001031 | 工事立会 | 岡山市長萩原誠司 | 岡山市大供1丁目1番1号 | 弥生・古墳 | 20000704 |
| 庵田遺跡 | 集落跡 | 岡山市庵田町2丁目5番1号 | その他建物(病院) | 1,410 m ² | 20010601～20020831 | 工事着手前発掘調査 | 岡山大学長河野伊一郎 | 岡山市津島中2丁目1番1号 | 彌文・弥生・古墳・奈良・平安・中世 | 20000724 |
| 岡山城二ノ丸遺構 | 城郭跡 | 岡山市京橋町1-6地先～6-11地先 | 上下水道(100m水道埋設工事) | 70.63 m ² | 20000810～20000930 | 工事立会 | 岡山市水道事業管理者水道局長遠藤嘉昭 | 岡山市鹿田町2丁目1番1号 | 中世・近世 | 20000726 |
| 広瀬遺跡・南方遺跡 | 散布地 | 岡山市番町1丁目1-1地先～広瀬町1-5地先 | 上下水道(配水管布設工事) | 350 m ² | 20000821～20010222 | 工事立会 | 岡山市水道事業管理者水道局長遠藤嘉昭 | 岡山市鹿田町2丁目1番1号 | 弥生 | 20000814 |
| 鹿田遺跡 | 集落跡 | 岡山市鹿田町2丁目5番1号 | その他建物(病院) | 517 m ² | 20030601～20040331 | 工事着手前発掘調査 | 岡山大学長河野伊一郎 | 岡山市津島中2丁目1番1号 | 彌文・弥生・古墳・奈良・平安・中世 | 20000927 |
| 雄町遺跡・国府遺跡 | 集落跡・生産跡 (水田) | 岡山市雄町、中井、高島東町 | 上下水道(水管布設・整備工) | 1958.4 m ² | 200101中旬～20040331 | 工事立会 | 岡山市長萩原誠司 | 岡山市大供1丁目1番1号 | | 20001010 |
| 上伊福遺跡 | 散布地 | 岡山市伊福町3丁目26-13地先～伊福町3丁目19-4地先 | 上下水道(配水管布設) | 104.15 m ² | 200011上旬～200003末 | 工事立会 | 岡山市水道事業管理者水道局長遠藤嘉昭 | 岡山市鹿田町2丁目1番1号 | 弥生 | 20000929 |
| 吉備津奥田遺跡 | 散布地・集落跡 | 岡山市加茂24-8地先～吉備津27-1地先 | 上下水道(水管管理設) | 667.7 m ² | 20001101～20010731 | 工事立会 | 岡山市水道事業管理者水道局長遠藤嘉昭 | 岡山市鹿田町2丁目1番1号 | 平安・中世 | 20001016 |
| 絵図遺跡 | 散布地・生産跡 (水田) | 岡山市清心町17-31地先～清心町17-20地先 | 上下水道(水管布設工事) | 120 m ² | 200011下旬～200103末 | 工事立会 | 岡山市水道事業管理者水道局長遠藤嘉昭 | 岡山市鹿田町2丁目1番1号 | 弥生 | 20001020 |
| 西祖遺跡 | 散布地 | 岡山市西祖214番地、215番地 | その他建物(下水道処理施設) | 320 m ² | 20001201～20011220 | 工事立会 | 岡山市長萩原誠司 | 岡山市大供1丁目1番1号 | 平安・中世 | 20001101 |
| 津島岡大遺跡 | 集落跡 | 岡山市津島中3丁目1番1号 | 学校 | 35 m ² | 20010110～20010820 | 工事着手前発掘調査 | 岡山大学長河野伊一郎 | 岡山市津島中2丁目1番1号 | 彌文・弥生・古墳・奈良・平安・中世・近世 | 20001102 |

| 遺跡の名称 | 遺跡の種類 | 所在地 | 工事の目的 | 面積 | 工事期間 | 指導事項 | 氏名・機関 | 住 所 | 遺跡の時代 | 受付年月日 |
|--------------|--------------|------------------------------------|----------------|--------------------------------|--------------------|---------------|------------------------|---------------|------------------------------|----------|
| 津島遺跡 | 散布地・生産遺跡(水田) | 岡山市学南町1丁目6-33番地～南2丁目2-33番地先 | 下水道(埋管布設) | 329m ² | 200101月中旬～20010328 | 工事立会 | 岡山市長 萩原誠司 | 岡山市大供1丁目1番1号 | 弥生・古墳 | 20001110 |
| 津島遺跡 | 散布地・生産遺跡(水田) | 岡山市学南町2丁目7-1番地～学南町2丁目9-10番地先 | 下水道(埋管布設) | 229.67m ² | 200101月中旬～20010328 | 工事立会 | 岡山市長 萩原誠司 | 岡山市大供1丁目1番1号 | 弥生・古墳 | 20001110 |
| 北方遺跡 | 集落跡 | 岡山市北方1丁目15-20番地先～北方3丁目8-33番地先 | 上下水道(配水管布設) | 163.30m ² | 200012中旬～200103中旬 | 工事立会 | 岡山市水道事業管理者水道局長 遠藤嘉昭 | 岡山市鹿田町2丁目1番1号 | 弥生・古墳 | 20001201 |
| 津島大遺跡 | 集落跡 | 岡山市津島中3丁目1番1号 | その他の建物(ポンプ場) | 20m ² | 20010126～20010330 | 工事着手前 発掘調査 | 岡山大学長 河野伊一郎 | 岡山市津島中1丁目1番1号 | 縄文・弥生・ 古墳・奈良・平安・ 中世・近世 | 20001226 |
| 津島遺跡 | 散布地・生産遺跡(水田) | 岡山市津島新野1丁目1-6番地先～津島新野1丁目3-3番地先 | 上水道(配水管布設) | 146.01m ² | 200101下旬～200106下旬 | 工事立会 | 岡山市水道事業管理者水道局長 遠藤嘉昭 | 岡山市鹿田町2丁目1番1号 | 弥生・古墳・ 奈良・平安・中世 | 20001226 |
| 高松沼田遺跡 | 集落跡 | 岡山市高松213-1番地先～高松214-4番地先 | 道路(市道高松福岡高松線) | 447.24m ² | 20010215～20010630 | 工事立会 | 岡山市長 萩原誠司 | 岡山市大供1丁目1番1号 | 弥生 | 20001227 |
| 吉備津久西遺跡 | 散布地 | 岡山市吉備津1016-5 | その他の建物(消防署) | 708.28m ² | 20010311～20010331 | 建築確認実査 | 岡山市長 萩原誠司 | 岡山市大供1丁目1番1号 | 弥生・古墳・ 奈良・平安・中世 | 20010109 |
| 岸島遺跡 | 散布地・生産遺跡 | 岡山市岸島福岡2丁目1-1番地～岸島東2丁目7-46番地先 | 下水道管布設・人孔配置 | 716.6m ² | 200101下旬～20011220 | 工事立会 | 岡山市長 萩原誠司 | 岡山市大供1丁目1番1号 | 弥生・古墳 | 20010110 |
| 庭瀬川崎遺跡 | 散布地 | 岡山市庭瀬字川崎142番地 | その他の建物(受水槽) | 28.5m ² | 200103上旬～20010330 | 工事立会 | 岡山市長 萩原誠司 | 岡山市大供1丁目1番1号 | 弥生 | 20010201 |
| 津島大遺跡 | 集落跡 | 岡山市津島中1丁目1番1号 | 学校(本館新築) | 1,334m ² | 20010321～20020930 | 工事着手前 発掘調査 | 岡山大学長 河野伊一郎 | 岡山市津島中1丁目1番1号 | 縄文・弥生・ 古墳・奈良・平安・ 中世・近世 | 20010216 |
| 庭瀬遺跡 | 集落跡 | 岡山市庭瀬町2丁目1番1号 | その他の建物(病院) | 12m ² | 20010222 | | 岡山大学長 河野伊一郎 | 岡山市津島中1丁目1番1号 | 縄文・弥生・ 古墳・奈良・平安・ 中世・近世 | 20010228 |
| 津島遺跡 | 散布地・生産遺跡(水田) | 岡山市学南町1丁目12-19番地～17-27番地先 | 下水道(污水管埋設) | 259m ² | 200103上旬～20011225 | 工事立会 | 岡山市長 萩原誠司 | 岡山市大供1丁目1番1号 | 弥生・古墳 | 20010307 |
| 津島遺跡 | 散布地・生産遺跡(水田) | 岡山市学南町2丁目12-19番地～3丁目13-21番地先 | 下水道(污水管埋設) | 496.01m ² | 200105上旬～20011130 | 工事立会 | 岡山市長 萩原誠司 | 岡山市大供1丁目1番1号 | 弥生・古墳 | 20010307 |
| 小吉台墓群 | その他の遺跡(遺台跡) | 岡山市小吉2200番地～2230番地 | 急傾斜削除 対策工事 | 1250m ² | 20010401～20020331 | 工事立会 | 岡山県岡山樹木園局 長池田敏弘 | 岡山市弓之町6-1 | 近世 | 20010312 |
| 津島遺跡 | 生産遺跡(水田) | 岡山市伊福町4丁目5番38号 | 事務所含増築 | 3444.36m ² (25.8af) | 20010415～20010831 | 工事立会 | 国土交通省中国地区整備局 | 岡山市美田町1番36号 | 弥生 | 20010315 |
| 古備津杉尾遺跡・奥田遺跡 | 散布地・集落跡・城跡 | 配水場(古備津字杉尾西9-1号)、ポンプ場(古備津宇美田227-3) | 上下水道(配水管・ポンプ場) | 別表 | 20020401～20040331 | 発掘調査 | 岡山市水道事業管理者水道局長 遠藤嘉昭 | 岡山市庭瀬町2丁目1番1号 | 弥生・古墳・ 奈良・平安・中世 | 20010323 |
| 川入・中撫川遺跡 | 散布地・集落跡 | 岡山市中撫川地内 | 上下水道(配水管布設工事) | 1021m ² | 200104下旬～20040331 | 構重工事 | 岡山市水道事業管理者水道局長 遠藤嘉昭 | 岡山市鹿田町2丁目1番1号 | 弥生・古墳・ 奈良・平安・中世 | 20010330 |

第57条の6 第1項

(1件)

| 遺跡の名称 | 遺跡の種類 | 所在地 | 工事の目的 | 面積 | 工事期間 | 指導事項 | 氏名・機関 | 住 所 | 遺跡の時代 | 受付年月日 |
|-------|-------|--------------|-------------|------------------|----------|--------------|--------------|--------------|-------|----------|
| 未命名 | 貝塚 | 岡山市西大寺一宮1369 | 土木工事中(道路改修) | 50m ² | 20000420 | 保存のために 配慮 | 岡山市長 萩原誠司 | 岡山市大供1丁目1番1号 | 中世 | 20000421 |

第80条第1項

(24件)

| 遺跡の名称 | 所在地 | 工事の目的 | 工事期間 | 指導事項 | 氏名・機関 | 住 所 | 遺跡の時代 | 受付年月日 |
|-------|--------|-------|-------------------|------------|--------------------|------------|-------|----------|
| アニモドキ | 地域を定めず | 一時捕獲 | 20000620～20000710 | 権限委任に基づき許可 | 岡山県水魚研究会会長 高畠卓雄 | 岡山市広瀬町2-54 | | 20000516 |

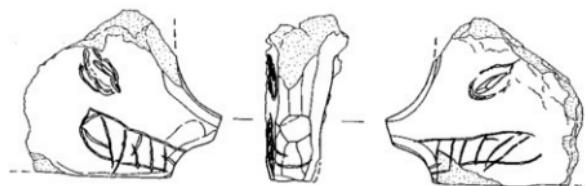
| 遺跡の名称 | 所 在 地 | 工事の目的 | 工事期間 | 指 専 事 項 | 氏 名・機 関 | 住 所 | 遺跡の時代 | 受付年月日 |
|-----------------|----------------------------------|--------------------------|-------------------|--|--------------------------------|---------------|-------|----------|
| 岡山城跡 | 岡山市丸の内2丁目3番1号 | 灯籠設置 | 許可日～20000520 | 権限委任に基づき許可 | 岡山市長萩原誠司 | 岡山市大供1丁目1番1号 | 近世 | 20000516 |
| 岡山後楽園及び史跡岡山城跡 | 岡山市後楽園 | 野外ステージ設置 | 許可日～20001231 | 許可（委保第4の475号） | 岡山県知事石井正弘 | 岡山市内山下2丁目4番6号 | 近世 | 20000518 |
| 岡山城跡 | 岡山市丸の内2丁目3-1 | 舞台等の設置 | 20000616～20000619 | 権限委任に基づき許可 | 岡山県知事石井正弘 実行委員会実行委員長 長崎司 | 岡山市大供1丁目1番1号 | 近世 | 20000526 |
| 岡山後楽園及び史跡岡山城跡 | 岡山市後楽園1番5号 | 照明器具の設置、地中紀録 | 許可日～20000715 | 権限委任に基づき許可 | 岡山県知事石井正弘 | 岡山市内山下2丁目4番6号 | 近世 | 20000608 |
| アユモドキ | 地域を定めず | 一時捕獲 | 許可日～20001231 | 権限委任に基づき許可 | 岡山県知事石井正弘 | 岡山市内山下2丁目4番6号 | | 20000605 |
| 岡山後楽園及び史跡岡山城跡 | 岡山市後楽園1番5号 | 照明装置と風鈴の設置及び撤去 | 許可日～20000821 | 権限委任に基づき許可 | 岡山県知事石井正弘 | 岡山市内山下2丁目4番6号 | 近世 | 20000717 |
| 岡山後楽園及び史跡岡山城跡 | 岡山市後楽園1番5号 | 案内板の設置 | 許可日～20000728 | | 岡山県 | 岡山市内山下2丁目4番6号 | 近世 | 20000713 |
| 岡山藩主池田家墓所附津田永忠墓 | 岡山市円山1083号 | 曹源寺境内の松並木帯の道側に防犯灯柱を6基設置 | 許可日～200010末 | 権限委任に基づき許可 | 岡山市円山境内町内会 会長武野萬 | 岡山市円山1070-14 | 近世 | 20000731 |
| タンチョウ | 岡山県 | 移動 | 許可日～90日以内 | 岡山県教育委員会の指示を受け下さい | 岡山県知事石井正弘 | 岡山市内山下2丁目4番6号 | | 20000103 |
| 岡山城跡 | 岡山市丸の内2丁目3番-901外 | おかげやま菊花大会 | 20001009～20001124 | 権限委任に基づき許可 | 岡山市長萩原誠司 | 岡山市大供1丁目1番1号 | 近世 | 20000908 |
| アユモドキ | 地域を定めず | 一時捕獲 | 許可日～20010331 | 権限委任に基づき許可 | 岡山県岡山地方振興局 局長池田敏弘 | 岡山市弓之町6-1 | | 20000914 |
| アユモドキ | 地域を定めず | 一時捕獲 | 許可日～20010331 | 権限委任に基づき許可 | 岡山市長萩原誠司 | 岡山市大供1丁目1番1号 | | 20001109 |
| アユモドキ | 地域を定めず | 一時捕獲 | 許可日～20010331 | 権限委任に基づき許可 | 岡山市長萩原誠司 | 岡山市大供1丁目1番1号 | | 20001109 |
| 津島遺跡 | 岡山市いずみ町 | | 許可日～20010331 | 権限委任に基づき許可 | 岡山県知事石井正弘 | 岡山市内山下2丁目4番6号 | 弥生 | 20001113 |
| タンチョウ | 岡山県 | 移動 | 許可日～90日以内 | 許可（岡山県教育委員会の指示を受けて下さい） | 岡山県知事石井正弘 | 岡山市内山下2丁目4番6号 | | 20001127 |
| 津島遺跡 | 岡山市いずみ町 | 仮設物の設置（ランニングコース・距離表示） | 20010121～20030930 | | 岡山県知事石井正弘 | 岡山市内山下2丁目4番6号 | 弥生 | 20001204 |
| 岡山後楽園及び史跡岡山城跡 | 岡山市後楽園1番5号 | 美術作品の設置と撤去 | 許可日～2001210 | 権限委任に基づき許可 | 岡山県知事石井正弘 | 岡山市内山下2丁目4番1号 | 近世 | 20001016 |
| 岡山後楽園及び史跡岡山城跡 | 岡山市後楽園1番5号 | | | 権限委任に基づき許可 | 岡山県知事石井正弘 | 岡山市内山下2丁目4番6号 | 近世 | 20001228 |
| 岡山後楽園及び史跡岡山城跡 | 岡山市後楽園1番5号 | 舎舎増築 | 許可日～20010331 | 達成・許可 20010316「12 委庁財第4の54 号」 | 岡山県知事石井正弘 | 岡山市内山下2丁目4番6号 | 近世 | 20001228 |
| 岡山城跡 | 岡山市丸の内2丁目3-904, 6-901, 6-2, 95-1 | 岡山城内堀淨化に伴う施設整備を遂行するため必要。 | 許可日～20010331 | | 岡山市長萩原誠司 | 岡山市大供1丁目1番1号 | 近世 | 20010109 |
| 岡山後楽園及び史跡岡山城跡 | 岡山市後楽園1番5号 | | 許可日～20010215 | 権限委任に基づき許可 | 岡山県知事石井正弘 | 岡山市内山下2丁目4番6号 | 近世 | 20010105 |
| 岡山後楽園及び史跡岡山城跡 | 岡山市後楽園1番5号 | タイムカプセル埋設 | 許可日～ | 達成・許可 20010316「12 委庁財第4の214号」 | 岡山県知事石井正弘 | 岡山市内山下2丁目4番6号 | 近世 | 20010216 |

資料紹介と研究ノート

林信男氏蒐集の考古資料II 塙輪

富原遺跡採集の瓦

南方(済生会)遺跡出土のサヌカイト製石器の使用痕



林信男氏蒐集の考古資料Ⅱ 墳輪

安川 滉

はじめに

今回は林信男氏が蒐集された考古資料のうち埴輪類を報告する。

林氏蒐集の埴輪資料はほかの考古資料同様、高松地区を中心とする採集品でこれまで調査例、報告例の少ない同地区的様相を知ることができる貴重な資料といえる。同地区は岡山市内でも全国第4位の規模を誇る造山古墳をはじめ大小数多くの古墳が集中する地域であり、この地区的埴輪群の様相は吉備中枢部の埴輪の様相を示しているものととらえることができる。

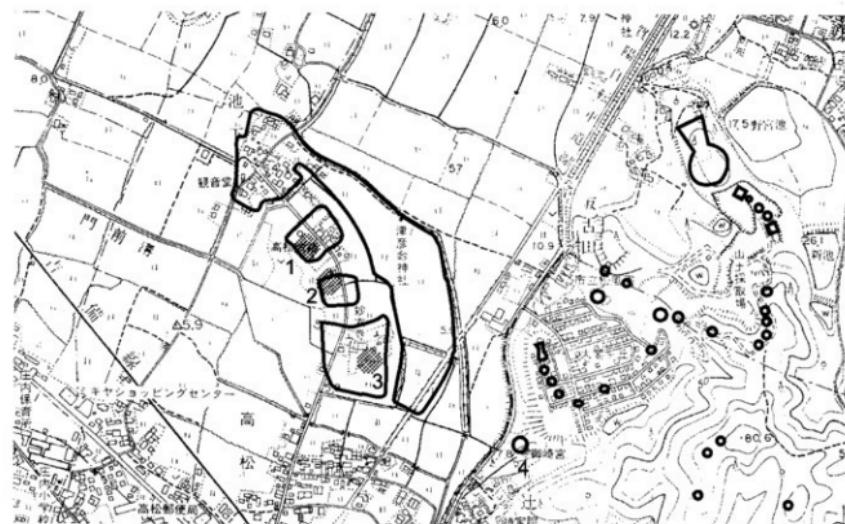
資料の特徴としては、開墾や造成など開発に伴って出土したもの、現状では古墳を確認できない地点のものなどすでに失われてしまった古墳の存在や様相を窺うことができるものが含まれる点が特筆される。一方、ビニールハウスや耕作者単位で出土地点をかなり厳密に特定できる高松城周辺の出土遺物とは異なり、第三者から譲り受けたものや出土地を示す表記も山塊単位のものが多く、出土古墳を特定することは難しい。

なお、埴輪の編年に関しては川西宏幸氏の編年⁽¹⁾に基本的に従い、IV期は外面、特に基底部の二次調整の省略やタガの突出度により古・中・新の三段階に区分する。

1. 高松周辺の埴輪

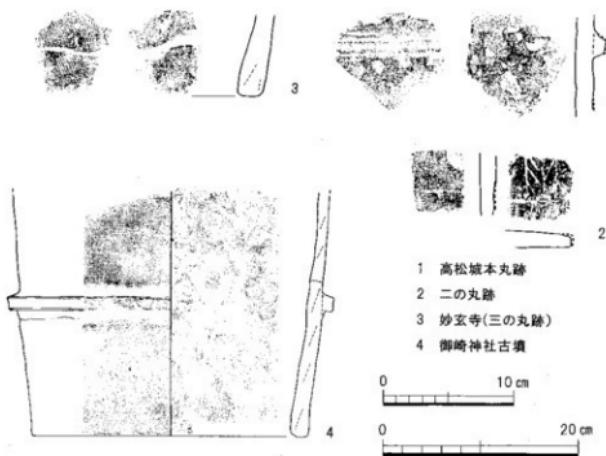
第2図1～4は高松城域およびその周辺から採集された埴輪である。

1は高松城本丸採集の埴輪で、内面に昭和9年1月採集の墨書きがある。円筒埴輪などの筒部の破片



第1図 墳輪採集地点（高松城周辺）（1/10,000）

1. 高松城本丸跡 2. 高松城二の丸跡 3. 妙玄寺（三の丸跡） 4. 御崎神社古墳



第2図 高松城周辺の埴輪

で、比較的高い台形のタガが残る。内面は剥離が激しく調整の観察ができないが、外面は非常に細かいヨコハケで、破片中には黒斑は認められないものの野焼きの埴輪である可能性が高い。III期に位置づけられるであろう。

2は「二の丸温室(和気弘)」の注記があり、高松城二の丸跡北西部周辺の出土とみられる。盾形埴輪盾部の下側角付近の破片と考えられる。外面には縦方向に綾杉紋が描かれており、綾杉紋下端からこれに直交する沈線1条がある。調整は内外面ともナデとみられる。小破片のため判断しがたいが、軟質ながら均質な焼成で、文様も簡略なものになっているようであることから、IV期以降のものと思われる。

3は「妙玄寺・戸方」の注記があり、高松城三の丸跡の出土である。円筒埴輪などの基底部の破片で、内外面とも5本/cmとやや粗い縦方向のハケメが施される。軟質だが窯窓焼成とみられ、基底部の二次調整も省略されていることからIV期でも中段階以降と考えられる。

高松城本丸跡は南西部の形態などから前方後円墳を利用したものとみる意見もある。しかし、1975(昭和50)年の岡山市教育委員会による確認調査においても古墳であることを示す状況は確認されておらず、採集埴輪も採集地点が本丸跡から三の丸跡まで広範囲にわたり、時期も幅があるようにみられる事から、古墳の存在および採集埴輪がそれに伴うものとは考えにくい。岡山平野でも近年確認されているような沖積地に埋没したより小規模な古墳の存在を否定することはできないが、高松城築城あるいはそれ以降の造成に伴って造成土などに混在して持ち込まれたものの可能性が高いと思われる。

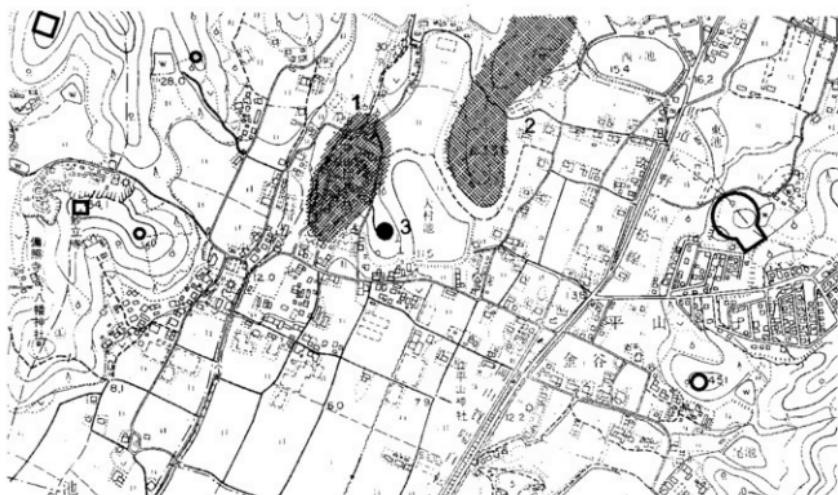
4は現在、高松城資料館に展示されており、「御崎宮(大崎・板野秀夫)」の注記がある。高松城跡から南東の尾根上の御崎神社古墳(岡山市遺跡地図34-64)⁽²⁾の出土である。御崎神社古墳は御崎宮本殿下の小円墳とされるが、現状ではほとんど確認できない。埴輪は円筒埴輪の基底部から1段目にかけての大形破片で、径28.6cmを測る。外面調整は基底部、筒部とも二次調整のヨコハケ、1段目の下半部にはB種ヨコハケも観察できる。内面は斜め方向のハケメの後縦方向にナデを施しており、基底部内面ではほとんどハケメをナデ消している。黒斑があり、野焼きと判断できる。B種ヨコハケの存在、野焼きの埴輪であることなどIII期の典型的な埴輪といえる。

2. 平山周辺の埴輪

第4図5~22は平山周辺から採集された埴輪である。

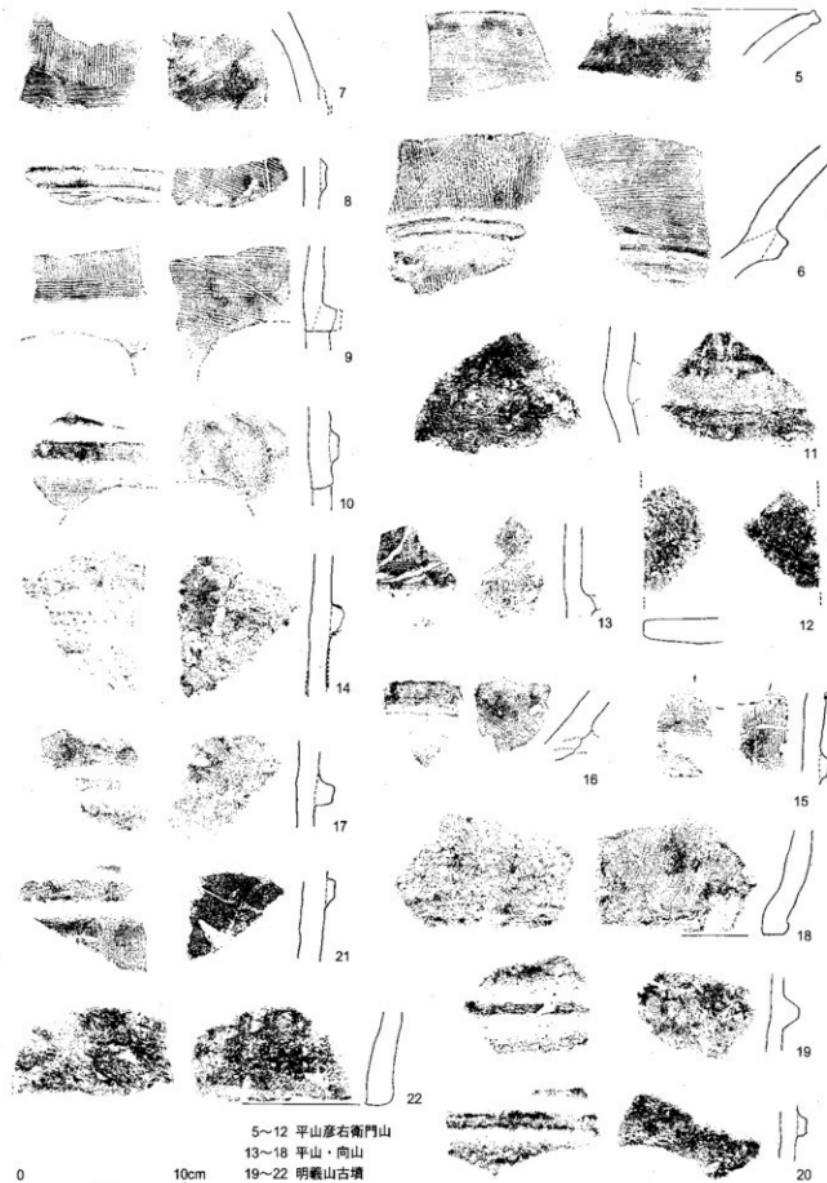
5～12は「平山・彦右衛門山(大森益太郎)」の注記がある。5～9は朝顔形埴輪の破片で、胎土や焼成、調整、ハケメ原体等の雰囲気が非常によく似ており、同一個体の可能性がある。5・6は口縁部～受部の破片で、外面がタテハケ、内面に横～斜め方向のハケメを施しており、口縁端部にやや強いヨコナデが認められる。7はやや丸みを帯びた破片であり、調整からも肩部のものとみられる。調整は外面がタテハケの後ヨコハケ、内面には斜め方向のケズリである。8・9は筒部の破片。9にはタガに接するほどの大きな円形透かし孔がある。調整は外面がタテハケの後ヨコハケ、内面が横～斜め方向のハケメである。また、9にはタガ付近に赤色顔料が残存している。10は円筒埴輪などの筒部の破片である。タガはかなり扁平で、段部に円形透かし孔がある。調整は外面が細かいタテハケの後ヨコハケ、内面は縦～斜め方向に強くナデあげている。11はわずかに屈曲する厚手の破片であり、屈曲部付近に幅広の突帯などの剥離痕がある。剥離痕より上にはわずかに網代表とみられる短沈線群が残っており、家形埴輪の屋根から棟覆部の破片と考えられる。12は盾形埴輪盾部とみられる小破片。風化が激しく調整などは観察できないが、外面にわずかに斜め方向の平行沈線2条がみえる。いずれも軟質ながら均質な焼成で窓窯焼成とみられる。タガはかなり扁平だが、筒部外面の二次調整は省略されておらず、IV期の新しい段階のものと考えられる。なお、彦右衛門山は現在の平山団地付近の低い丘陵にあたる。現在団地内の畠地や周辺の水田部には広い範囲に弥生時代から中世に至る土器片などの散布が認められるが、古墳などは認めがたい。1基の古墳からの出土品である保証はないが、団地造成に伴い削平された古墳からの採集品である可能性が高いと思われる。

13～18は「平山・向山」の採集品である。16は朝顔形埴輪の口縁部、受部間の突帯部分と考えられる。突帯は剥落しているが、外面にタテハケ、内面に斜め方向のハケメが観察できる。13は円筒埴輪口縁部下端付近の破片とみられ、外面にヘラ記号もしくは三角形様の图形を連ねた連続文様とみられるヘラ描き沈線がある。調整は外面がヨコハケ、内面が斜め方向のハケメである。14・15・17は円筒埴輪等の筒部の破片である。14は内外面の剥離が激しく調整がほとんど観察できない。15は外面がヨコハケ、内面が縦方向のハケメ。17も風化が激しいが、外面にヨコハケが認められる。18は基底部の破片である。内外面とも縦方向のハケメであり、外面の二次調整は省略されているようである。焼成はいずれの破片も均質で窓窯焼成と判断される。特に15は堅致で須恵質を呈している。タガが完存す



第3図 墓輪採集地点(平山周辺) (1/10,000)

1. 彦右衛門山 2. 向山 3. 明義山古墳



第4図 平山周辺の埴輪

る破片が少ないが、17は比較的突出度の高いしっかりしたタガである。以上からIV期中段階に位置づけられる。なお、向山は大村池東方の低い舌状の丘陵を指す。この丘陵は尾根上に比較的平坦で古墳等の立地には適した地形であるが、現在古墳の存在は確認されていない。高松城水攻めの際の織田方の陣城に利用されたとの指摘もあり丘陵南端一帯には広く土器片が散在している。現状でははつきりしないものの丘陵南端付近の最高所には古墳ともみえるわずかな高まりもある。

19~22は「明義山(石井中学・36.5.7.)」の注記があり、明義山古墳(岡山市遺跡地図39-74)の出土とみられる。明義山古墳は大村池西方の丘陵上に所在する径25mほどの円墳である。19・20は円筒埴輪などの箇部の破片で、風化が激しく調整などは観察できない。21・22は同じく円筒埴輪などの基底部の破片である。22も風化が激しく調整等は不明だが、21は最下段のタガ付近の破片で外面に一次調整のタテハケ、内面に斜め方向のハケメが施されている。また、最下段のタガには押圧技法状の板状工具によるナデが施されている。いずれの破片も軟質ながら均質な焼成で窓窯焼成とみられる。調整等の観察できる破片が少ないが、基底部の二次調整が省略されること、最下段タガの押圧技法状のナデ、タガの突出度は比較的高いことなどからIV期中段階に位置づけられるだろう。

3. 大崎周辺の埴輪

第6図23~29は大崎周辺の採集品である。

23・24は「大崎・薬師寺の山(横田利夫採集)」の注記がある。いずれも基底部の破片で風化が激しいが、24には外面にタテハケが観察できる。IV期中段階以降の埴輪であろう。「薬師寺の山」とは薬師寺氏(人名)所有の山の意で、大崎北側の谷奥から突き出した尾根一帯を指すという。当該地には一辺35mの方墳・大崎古墳群2号墳(岡山市遺跡地図39-101)が所在するが、この古墳からの出土品であるかどうかはわからない。

25は「八幡山(S52, 3, 21採集)」の注記があり、高松城跡の北西500mほどの八幡山周辺の採集とみられる。破片は朝顔形埴輪の肩部とみられ、外面に斜め方向のハケメ、内面に横~斜め方向のヘラケズリが観察できる。焼成は堅緻で須恵質を呈する。IV期以降の埴輪であろう。八幡山は高松城水攻めの際の織田方の陣城にも利用されており、山頂の八幡神社社殿下にはわずかな古墳状の高まりが残る。しかし、八幡山からはこうした埴輪のほか特殊器台形土器も採集されており、社殿下の古墳状地形が陣城に伴う郭の一部であるのか、弥生墳丘墓、古墳であるのかは現状では判断できない。なお、岡山市遺跡地図では八幡山遺跡(39-112)としてやや広い範囲を囲み、散布地(墳墓・古墳址)としている。

26は「妙立寺上・横田氏墓地」の注記があり、大崎・和井元の境界の妙立寺裏山一帯の出土品とみられる。破片は風化の激しいタガ部小破片で、内面には縦~斜め方向の強いナデが観察できる。時期を判断する材料に乏しいがIV期以降の埴輪であろう。妙立寺の裏山には妙立寺裏山1号墳・2号墳(岡山市遺跡地図39-81・82)が知られているが、妙立寺の墓地は寺域西側の尾根斜面を中心にあり、これらの古墳の埴輪が転落したものとは考えられない。墓地の所在する尾根は八幡山陣城から郭状の地形が続いており、現状では古墳と考えられるものは存在しない。陣城や墓地の造成に伴い削平された古墳が存在した可能性が高いように思われる。

27~29は「板野・有松(高中)」の注記があり高松中学社会科クラブの学生、板野・有松の両名が三上山から大崎にかけての広い範囲から採集したものという。この範囲には大崎古墳群の多数の古墳が所在しており、いずれの古墳からの採集品かはわからない。27は朝顔形埴輪頭部の破片で頭部(突帶部分)の復元径15.8cmを測る。風化が激しいが外面にわずかに縦方向のハケメが残る。軟質だが均質な焼成でIV期以降の埴輪とみられる。28は円筒埴輪等の基底部の破片である。これも風化が激しく調整もはつきりしないが、外面には二次調整のヨコハケが施されるようでIV期でも古段階の埴輪であろう。29はタガ部分の破片で外面にヨコハケ、内面に斜め方向のハケメが観察できる。タガは突出度の高いしっかりしたもので、時期を判断する材料に乏しいがIV期の古い段階のものであろうか。



第5図 増輪採集地点 (大崎・生石神社周辺) (1/10,000)

1. 大崎・薬師寺の山 2. 妙立寺裏山 3. 八幡山 4. 生石神社周辺

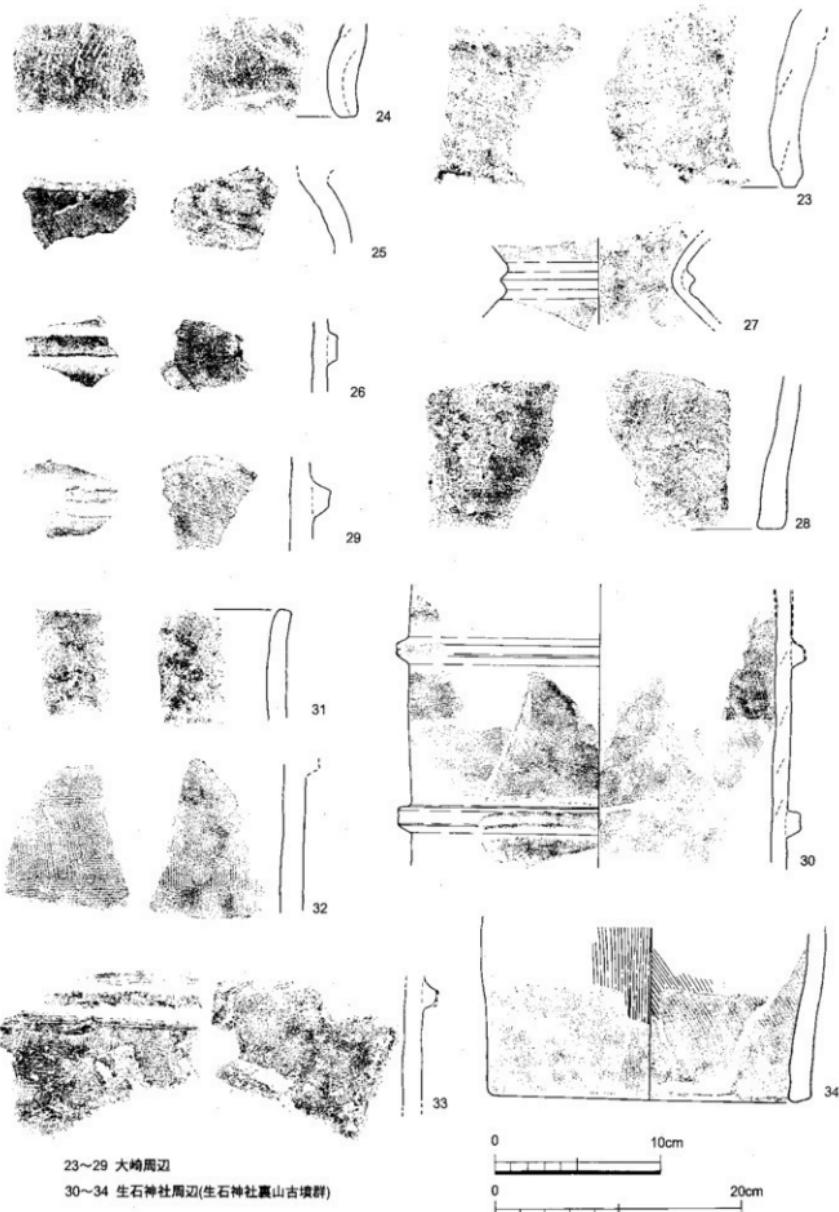
4. 生石神社周辺の増輪

30~34は「生石神社(高中社会科クラブ)」の注記があり、門前・生石神社周辺の採集という。30は円筒埴輪筒部の大形破片で復元径31.0cmを測る。タガは高く、外面に細かいヨコハケ、内面に同様のタテハケを施している。黒斑がありⅢ期に位置づけられる。一方、31~34は軟質ながら均質な焼成で窯窯焼成と考えられる。31は円筒埴輪の口縁端部の破片、風化が激しく調整等は観察できない。32・33は円筒埴輪などの筒部の破片で、外面はタテハケの後ヨコハケ、内面は縦～斜め方向のハケメである。34は基底部の破片で復元径26.4cmを測る。外面に粗いタテハケ、内面には同様の斜め方向のハケメが施される。これらは、窯窯焼成と考えられることや基底部の二次調整が省略されること、直立気味の口縁部などからⅣ期中段階の埴輪と考えられる。なお、生石神社周辺には国道429号線を隔てた尾根上に生石神社裏山古墳群が知られているが、これらの埴輪は国道より西の神社周辺の丘陵上で採集されたものという。生石神社社地は中世以降城郭として利用され、郭状の段が残るほか、社殿下は現状でもわずかに高くなっている、特殊器台形土器の出土が知られている。国道側にのびる尾根は開墾などにより大きく変形しており現状では古墳等は確認できない。採集埴輪にⅢ期のものとⅣ期中段階のものとの2時期が存在する事から複数の古墳がこの尾根上に存在した可能性がある。

5. 伝兵衛塚遺跡周辺の埴輪

35~56は「石井山・伝兵衛塚」の注記があり、大平山山頂周辺の開墾に伴い出土したものという。採集品はコンテナ4箱以上に及ぶ多量なもので、埴輪以外に弥生土器、須恵器から中世の土器類に至るまで幅広い時期のものが含まれている。

円筒埴輪等にはややしっかりしたタガを持ち、筒部のタガ間に二次調整のヨコハケを施すもの(37・38・40・44・52・54・55)と、扁平なタガでタガ間の二次調整を省略するもの(36・39・41・42・56)がある。前者には基底部の二次調整を省略するもの(54)と二次調整のヨコハケを施すもの(52・54)が存



23~29 大崎周辺

30~34 生石神社周辺(生石神社裏山古墳群)

第6図 大崎・生石神社周辺の埴輪

在する。基底部の破片のうち二次調整を省略する53は筒部の調整が不明だが、最下段タガの形態や基底部内面の調整など54に非常によく似ており、これと同様の個体と考えられる。両者はいずれも窓窯焼成と考えられ、前者はIV期中段階、後者はV期に位置づけられるものと考えられる。47・48・49・50・51は二次調整を省略する、あるいは風化等のため調整が観察できない基底部のみの破片であり、両者のいずれに属するものか判断しがたいが、胎土や成形の特徴から48・50・51は前者に、47・49は後者に属する可能性が高い。また、45・46は形象埴輪の破片である。45は外面に2列の綾杉文が平行に施される破片で、盾持人形埴輪や短甲形埴輪の背の鋸部分の破片と考えられる。46はどのような形象埴輪かわからないが、板状の小破片で片側が生きた端部が接合のはがれた擬口縁状になっている。内面にヘラ状の工具による強いナデが認められる。

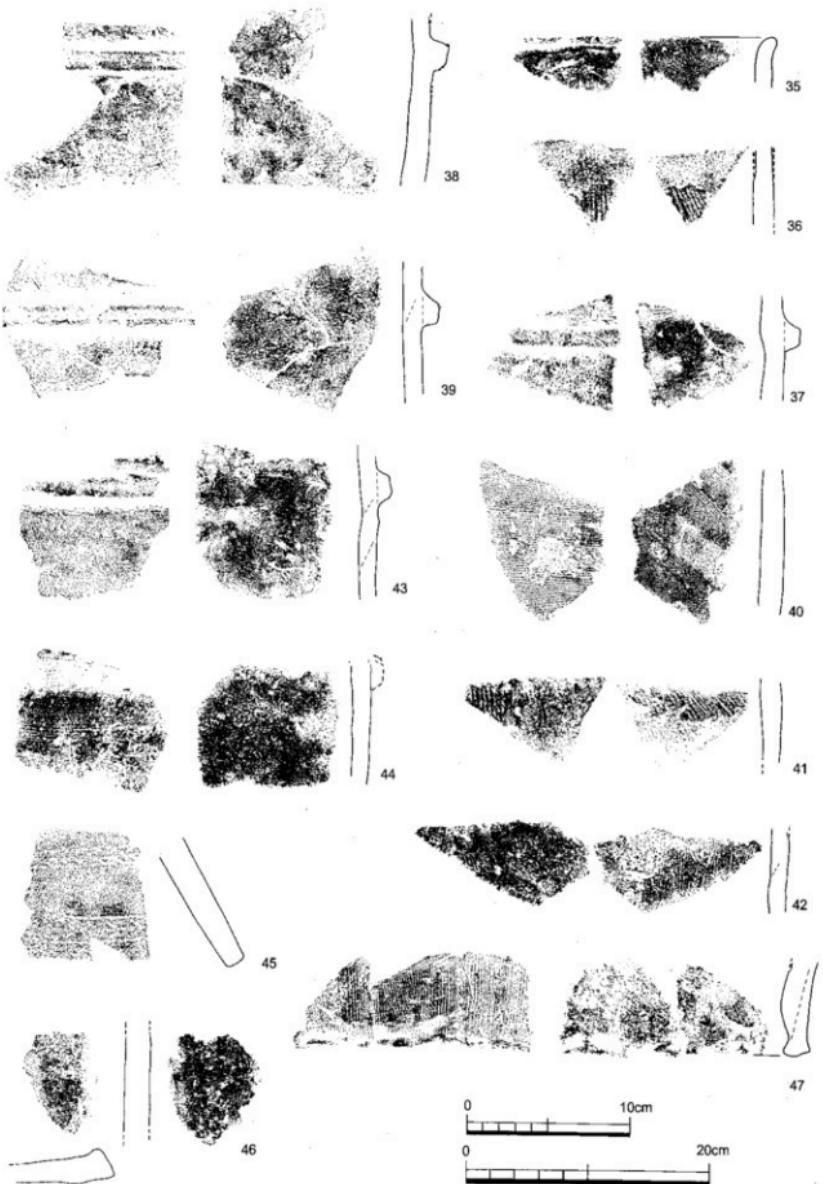
なお、大平山山頂付近一帯は現在牧草地・畠地となっており、これらの遺物はこの開墾に伴って出土したものである可能性が高い。農地内や周辺には横穴式石室墳10基からなる大平山古墳群(岡山市遺跡地図30-103~112)が残され、農地の南側斜面には須恵器等が現在も散布している。また、南東にのびる尾根上には円礫や弥生土器などの散布する伝兵衛塚遺跡(岡山市遺跡地図30-113)が存在するが、現状ではこれらの埴輪が出土した古墳と考えられるような遺構は観察できない。V期に属する埴輪群は大平山古墳群のいずれかに伴うものである可能性もあるが、現状ではこの古墳群とその周辺で埴輪を採集することはできなかった。したがって、開墾以前には山頂部付近に複数基の古墳が存在した可能性が高いものと思われる。

6. 造山古墳周辺の埴輪

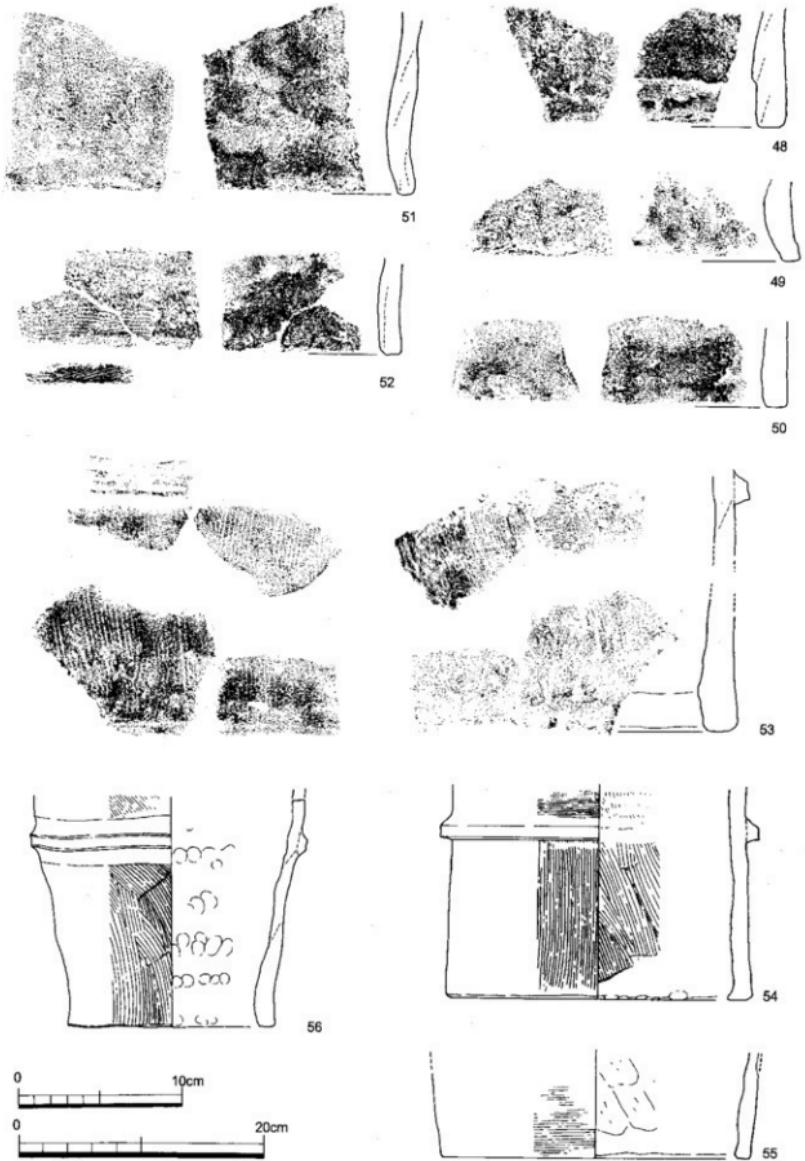
57は現在高松城資料館に展示されている造山古墳の採集品である。円筒埴輪などの筒部の破片で、径29.7cmに復元できる。外面は風化のため調整等は観察できないが、内面の調整は斜め方向の細かいハケメの後縦方向のナデを施している。破片中には黒斑はなく均質な焼成で、窯窓焼成である可能性が高い。時期を推定する材料に乏しいが、窯窓焼成や高いタガなどからIV期古墳のものとみられる。



第7図 伝兵衛塚遺跡の位置 (1/25,000)



第8図 伝兵衛塚遺跡採集の埴輪 1



第9図 伝兵衛塚遺跡採取の埴輪2

58・59は榎山古墳の採集品である。胎土や色調、タガの形態などから、接合しないものの同一個体と考えられる。外面とも風化のため調整は観察できない。軟質だが均質な焼成で、窯窯焼成である可能性が高い。

60～64は千足古墳の採集品である。60は円筒埴輪の筒部～口縁部の破片とみられる。外面の調整はB種ないしC種ヨコハケで、口縁部とみられる上段にヘラ描き沈線文様が描かれている。内面は風化のため不明瞭だが、斜め方向のケズリとみられる。61は円筒埴輪などの筒部破片である。外面にC種とみられるヨコハケ、内面に綫方向の強いナデが施される。62～64は基底部の破片である。風化のため調整の不明瞭なものが多いが、64の内面には横～斜め方向の細かいハケメが観察できる。いずれも黒斑ではなく、軟質ながら窯窯焼成とみられる。タガも高くしっかりとおりIV期古段階に位置づけられるであろう。

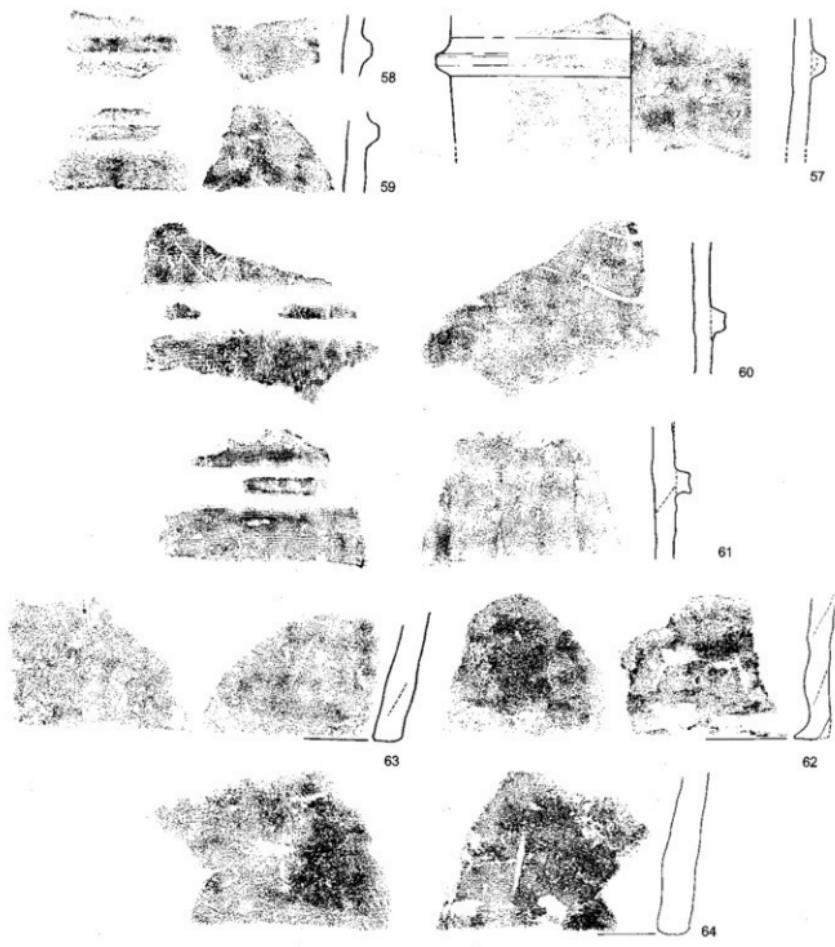
65は「小造山手前の池(53)」の注記がある。朝顔形埴輪頭部の破片で須恵質を呈する窯窯焼成の埴輪である。外面には肩部にわずかにタテハケが観察できる。内面は受部が横方向のハケメ、受部下端から頭部突起裏面に横方向の工具ナデ、肩部は横方向のケズリが施されている。埴輪の特徴は、隣接する工業団地造成の際などに採集されている、小造山古墳の埴輪の特徴⁽³⁾と矛盾せず、同古墳の埴輪である可能性が高いものと思われる。

66は現在高松城資料館に展示されている馬形埴輪の破片である。「加茂・ミノテ」の注記があり、黒住山西南西の山麓にて温室造成中に出土したものという。この埴輪はすでに岡山大学考古学研究部により報告されている⁽⁴⁾が、今回再実測する事とした。破片は馬形埴輪の障泥、鎧の部分で、馬本体に板状の障泥部分を貼り付けている。障泥表面は綫から斜め方向のハケメを施し、その後に障泥縁や鎧部



第10図 墓輪採集地点（造山古墳周辺）（1/10,000）

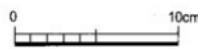
1. 造山古墳 2. 榎山古墳 3. 千足古墳 4. 小造山古墳 5. 黒住山西麓



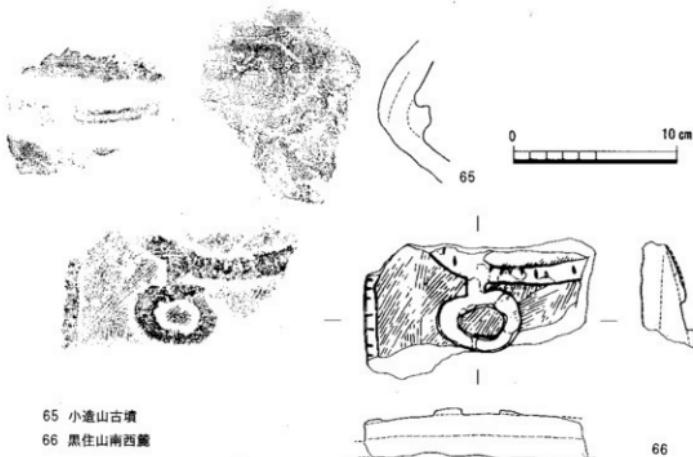
57 造山古墳

58・59 柳山古墳

60-64 千足古墳



第11図 造山古墳群周辺の埴輪 1



第12図 造山古墳周辺の埴輪 2

分を貼り付けている。内面はナデによると思われる凹凸が観察できる。なお、採集地周辺は現状では古墳などの存在は確認できない。

7. 出土地不明の埴輪

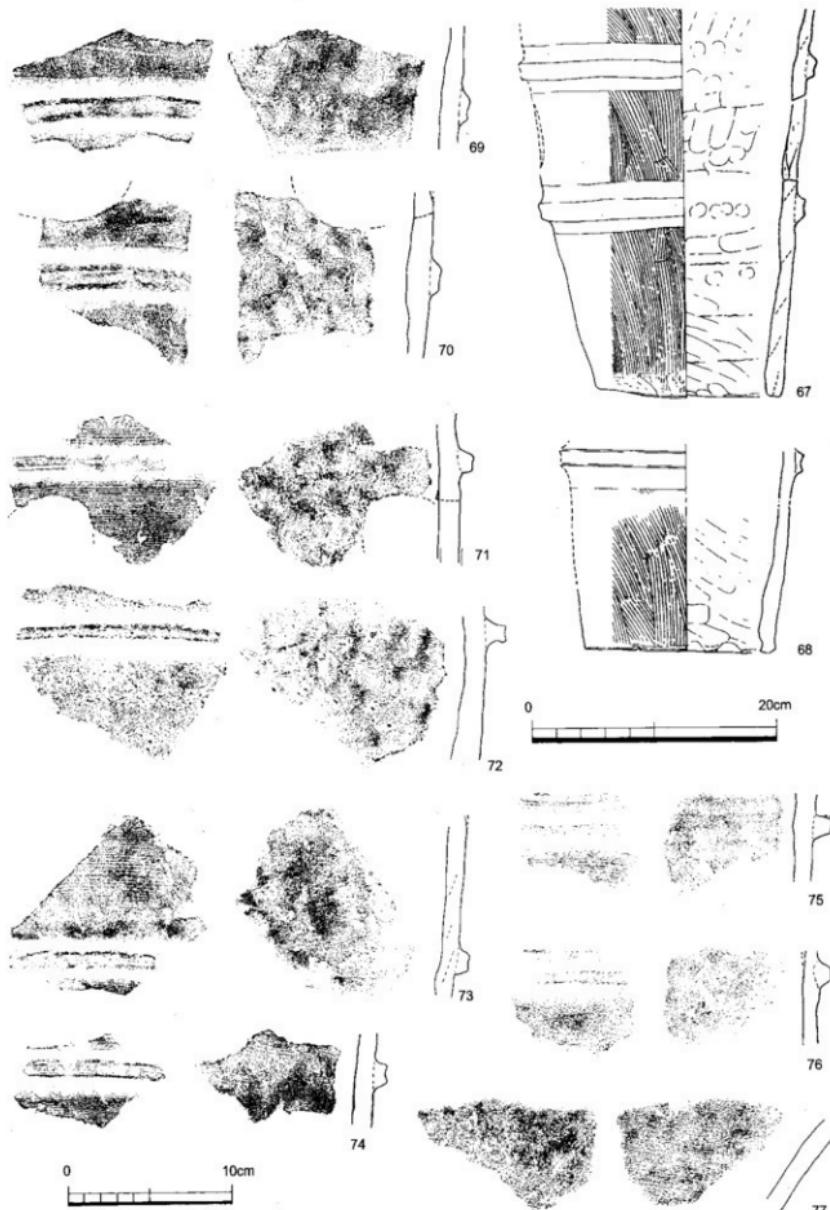
67~77は注記のないもの、同梱されていた紙片の失われたもの、入れられていた袋などが破れほかと混乱してしまったものなど出土地不明の埴輪である。

67・68は同じ箱に弥生土器、須恵器、中世土器などとともにに入れられていたものである。67は三段目まで復元できる円筒埴輪で、基底部径15.0cmを測る。調整は外面にタテハケ、内面に縦へ斜め方向の強いナデの後タガ裏面に横方向のナデおよび指押さえ痕が残る。二段目に2孔円形透かし孔が存在する。68も円筒埴輪などの基底部破片で、基底部径15.5cm程度に復元できる。外面はタテハケ、内面は斜め方向の強いナデが施される。これらはいずれも軟質ながら良好、均質な焼成で窯窓焼成と考えられる。タガは扁平で外面の二次調整も省略することからV期の埴輪と考えられる。同じ箱に入れられている遺物群は林氏蒐集品中の石井山・伝兵衛塚遺跡の出土品と同傾向で、これらの埴輪もこれと矛盾しない。

69・70は同一個体とみられる円筒埴輪等の筒部破片である。外面にはタテハケ、内面には縦方向の強いナデが観察される。焼成は窯窓焼成、タガは扁平で外面の二次調整も省略することからV期の埴輪と考えられる。

71は円筒埴輪などの筒部破片である。破片下段に円形透かし孔があり、外面はヨコハケ(B種?)、内面にはナデによるものと思われる凹凸が観察できる。タガは高めで、端面はハケメ原体と同様の工具によるヨコナデとみられる。焼成は堅緻で須恵質を呈しており、朝顔形埴輪の破片である可能性が高い。IV期の埴輪と考えられる。

72は現在高松城資料館に展示されている埴輪片で、円筒埴輪などの筒部破片である。風化のため調整などは観察できないが、胎土にやや大粒の石英、長石粒を多く含むことが特徴的である。破片のカーブなどから大形の埴輪になるとみられ、高いタガなどからIII期に遡る可能性がある。なお、以前この埴輪を「造山古墳出土」として引用した⁽⁵⁾が、展示状況から筆者が誤解したものでありここに訂正する。



第13図 出土地不明の埴輪

73も現在高松城資料館に展示されている円筒埴輪等の筒部破片である。外面にはタテハケの後ヨコハケ、内面にはナデと思われる凹凸が認められる。破片に注記などはないが、林氏蒐集品中の生石神社周辺採集埴輪(33)に調整や胎土等が酷似しており、これと同一個体である可能性がある。

74は高松城資料館に展示されている円筒埴輪等の筒部破片である。外面にヨコハケ(B種?)、内面に斜め方向の細かいハケメが観察できる。焼成は良好で窓窯焼成とみられ、IV期の埴輪と考えられる。

75~77は同じ箱に入れられている埴輪片だが、複数の注記のあるものと混在しており、一方所からの採集品かどうかは不明である。75は円筒埴輪等の筒部破片である。外面にヨコハケ、内面に縦方向のハケメが施されている。タガは高く、黒斑がある野焼きの埴輪である。76はやはり円筒埴輪等の筒部の破片だが、風化のため調整などは観察できない。軟質だが、均質な焼成で窓窯焼成である可能性が高い。77は朝顔形埴輪受部の破片とみられる。外面の調整は風化のため不明瞭だが、内面には横~斜め方向のハケメが観察できる。窓窯焼成とみられる。

まとめ

以上、林氏蒐集資料中の埴輪資料を紹介した。表探資料という制約はあるものの、これまで資料のごく少なかったこの地域の様相を知る貴重な資料といえる。特に、埴輪の多くは造山古墳・作山古墳と時期的に重なるⅢ・Ⅳ期のものであり、当地域の古墳群はもとより造山・作山古墳を頂点とする吉備集団の構造や性格を考える重要な資料になると考えられる。

資料中の多くを占める、高松地区北部一平山・和井元・大崎・門前周辺の古墳群出土はすべてⅢ期以降のものであり、Ⅰ期、Ⅱ期に遡るものはない。当地域の古墳群は尾根上に小規模な古墳が連続と築かれており、その内には八幡山弥生墳丘墓、生石神社弥生墳丘墓、浦尾5号弥生墳丘墓など弥生時代に遡るものも存在することから、小集団の系列的な造墓活動を想定する見方が一般的である。中でも草原孝典氏らは綿密な踏査と地形測量から、古墳群中の前方後方墳を前期前半、方墳を前期後半、円墳を中期以降に想定している⁽⁶⁾。一方、山陽自動車道関連の発掘調査に伴い確認された前池内古墳群⁽⁷⁾、甫崎天神山6号墳⁽⁸⁾、総社市中山6号墳⁽⁹⁾、同西山古墳群⁽¹⁰⁾などではⅢ期以降も方墳がほとんどであり、必ずしも墳形から時期を想定できないと同時に、地理的位置や築造時期の近接からこれら的小規模墳の性格は造山・作山古墳の存在を無視しては語れないものと思われる。特に甫崎天神山6号墳では「被葬者は造山古墳の埴輪制作にあたった工人」と想定され⁽¹¹⁾、前池内古墳群でも「造山古墳被葬者との従属性の関係が強く想起できる」と評価されている⁽¹²⁾。高松地区北部の古墳群でも同様の状況は十分に考えられ、もとより限られた資料を以て古墳群全体を評価することはできないが、Ⅲ期以降に爆発的に古墳が増加していることが予想される。

注

- (1)川西宏幸 1978 「円筒埴輪論」『考古学雑誌』64-2 日本考古学会
- (2)岡山市教育委員会 1983 『岡山市埋蔵文化財分布地図』
- (3)村上幸雄・前角和夫 1993 「小造山古墳の埴輪について」『折敷山遺跡・雲上山11号墳』総社市埋蔵文化財発掘調査報告10 総社市教育委員会
- (4)旧岡山大学考古学研究部 1997 「岡山市甫崎・黒住丘陵の遺跡分布調査—雲山鳥打遺跡・49基の古墳群などの踏査—」『古代吉備』第19集 古代吉備研究会
- (5)安川 満 2000 「調査の成果と展望」『造山第2号古墳』岡山市教育委員会
- (6)小郷利幸・小野雅明・草原孝典・後藤信義・佐守 学・弘田和司・前角和夫 1990 「岡山市足守地域の地域史研究(1)—古墳測量調査の成果を中心として—」『古代吉備』第12集 古代吉備研究会
- (7)中野雅美・龜山行雄ほか 1994 「前池内遺跡」『山陽自動車道建設に伴う発掘調査8』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告89 日本道路公団広島建設局岡山工事事務所・岡山県教育委員会
- (8)柴田英樹・宇垣匡雅ほか 1994 「甫崎天神山遺跡」『山陽自動車道建設に伴う発掘調査8』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告89 日本道路公団広島建設局岡山工事事務所・岡山県教育委員会

- (9) 椿 真治 1997 「中山遺跡・中山古墳群」『中国横断自動車道建設に伴う発掘調査4』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告121 日本道路公团中国支社岡山工事事務所・岡山県教育委員会
- (10) 萩田英樹・椿 真治 1997 「西山遺跡・西山古墳群」『中国横断自動車道建設に伴う発掘調査4』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告121 日本道路公团中国支社岡山工事事務所・岡山県教育委員会
- (11) 宇垣匡雅 1994 「東崎天神山古墳群について」『山陽自動車道建設に伴う発掘調査8』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告89 日本道路公团広島建設局岡山工事事務所・岡山県教育委員会
- (12) 中野雅美 1994 「まとめ」『山陽自動車道建設に伴う発掘調査8』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告89 日本道路公团広島建設局岡山工事事務所・岡山県教育委員会

林信男氏蒐集埴輪観察表

| 番号 | 採集地 | 器種 | 部位 | 法量(単位:cm) | 調 整 | 胎 土 | 色 調 | 焼成 | 備 考 | |
|----|----------|-----|--------|---------------------------------------|--|---|---|--|--|--|
| 1 | 高松城本丸跡 | 円筒 | 筒部 | タガ(下底) 2.0 (上部) 1.0 (高さ) 1.0 | 外面：非常に細かいヨコハケ。タガ周辺ヨコヨリ。内面：剥離等のため調整不明。 | 1mm以下の長石粒、1mm程度の赤褐色粒をまばらに含む。 | 外面：6.2SYR8/6 内面：7.SYR7/4 | ふつう 昭和9年1月採集。 | | |
| 2 | 高松城二の丸跡 | 扇形 | 筒部 | | 外表面ともナデか。外面に繊維紋。底部の下端部に近い破片と思われる。 | 1~3mmの大粒の長石・石英粒を含む | 外面：3.7SYR6/8 内面：3.7SYR6/6 | ふつう 注記「二の丸櫓室(和氣私)」 | | |
| 3 | 高松城三の丸跡 | 円筒 | 基底部 | | 外面：タデハケ(5本/cm)。三次調整省略。下端部附近ヨコナ。内面：縦へ斜め方向のハケメ(5本/cm)。 | 1mm以下の長石・石英粒を多く含む。 | 外面：SYR6/6 内面：SYR6/6 ~SYR5/4 | ふつう 注記「妙寺玄・戸方」 | | |
| 4 | 御崎神社古墳 | 円筒 | 筒部～基底部 | 基底部径 底面幅 タガ(下底) (上部) (高さ) | 28.6 12.2 1.9 1.2 1.3 | 外面：ヨコハケ(B-C種?)、7本/cm)。タガ周辺ヨコナ(底面土質?)。内面：斜め方向のハケメ(7本/cm)。その後斜め方向のナダ。基底部内面ではほとんどハケメをナダしている。 | 1mm以下の長石・石英粒、1~3mmの大粒の粘土粒状の白色粒、赤褐色粒をまばらに含む。 | 外面：10SYR6/6 ~7SYR7/4 内面：SYR6/6 | ふつう 注記「御崎宮(大崎・板野秀夫)」 | |
| 5 | 平山・彦右衛門山 | 朝顔 | 口縁部 | | 外面：縦へ斜め方向のハケメ(6本/cm)の後、口縁端部付近ヨコナ。内面：斜めへ横方向のハケメ(6本/cm)。 | 1mmの大粒の石英・長石粒やや多い。3mmの大粒赤褐色粒まれに含む。 | 外面：2.5TR6/6 内面：SYR7/6 | 良好 6~9と同一個体? | | |
| 6 | 平山・彦右衛門山 | 朝顔 | 受鉢～口縁部 | | 外面：斜方へのハケメ(6本/cm)。タガ周辺ヨコナ。 | 1~3mmの大粒の長石・長石粒、暗赤褐色粒やや多い。 | 外面：SYR7/6 内面：SYR7/6 ~10TR6/2 | 良好 5~7と同一個体? | | |
| 7 | 平山・彦右衛門山 | 朝顔 | 肩部 | | 外面：タデハケ(6本/cm)の後横方向へのハケメ(10本/cm)。内面：斜め方向のナダ。 | 1~2mmの大粒の石英・長石粒、赤褐色粒含む。 | 外面：SYR7/6 内面：SYR7/6 | 良好 5~6~8~9と同一個体? | | |
| 8 | 平山・彦右衛門山 | 朝顔? | 筒部? | タガ(下底) (上部) (高さ) | 2.2 1.4 0.4 | 外面：タデハケの後ヨコハケ。タガ部ヨコナ。 | 1~2mmの大粒の石英・長石粒、赤褐色粒含む。 | 外面：SYR7/6 内面：SYR7/6 | 良好 5~7~9と同一個体? | |
| 9 | 平山・彦右衛門山 | 朝顔? | 筒部 | タガ(下底) | 1.6 | 外面：タデハケ(10本/cm)の後ヨコハケ(6本/cm)。タガ部分ヨコナ。タガ付近に土質顕微鏡検査。内面：斜め方向のハケメ(6本/cm)。弧状のカラ描丝織あり。 | 1mm程度の石英・長石粒を含む。3mmの大粒赤褐色粒をまばらに含む。 | 外面：SYR7/6 内面：SYR7/3 ~SYR7/4 | 良好 透かし孔あり。 タガはほとんど段差が大きい。 5~8と同一個体? | |
| 10 | 平山・彦右衛門山 | 円筒 | 筒部 | タガ(下底) (上部) (高さ) | 2.2 1.3 0.6 | 外面：細かいタデハケの後ヨコハケ(6本/cm)。タガ周辺ヨコナ。内面：斜め方向のナダ。 | 1mm程度の石英・長石粒を含む。3mmの大粒赤褐色粒をまばらに含む。 | 外面：7.SYR8/6 内面：7.SYR8/4 | ふつう 透かし孔あり。 | |
| 11 | 平山・彦右衛門山 | 家? | 瓶型～棒型? | | | 風化のため調整不明。外面に幅広の突起剥離面。その上面に網代現状の花紋模様がわずかに認められる。内面はナダか?。 | 1mm大からそれ以下の石英・長石粒、1~3mmの大粒赤褐色粒やや多い。 | 外面：SYR7/6 内面：SYR7/8 | ややあまい 丸みのない直線的な段差。 | |
| 12 | 平山・彦右衛門山 | 唐? | 底部 | | | 風化のため調整不明。外面にはわずかに斜め方向の2列の平行施縫がみえる。 | 1mm程度の長石・石英、暗赤褐色粒やや多い。 | 外面：SYR7/8 内面：SYR7/8 | ややあまい | |
| 13 | 平山・向山 | 円筒 | 口縁部? | タガ(下底) | 1.6 | 外面：ヨコハケ(10本/cm)。タガ周辺版状工具によるヨコナ。弧状のヘラ彫地版2集。 | 1~3mmの大粒の長石粒多い。1mm程度の石英粒、暗赤褐色粒をまばらに含む。 | 外面：7.SYR6/2 内面：SYR7/1 | 堅歯 | |
| 14 | 平山・向山 | 円筒 | 筒部 | タガ(下底) | 2.2 | 外面：ヨコナ? (明瞭なハケメなどは観察できない)。内面：強いナダあるいはケズりか?。 | 1~3mmの大粒の石英・長石粒を多く含む。 | 外面：SYR6/4 ~SYR6/6 内面：SYR6/6 ~SYR7/4 | ふつう | |
| 15 | 平山・向山 | 円筒 | 筒部 | タガ(下底) | 2.0 | 外面：ヨコハケ(5~7本/cm)。タガ周辺ヨコナ。 | 1~3mmの大粒の石英粒多い。1~数mmの大粒の石英粒をまばらに含む。 | 外面：SYR6/4 内面：6.2SYR7/4 | 堅歯 透かし孔あり。 | |

| | | | | | | | | |
|-----|--------|----|------------|-------------------------------------|---|---|---|--|
| 1.6 | 平山・向山 | 顎頸 | 受部～口縫部 | | 外面：タケハケ(7本/cm)。突堤周辺ヨコナダ。 内面：斜め方向のハケメ(7本/cm)。 | 1~2mm大の石英・長石粒を含む。(石英粒やモリブデン)。 | 外面：7.5YR7/4 内面：7.5YR7/4 ～7.5YR6/4 | 聖職 |
| 1.7 | 平山・向山 | 円筒 | 筒部 | タガ(下底) (上底) (高さ) | 1.7 1.0 1.1 | 外面：ヨコハケ(5本/cm)。タガ周辺ヨコナダ。 内面：風化のため調整不明。 | 1~3mm大の石英・長石粒を多量に含む。(石英粒やモリブデン)。 | 外面：7.5YR7/8 内面：5YR6/6 |
| 1.8 | 平山・向山 | 円筒 | 基底部 | | | 外面：風化・剥離のため不明瞭だが粗いタケハケか? 内面：斜め方向のハケメ(10本程度/cm)。 | 1~3mm大の石英粒多い。 1mm大の石英粒・角閃石をまばらに含む。 | 外面：7.5YR6/4 内面：5YR6/5/4 |
| 1.9 | 明義山古墳 | 円筒 | 筒部 | タガ(下底) (上底) (高さ) | 2.0 0.7 0.9 | 風化・剥離のため調整不明。 | 1~3mm大の石英粒多い。 | 外面：6.25YR7/6 内面：5YR7/6 |
| 2.0 | 明義山古墳 | 円筒 | 筒部 | タガ(下底) (上底) (高さ) | 1.4 1.0 0.6 | 風化・剥離のため調整不明。 | 1~2mm程度の石英・長石粒や多い。 | 外面：7.5YR7/3 内面：7.5YR7/3 |
| 2.1 | 明義山古墳 | 円筒 | 基底部 ? | タガ(下底) (上底) (高さ) | 1.7 1.0 0.5 | 外面：基底部タハケ(10本/cm)。二次調査省略?。 内面：ヨコハケ。 内面：斜め方向のハケメ(10~12本/cm)。タガ裏面はヨコナダ。 | 1~3mm大の長石粒多い。 | 外面：2.5YR6/6 内面：5YR7/4 |
| 2.2 | 明義山古墳 | 円筒 | 基底部 | | | 風化・剥離のため内外面とも調整不明。 | 1~2mm程度の石英・長石粒多い。 | 外面：5YR7/6 ～5YR7/3 内面：5YR7/6 |
| 2.3 | 大崎周辺 | 円筒 | 基底部 基底鉢 | | 8.4? | 外面：風化・剥離のため調整不明。 内面：風化・剥離のため調整不明。ナデあるいはケズりと思われる凹凸あり。 | 1~2mm程度の石英・長石粒、赤褐色粒比較的多い。 | 外面：5YR7/6 内面：5YR7/6 |
| 2.4 | 大崎周辺 | 円筒 | 基底部 | | | 外面：タケハケ(4本程度/cm)。二次調査省略? 内面：風化のため調整不明。 | 1mm大からそれ以下の長石粒多い。 | 外面：2.5YR5.5/8 内面：2.5YR5.5/8 |
| 2.5 | 八幡山 | 顎頸 | 肩部 | | | 外面：斜め方向のハケメ(8~9本/cm)。 破片上端部ヨコナダ。 内面：横～斜め方向のケズり。 | 1mm大からそれ以下の長石粒、石英粒含む。 | 外面：5YR7/6 内面：6.25YR7/6 |
| 2.6 | 妙立寺墓山 | 円筒 | 筒部 | タガ(下底) (上底) (高さ) | 2.2 1.4 0.6 | 外面：風化のため調整不明。 内面：縦～斜め方向の強いナダ。 | 微細な長石粒を含む。全体的に粘土質強い。 | 外面：7.5YR7/4 ～7.5YR7/2 内面：7.5YR7/4 |
| 2.7 | 大崎周辺 | 顎頸 | 解剖部 受部 | | 15.8 | 外面：風化のため不明瞭だが、タケハケが難観できる。突堤周辺はヨコナダか? 内面：風化のため調整不明。 | 1mm以下の大長石粒、1~3mmの赤褐色粒多く含む。 | 外面：10YR8/3 ～1.25YR8/3 内面：1.25Y8/4 |
| 2.8 | 大崎周辺 | 円筒 | 基底部 | | | 外面：風化・剥離のためつつきしないが、ヨコハケが見られる。 内面：斜め方向の強いナダか? | 1mm以下の大長石粒多い、1~3mmの赤褐色粒を比較的多く含む。 | 外面：8.75YR8/3 ～7.5YR7/4 内面：7.5YR6/2 ～5YR6/6.5 |
| 2.9 | 大崎周辺 | 円筒 | 筒部 | タガ(下底) (上底) (高さ) | 2.3 1.2 1.2 | 外面：ヨコハケ。タガ周辺は板状工具によるヨコナダ。 内面：斜め方向のハケメ。 | 1mm以下の大長石粒多い。 | 外面：7.5YR7/3 ～7.5YR6/3 内面：7.5YR7/4 |
| 3.0 | 生石神社周辺 | 円筒 | 筒部 | 筒部径 段数 タガ(下底) (上底) (高さ) | (31.0) 11.6 2.3 1.2 1.2 | 外面：ヨコハケ(3種、8本/cm)。タガ周辺ヨコナダ。 内面：タケハケ(8本/cm)。タガ裏面付近ナダ。 | 1mm以下の長石粒多い。 | 外面：3.75YR6/6 ～7.5YR7/6 ～N-3YR6/6 内面：3.75YR7/6 |
| 3.1 | 生石神社周辺 | 円筒 | 口縫部 | | | 風化のため内外面とも調整不明。 | 1mm以下の長石粒多い。 | 外面：7.5YR7/4 内面：7.5YR7/5/4 |
| 3.2 | 生石神社周辺 | 円筒 | 筒部 | | | 外面：タケハケ(7本/cm)の後ヨコハケ(6~8本/cm)。 内面：タケハケ(6本/cm)。破片の上下端付近(タガ裏面周辺)ナダ。 | 1mm以下の長石粒多い。石英粒はまばら。全体に粘土質強い。 | 外面：8.75YR8/4 内面：7.5YR6.5/2 |
| 3.3 | 生石神社周辺 | 円筒 | 筒部 | タガ(下底) (上底) (高さ)(1.0) | 1.7 1.0 1.0 | 外面：タケハケ(4本/cm)。二次調整要確認? 内面：斜め方向のハケメ(4本/cm)。 下端附近ナダ。 | 1~3mm大の長石粒、1mm程度の石英粒多く含む。 | 外面：6.25YR7/4 内面：5YR7/6 |
| 3.4 | 生石神社周辺 | 円筒 | 基底部 | 基底径 | (26.4) | 外面：タケハケ(4本/cm)。二次調整要確認? 内面：斜め方向のハケメ(4本/cm)。 下端附近ナダ。 | 1mm以下の長石粒多い。 | 外面：5YR6/6 内面：5YR6.5/6 |
| 3.5 | 伝兵衛塚遺跡 | 円筒 | 口縫部 | | | 風化のため内外面とも調整不明。口縫部ヨコナダ。 | 1mm以下の長石・石英粒含む。 | 外面：10YR8/2 内面：2.5Y8/1 |
| 3.6 | 伝兵衛塚遺跡 | 円筒 | 筒部 | | | 外面：タケハケ(4~5本/cm)。 内面：横～斜め方向のハケメ(4~5本/cm)。 | 1mm以下の長石粒多い。 1~2mmの大赤褐色粒をまばら。 | 外面：5YR7/4 ～5YR7/6 内面：5YR7/4 |

| | | | | | | | | | |
|-----|--------|------------|-----------------|--------------------------------------|---------------------------|---|--|--|---|
| 3.7 | 伝兵衛塚遺跡 | 円筒 | 筒部 | タガ(下底) (上底) (高さ) | 2.0 1.0 0.9 | 外面：風化のため調整不明。 内面：縦～斜め方向の強いナデ。 タガ裏面ヨコナデ。 | 1mm以下の長石粒多く含む。 | 外面：2.SYR6/6 内面：2.SYR6/4 | ふつう |
| 3.8 | 伝兵衛塚遺跡 | 円筒 | 筒部 | タガ(下底) (上底) (高さ) | 1.9 1.1 1.1 | 外面：ヨコナデ。タガ付近ヨコナデ か？。 内面：ナデ？ | 1mm以下の長石粒多量。 1~2mm大的暗赤色粒をまばらに含む。 | 外面：6.SYR7/5 内面：7.SYR7/4 | ふつう |
| 3.9 | 伝兵衛塚遺跡 | 円筒 | 筒部 | タガ(下底) (上底) (高さ) | 2.2 1.2 1.1 | 風化のため内外面とも調整不明。 | 1mm以下の長石粒多い。 1mm以下の石英粒、1mm程度の赤褐色粒をまばらに含む。 | 外面：10YR7.5/2 ~SYR7/4 内面：SYR7/6 | ふつう 36・41に類似。 |
| 4.0 | 伝兵衛塚遺跡 | 円筒 | 筒部 | | | 外面：ヨコナデ(C種?・8本/cm)。 内面：縦～斜め方向のハケメ(8本/cm)。 | 1mm大からそれ以下の長石・ 石英粒含む。 | 外面：7.SYR7/4 内面：2.SYR6.5/6 | ふつう 風斑あり。 |
| 4.1 | 伝兵衛塚遺跡 | 円筒 | 筒部 | | | 外面：タデハケ(4~5本/cm)。 内面：縦～斜め方向のハケメ(4~5本/cm)。 | 1mm以下の長石粒多い。 1~2mm大的赤褐色粒をまばらに含む。 | 外面：6.SYR7/4 内面：SYR7/6 | ふつう 36・39に類似。 |
| 4.2 | 伝兵衛塚遺跡 | 円筒 | 筒部 | | | 外面：タデハケ(4~5本/cm)の後ヨコ ハケ(8本程度/cm)。 内面：タテハケ(8本程度/cm)。 | 1mm以下の長石・石英粒、 黒色粒含む。 | 外面：SYR8/4 ~7.SYR8/3 内面：SYK7/4 | 良好 |
| 4.3 | 伝兵衛塚遺跡 | 円筒 | 基底部 ~筒部 ? | タガ(下底) (上底) (高さ) | 2.5 1.0 0.8 | 外面：タテハケ(7本/cm)。タガより 上の段にはわずかにヨコハケ状 の条紋が認められる。 内面：ナデ？。 | 1mm程度の長石・赤褐色粒 を含む。 | 外面：2.SYR6/7 内面：SYR7/6 | ややあ まい |
| 4.4 | 伝兵衛塚遺跡 | 円筒 | 筒部 | | | 外面：ヨコナデ(5~6本/cm)。 内面：ナデ？。 | 1mm以下の長石・石英粒多 い。1mm程度の赤褐色粒を まばらに含む。 | 外面：SYR7/4 内面：7.SYR7/4 | 良好 |
| 4.5 | 伝兵衛塚遺跡 | 青 | 縦部 | | | 風化のため内外面とも調整不明。外面 に繊杉形帯2条。 | 1mmの長石粒を多く含む。 | 外面：10YR8/3 ~10YR7/3 内面：5.YR7/4 ~10YR8/2 | 甲寅形、寅形、 人物埴輪の一部 か？。 |
| 4.6 | 伝兵衛塚遺跡 | 不明形 象埴輪 | | | | 外面：ハケメの後ナデか？。 内面：縦方向のケズリに近い工具ナ デ。 | 1~5mm大的石英・長石粒 を多く含む。 | 外面：10YR5/6 内面：10YR5/6 | ややあ まい 四角から右端 には塊面か剥離 面が不明。 |
| 4.7 | 伝兵衛塚遺跡 | 円筒? | 筒部 | | | 外面：タテハケ(5本/cm)、二次調整 省略。下端面の棒状圧痕あり。 内面：斜め方向のハケメ(5本/cm)。 | 1~5mm大的石英・長石粒 を多く、角閃石をまばらに含む。 | 外面：10YR5/6 内面：10YR5/6 | あまり 模様も小さく、46 号と同様に色調等 が質感しており、 形象埴輪の基盤 である可能性 がある。 |
| 4.8 | 伝兵衛塚遺跡 | 円筒 | 基底部 | | | 風化のため内外面とも調整不明。 | 1mm以下の長石粒、褐色粒 多く含む。 | 外面：7.SYR7/6 ~7.SYR7/4 内面：SYT7/4 | 良好 |
| 4.9 | 伝兵衛塚遺跡 | 円筒? | 基底部 | | | 外面：タテハケ？。 内面：ナデ？。 | 1~5mm大的石英・長石粒 を多く、角閃石をまばらに含む。 | 外面：10YR5/6 内面：10YR5/6 | 接合しないが、 右と同一個体。 |
| 5.0 | 伝兵衛塚遺跡 | 円筒 | 基底部 | | | 風化のため内外面とも調整不明。 | 1mm以下の長石粒、1~3mm 大的赤褐色粒を多く含む。 | 外面：10YR7/4 ~10YR7/5 内面：7.SYR7/4 | ふつう 黒斑あり。 |
| 5.1 | 伝兵衛塚遺跡 | 円筒 | 基底部 | | | 外面：タテハケか？。 内面：斜め方向のケズリ？。 | 1mm以下の長石粒、1~2mm 大的石英粒、赤褐色粒、 粘土粒を含む。 | 外面：SYR6/6 内面：SYR6/4 | 良好 |
| 5.2 | 伝兵衛塚遺跡 | 円筒 | 基底部 | | | 外面：ヨコナデ(4~5本/cm)。下端 板状工具によるナデ。 内面：ナデか？。 | 1mm大からそれ以下の長石 ・石英粒、赤褐色粒を多 く含む。 | 外面：SYR6/6 ~SYR6/4 内面：SYR6/4 ~SYR7/4 | ふつう 粘土、色調、 表面など55に類似。 |
| 5.3 | 伝兵衛塚遺跡 | 円筒 | 基底部 | タガ(下底) (上底) (高さ) | 2.2 1.0 1.0 | 外面：タテハケ(4~5本/cm)。タガ周 辺ヨコナデ。 内面：縦方向のハケメ(5本/cm)の後、 部分的に斜め方向のケズリ。 | 1mm以下の長石粒多い。 | 外面：10YR6/2 ~7.SYR7/2 内面：7.SYR7/4 | 良好 |
| 5.4 | 伝兵衛塚遺跡 | 円筒 | 基底部 ~筒部 | タガ(下底) (上底) (高さ) | 2.0 1.0 1.0 | 外面：タテハケ(4本/cm)の後ヨコハ ケ(8本/cm)。基底部は二次調整省 略。 内面：縦方向のハケメ(4本/cm)。 下端面近横方向のナデ。 | 1~3mm程度の長石粒を多 く含む。 | 外面：SYR6/6 内面：2.SYR6/6 | ふつう |
| 5.5 | 伝兵衛塚遺跡 | 円筒 | 基底部 | 基底径 (25.5) | | 外面：ヨコナデ(C種?・5本/cm)。下端 工具ナデ？。 内面：縦方向の強いナデ、あるいはケ ズリ。下端附近横方向のナデ。 | 1~3mm大的長石粒多く 含む。 | 外面：3.75YR6/6 内面：SYR6/4 | ふつう 52に粘土、色調、 調整が類似。同 一個体かどうか は不明。 |
| 5.6 | 伝兵衛塚遺跡 | 円筒 | 基底部 ~筒部 | 基底径 タガ(下底) (上底) (高さ) | 26.8 2.0 0.9 0.5 | 外面：タテハケ(7~8本/cm)。縦横約 3.5cm)。筒部には二次調整状の 横方向の凹凸が認められるが、 はっきりしない。 内面：ナゲおよびユビオサエ。 | 1~5mm大的石英・長石粒 を多く含む。 | 外面：2.SYR6/6 内面：10YR4/6 ~10YR4/6 | ややあ まい 無黒斑。筒部に 剥離かしれあり。 |
| 5.7 | 造山古墳 | 円筒 | 筒部 | 筒部径 (29.7) タガ(下底) (上底) (高さ) | 2.4 0.9 1.2 | 外面：風化のため不明。タガ周辺板状 工具によるヨコナデ？。 内面：斜め方向の細かいハケメ。後継 方向のナデか？。 | 1mm以下の長石粒、赤褐色 粒含む。 | 外面：8.75YR8/4 ~7.SYR7/2 内面：10YR7/3 | 良好 |

| | | | | | | | | | |
|-----|--------|----|------------|--|---|---|---|-----------|----------------------------|
| 5 8 | 柳山古墳 | 円筒 | 筒部 | タガ(下底) 1.9 (上底) 0.8 (高さ) 0.6 | 風化のため内外面とも調整不明。 | 1mm以下の長石粒多量に含む。 | 外面：8.7SYR7/3 ~8.7SYR6/3 内面：8.7SYR6/3 | ふつう | 59と同一個体。 |
| 5 9 | 柳山古墳 | 円筒 | 筒部 | タガ(下底) 1.9 (上底) 0.8 (高さ) 0.7 | 風化のため内外面とも調整不明。 | 1mm以下の長石粒多量に含む。 | 外面：7.5YR7/4 ~7.5YR7/4 内面：8.7SYR7/4 | ふつう | 58と同一個体。 |
| 6 0 | 千足古墳 | 円筒 | 筒部 | タガ(下底) 1.6 (上底) 0.9 (高さ) 0.9 | 外面：ヨコハケ(7~8本/cm)。タガ付近ヨコナデ。上段にラグラス沈み。 内面：風化のため不明瞭だが、斜め方向のケズり、タガ裏面にナデか? | 1mm以下の長石粒を含む。粘土粒様のにぶい赤褐色まばらに含む。 | 外面：10YR7/2 内面：10YR6/2 | ふつう | |
| 6 1 | 千足古墳 | 円筒 | 筒部 | タガ(下底) 1.6 (上底) 1.2 (高さ) 0.9 | 外面：ヨコハケ(C種? 8本/cm)。タガ付近ヨコナデ。 内面：風化のため不明瞭。 | 1mm以下の長石粒を含む。 | 外面：7.5YR7/4 ~7.5YR7/5 内面：7.5YR7/5 | 良好 | |
| 6 2 | 千足古墳 | 円筒 | 基底部 | | 外面：タテハケ後ナデ?。 内面：強ナデ? | 1mm以下の長石粒を含む。 1mm程度の石英粒、赤褐色粒まばらに含む。 | 外面：7.5YR7/6 内面：6.25YR7/4 | ふつう | |
| 6 3 | 千足古墳 | 円筒 | 基底部 | | 外面：風化のため調整不明。 内面：斜め方向のハケメ?。 | 1mm以下の長石粒多い。 ~2mm大的赤褐色粒をまれに含む。 | 外面：8.7SYR7/6 ~8.7SYR7/3 内面：8.7SYR7/3 | ふつう | |
| 6 4 | 千足古墳 | 円筒 | 基底部 | | 外面：風化のため調整不明。 内面：横方向のハケメ(8~9本/cm)。 下端剥離。 | 1mm以下の長石粒を多く含む。 1mm以下の石英粒、赤褐色粒まれに含む。 | 外面：7.5YR7/6 内面：7.5YR7/5 | ふつう | |
| 6 5 | 小造山古墳 | 頸部 | 肩部～受部 | | 外面：頸部突堤周辺ヨコナデ、肩部にわずかにタテハケが観察できる。 内面：受部下端から頸部突堤裏面に横方向の工具ナデ。肩部は斜め方向のケズり。 | 1mm以下の長石粒を多く含む。 | 外面：2.5YR6/1 内面：10YR6/2 ~10YR7/1 | 聖職 | 古記「小造山手前の池(53)」 |
| 6 6 | 黒住山南西麓 | 馬 | 隕泥、 蓋部分 | | 外面：斜め方向のハケメ(6本/cm)の後、隕泥層を貼り付けている。 内面：ナデか? | 1mm以下の長石粒多く含む。 | 外面：2.5YR5/6 内面：2.5YR6/6 | ややあ まい | 古記「加茂・ミ ノア(548, 4)」 |
| 6 7 | 出土地不明 | 円筒 | 基底部 ~筒部 | 基底径 15.0 基底部幅 14.0 断面図 タガ(下底) 9.0 (上底) 1.3 (高さ) 0.7 | 外面：タテハケ(7本/cm)。タガ部分にはヨコナデのし板状工具によるヨコナデ。 基底部下端はケズりか? 内面：縦～斜め方向のナデ。タガ裏面周辺に横方向のナデ、ユビオサリ。 | 1mm大からそれ以下の長石粒多い。 | 外面：7.5YR8/6 ~SYR6/4 内面：SYR6.5/4 | 良好 | 基底部で2/3程度埋蔵。筒部下段に凹凸があり。 |
| 6 8 | 出土地不明 | 円筒 | 基底部 | 基底径 (15.5) タガ(下底) 2.2 (上底) 1.4 (高さ) 0.6 | 外面：タテハケ(5本/cm)。タガ付近ヨコナデ。 内面：横～斜め方向のナデ。 | 1mm以下の長石粒多い。 1mm以下の赤褐色粒まばらに含む。 | 外面：1.25YR6/6 内面：2.5YR7/4 | ややあ まい | 基底部で2/3程度埋蔵。タガ部は複数なじ同一個体片。 |
| 6 9 | 出土地不明 | 円筒 | 筒部 | タガ(下底) 2.3 (上底) 1.2 (高さ) 0.6 | 外面：タテハケ(7本/cm)。タガ周辺ヨコナデ。 内面：縦方向の強ナデ。 | 1mm以下の長石粒、1mm大の赤褐色粒を含む。 | 外面：5YR5/2 ~5YR6/3 内面：5YR6/5 | 聖職 | 70と同一個体? |
| 7 0 | 出土地不明 | 円筒 | 筒部 | タガ(下底) 2.4 (上底) 1.4 (高さ) 0.6 | 外面：タテハケ(7本/cm)。タガ周辺ヨコナデ。 内面：強ナデ。 | 1mm以下の長石粒、1mm大の赤褐色粒を含む。 | 外面：8.7SYR7/5 内面：8.7SYR6/4 | 良好 | 69と同一個体? 上段に透かい孔あり。 |
| 7 1 | 出土地不明 | 円筒 | 筒部 | タガ(下底) 1.4 (上底) 0.9 (高さ) 0.9 | 外面：ヨコハケ(7~8本/cm)。タガ部工具によるヨコナデ。 内面：ナデ? | 1mm以下~3mm大的長石、石英粒を含む。 | 外面：N6.0/~ 5YR5/1 内面：N6.0(YH) | 聖職 | 下段に凹凸があり。 |
| 7 2 | 出土地不明 | 円筒 | 筒部 | タガ(下底) 2.3 (上底) 1.0 (高さ) 1.3 | 風化のため内外面とも調整不明。 | 1~5mm大的石英、長石粒多量に含む。粘土粒様の淡褐色粒まばらに含む。 | 外面：7.5YR8/4 ~7.5YR7/3 内面：10YR2/2 | ふつう | 高松城資料館蔵。 |
| 7 3 | 出土地不明 | 円筒 | 筒部 | タガ(下底) 1.8 (上底) 1.1 (高さ) 0.8 | 外面：タテハケの後ヨコハケ(5本/cm)。タガ周辺工具によるヨコナデ。 内面：ナデ? | 1mmの大石英粒、1mm以下の長石粒、角閃石を含む。 | 外面：SYR6/4 内面：SYR6/5 | ふつう | 高松城資料館蔵、生石神社北側近傍の33号墳。 |
| 7 4 | 出土地不明 | 円筒 | 筒部 | タガ(下底) 2.2 (上底) 1.1 (高さ) 0.8 | 外面：ヨコハケ(10本/cm)。タガ周辺工具によるヨコナデ。 内面：斜め方向のハケメ(10本/cm)。タガ裏面周辺に横方向の工具ナデ。 | 1mm以下の長石、石英粒を含む。 | 外面：SYR6/6 内面：SYR6/6 | ふつう | 高松城資料館蔵。 |
| 7 5 | 出土地不明 | 円筒 | 筒部 | タガ(下底) 1.5 (上底) 1.0 (高さ) 1.2 | 外面：ヨコハケ(6本/cm)。タガ周辺ヨコナデ。 内面：縦方向のハケメ(6本/cm)。タガ裏面周辺に横方向の工具ナデ。 | 1mm以下の長石、石英粒多い。 | 外面：6.25YR7/6 ~5YR5/1 (黒斑) 内面：5.7SYR7/6 | ふつう | |
| 7 6 | 出土地不明 | 円筒 | 筒部 | タガ(下底) 1.5 (上底) 0.8 (高さ) 0.8 | 風化のため内外面とも調整不明。 | 1mm以下の長石粒多い。 | 外面：10YR7/3 ~10YR7/2 内面：10YR7/3 | ふつう | |
| 7 7 | 出土地不明 | 頸部 | 受部? | | 外面：タテハケ? 内面：横～斜め方向のハケメ(8本/cm)。 | 1mm以下の長石、石英粒多い。 | 外面：8.7SYR8/3 ~7.5YR6/6 内面：SYR7/7 | ふつう | |

富原遺跡採集の瓦

高橋伸二

この瓦は岡山市富原地内での浄化槽埋設工事での立会調査の際に、その工事の施工者にあたる方からご提供いただいたものであり、その経緯は次のとおりである。

平成12年8月、浄化槽埋設工事の立会調査時にたまたま居合せた地権者や工事関係者に周辺の遺跡について説明したところ、納屋にこんなものがあると持参されたのが標題の瓦である。詳細をうかがったところ、瓦の出土地は同氏が所有する畠で数十年前、温室を建設する際に氏の父親が掘り出して保管していたとのことであった。

この瓦の出土地は、富原遺跡の範囲内に位置しているが、富原遺跡はかつて富原南廃寺あるいは才の木廃寺などと呼ばれていたが、古代山陽道に面するこの遺跡は津高駅家の見方が有力となり富原遺跡と呼ばれるようになった。また、この遺跡の北約300mには富原北廃寺があり、西方約200mほどの丘陵斜面には富原遺跡から出土する瓦を焼成したとみられる奈良時代の瓦窯、上の段窯址がある。

富原遺跡ではこれまでに軒丸瓦、軒平瓦とともに1種のみ知られており、軒丸瓦は平城宮6225型式に含まれ、軒平瓦は平城宮6663型式に似ているものが報告されている。

標題の瓦は、丸瓦部分は失われているものの瓦当面はほぼ完全に残る。内区は複弁八葉で中房は大きく蓮子は1+6+11で周囲に圓線が認められ、外区は素文である。二次的に火を受けたためか色調は浅黄橙色を呈する。

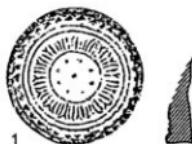
この瓦は川原寺の創建瓦を標識とする川原寺式と呼ばれるものであり、時期は白鳳期に位置づけられるものである。富原北廃寺でも創建瓦とみられるものに川原寺系のものも認められるが、それらは外区に珠文をめぐらせるなどこの瓦とは異なった特徴を有するものである。

壬申の乱における天武方の論功であるとする説のある川原寺式瓦は備前国内では黒本廃寺、服部廃寺、吉岡廃寺、須恵廃寺、藤野廃寺、和気廃寺などをはじめいくつかの遺跡でその出土が知られるほか、備中では関戸廃寺、戸戸廃寺が知られる。また、美作では複弁八葉蓮華文以外に複弁七葉蓮華文の軒丸瓦もあり江見廃寺、竹田廃寺、土居廃寺、大海廃寺、今岡(長大寺)



第1図 富原遺跡の位置

1. 富原遺跡 2. 富原北廃寺 3. 上の段窯址



富原遺跡出土瓦



上の段窯址出土瓦

0 20cm

第2図 富原遺跡出土の瓦

(注1より一部改変)

庵寺、楷原庵寺、久米庵寺などのほか平・勝間田遺跡、勅使遺跡など寺院と推定される遺跡からの出土も報告されている。

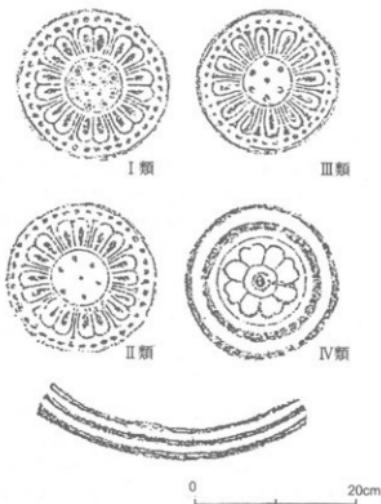
今回紹介するのはこの1点の瓦のみであるものの、未だ実態の判明しない富原遺跡の検討資料となれば幸いである。また、過去に掘り出された貴重な遺物が散逸しないよう実態を把握する必要性を痛感するとともに、貴重な資料を保存しご提供いただいた地権者の方に感謝する次第である。

注

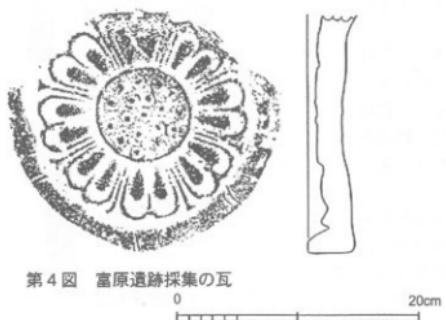
- (1)伊藤 晃「富原北庵寺・富原遺跡」『岡山県史』第18巻 1986
- (2)出宮徳尚・伊藤 晃・駒井正明「瓦当文」『吉備の考古学的研究(下)』近藤義郎編 山陽新聞社1992
- (3)八賀 晋「地方寺院の成立と歴史的背景」『考古学研究』77巻3号 1973
出宮徳尚・葛原克人・河本 清「古代」『岡山県の考古学』近藤義郎編 吉川弘文館 1987
駒井正明「古代吉備における軒瓦の様相」『考古学研究』第37巻3号 1990

図出典

- 『岡山県史』第18巻 1986
出宮徳尚ほか「瓦当文」『吉備の考古学的研究』下 1992
池田浩ほか『服部庵寺』長船町教育委員会 1997



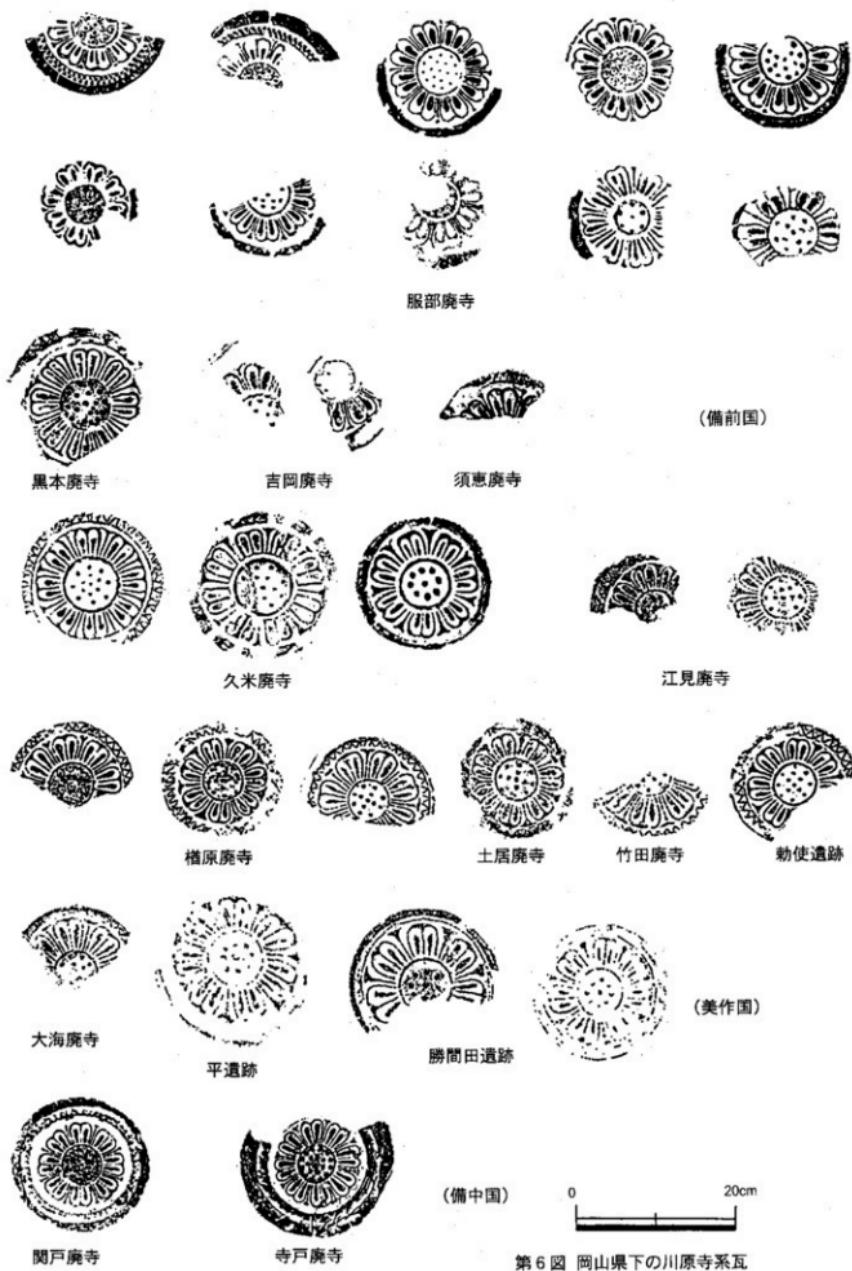
第3図 富原北庵寺出土の瓦
(注1より一部改変)



第4図 富原遺跡採集の瓦



第5図



第6図 岡山県下の川原寺系瓦

南方(済生会)遺跡出土のサヌカイト製石器の使用痕

高田 浩司

はじめに

1993~1996年にかけて岡山市教育委員会によって実施された、南方(済生会)遺跡の発掘調査では、合計800点以上におよぶ石器が出土した。南方(済生会)遺跡は、おおよそ弥生時代前期中頃から中期後葉まで存続する集落であるが、出土した土器の大半は中期中葉に属するもので、石器もこの時期のものが大半を占めると考えられる。中期中葉ごろに属する石器としては岡山県下で最もまとまった資料の一つであり、当該期の石器の状況を知ることができる良好な資料であろう。本論では、これらの石器の内、使用痕を観察できるサヌカイト製の打製石庖丁、打製石鎌、打製石鋸、打製石剣をとりあげ、その特徴について述べていきたい。

1. 打製石庖丁(図1)

南方(済生会)遺跡出土のサヌカイト製打製石器の中で、明瞭に使用痕を観察できる石器に打製石庖丁がある。南方(済生会)遺跡から出土した打製石庖丁は、そのほとんどに、いわゆる「コーングロス」と呼ばれるイネ科植物を対象として用いた際に形成される使用痕が観察できる。この使用痕を金属顕微鏡によって詳細に観察してみると、表面に凹凸がみられ、光沢をもった非常に滑らかな凸部が島状に広がっている(写真1~5)⁽¹⁾。これは、さまざまな使用痕のタイプの内、イネ科植物を使用対象とした際に形成される「Aタイプ」(梶原・阿子島1981、御堂島1988、阿子島1989)と呼ばれるものに最も近い。ただし、典型的な「Aタイプ」と呼ばれる使用痕に比べると、より丸みが強く凹凸の差が大きい。また、光沢をもった凸部が非常に発達し、大きく広がることも特徴である。通常、サヌカイト以外の石庖丁では、使用の初期の段階に「Bタイプ」と呼ばれる水滴のような凸部が斑点状に形成され、その後、使用が進んだ段階で「Aタイプ」の使用痕がみられるようになる。しかし、南方(済生会)遺跡の打製石庖丁には、初期段階に形成される「Bタイプ」の使用痕があまりみられない。これは、サヌカイト製の石庖丁が、他の石材の石庖丁に比べて使用痕が非常に形成されやすく、Bタイプが形成された後、すぐに、より光沢が発達したAタイプに類似する島状の凸部が、形成されるためであると考えられる。

また「Aタイプ」が、より進行した部分では、凸部がさらに発達し、凹部がほとんどなくなり面的な広がりをもつようになる(写真6)。稜線上など特に磨滅が進行しやすい部分などでは完全に凹凸がなくなり、非常に平滑な面を形成している。よく使用された石庖丁では、このような光沢の面的な広がりが、部分的ではなく広範囲に及んでいるものもみられる。

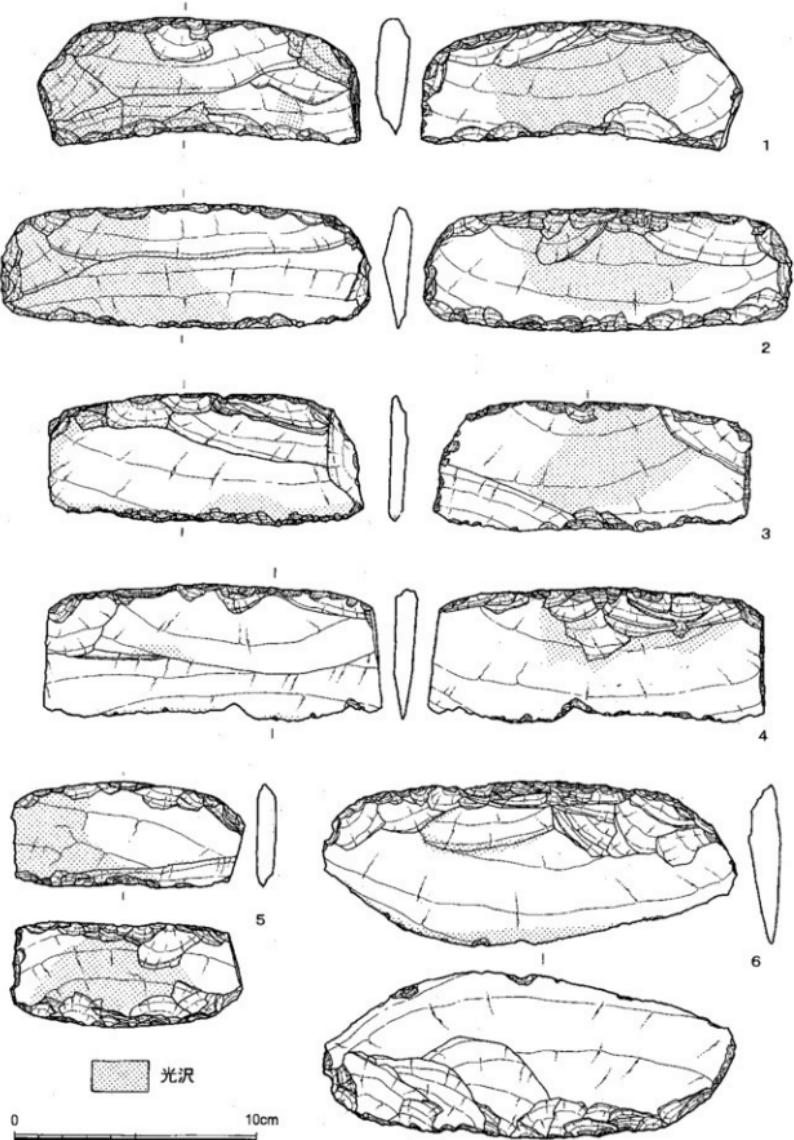
次に、このような光沢をもつ使用痕が打製石庖丁のどの範囲に分布しているかをみてみたい。南方(済生会)遺跡から出土した完形の打製石庖丁には、光沢の分布範囲にある程度、共通性がみられる。そこで、その特徴を述べると、

①最も明瞭な使用痕を観察できるのは、素材剥片の背面側である。また、使用痕は一様に広がるのでなく、主に図の左側部分に分布する。この部分には、刃部、体部とともに使用痕がみられるが、特に体部の剥離面の稜線上に明瞭である場合が多い。

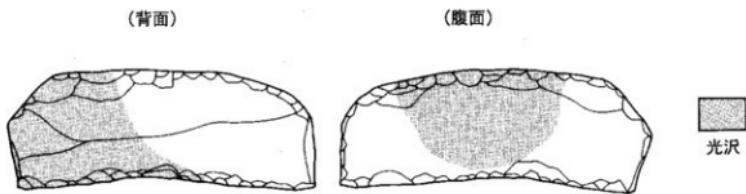
②素材剥片の腹面側にも使用痕がみられるが、背面側とは異なり、体部の中央付近に最も分布する。この部分は、刃部側にはほとんど使用痕がみられず、背部に近い方が明瞭である。

③光沢は石庖丁の背部にもみられる。

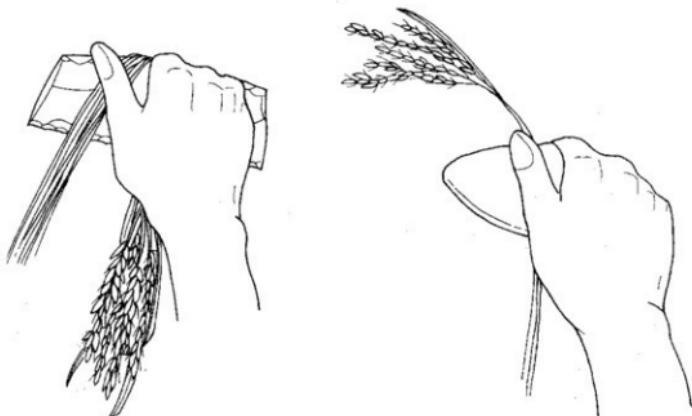
以上のような、使用痕分布の特徴を模式的に示したのが図2である。次に、このような使用痕の特徴から南方(済生会)遺跡出土の打製石庖丁の使用方法を推定してみたい。まず①について、背面側に最も明瞭な使用痕が観察できるのは、凸面を成し膨らみのある腹面に比べて、凹面である背面の方が、穂を刃部に密着させやすいためであると考えられる。また、左部分に使用痕が特に明瞭であるのは、



第1図 打製石庖丁



第2図 打製石庖丁の光沢分布模式図



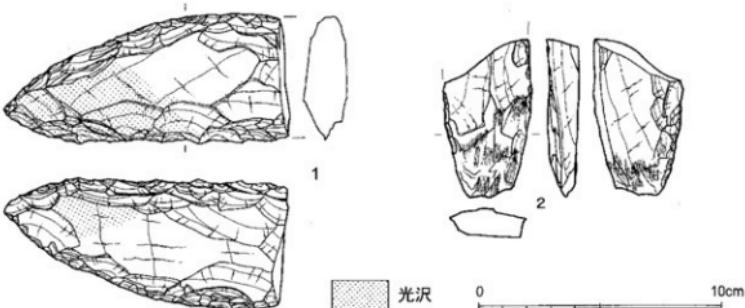
第3図 南方(済生会)遺跡における
打製石庖丁の使用方法

第4図 磨製石庖丁の使用方法

右利きの人物が親指でこの部分に穂を当てて刈り取ったことを示している。ただし、その際、②③の範囲に使用痕が分布することから、背面側の左部分にあてた穂をそのまま摘みとるのではなく、裏側の腹面中央付近に折り返して摘みとったことが分かる。

このように推定できる打製石庖丁の穂の摘みとり方法を図示したのが、図3であるが、このような方法は、磨製石庖丁の使用痕観察から推定されている摘みとり方法(阿子島1989、御堂島1991など)とは異なる。磨製石庖丁では、穂を親指で体部の左側に押し当てて穂を摘む点は共通するものの、その穂を裏側の面に折り返すことは行なわれない(図4)。そこで、なぜ打製石庖丁において裏側に折り返すという方法をわざわざ行なうかが問題となろうが、裏側に穂を折り返した方が、穂を摘みとる際に、より強い力を加えられることは想定できる。ただし、打製石庖丁と磨製石庖丁の刃の切れ味を比べれば、むしろ打製石庖丁の刃の方が鋭いので、磨製石庖丁に比べて摘みとり能力が低いということは理由として考えにくいであろう⁽³⁾。そこで考えられるのは、穂を裏返すことでわずかな手間とはなるものの、強い力を加えることによって、一度に摘みとる穂の本数をできるだけ多くし、摘みとりの効率を上げようとしたのではなかろうか。

いずれにしても今後、実験等を行うことによって、穂を石庖丁の裏側に折り返す場合と、折り返さない場合とで、どのような点に違いが生じるか、詳細に検討していく必要があろう⁽³⁾。



第5図 打製石鎌と打製石鋤

2. 打製石鎌(図5-1)

南方(済生会)遺跡では、打製石鎌が1点出土している。基部側が欠損しているが、先端が尖り、背部がわん曲していることから、石鎌であると判断できる。石鎌は岡山県下ではほとんどみられない石器であり、貴重な資料であろう。使用痕は、先端付近の刃部および体部に主にみられる。表面が風化しているため光沢はあまり明瞭ではないものの、これを顕微鏡で観察すると、打製石庖丁にみられたものと同様の「Aタイプ」に類似する、表面が滑らかな凹凸を観察することができる(写真7・8)。このことは、打製石鎌が打製石庖丁と同様に、イネ科植物を使用対象としていたことを示していると思われる。

3. 打製石鋤(図5-2)

サヌカイト製の打製石鋤の使用痕は、摩滅が非常に顕著でとろけたような表面をもつのが多い。この摩滅は非常に平滑で、石庖丁の「Aタイプ」の使用痕のように表面に凹凸をもつ部分はみられない。ただし、先ほど述べたように、打製石庖丁も摩滅が進行した部分では、非常に平滑で面的な広がりをする光沢がみられ、その光沢とは類似している。しかし、そのような場合にも、打製石鋤には、明瞭な縦方向の線状痕を伴うものが多く(写真9・10)、そのような線状痕をもたない打製石庖丁とは異なっている。また、打製石鋤の光沢は、打製石庖丁ほど強くなく、このような点からも、両者を区別することができる。

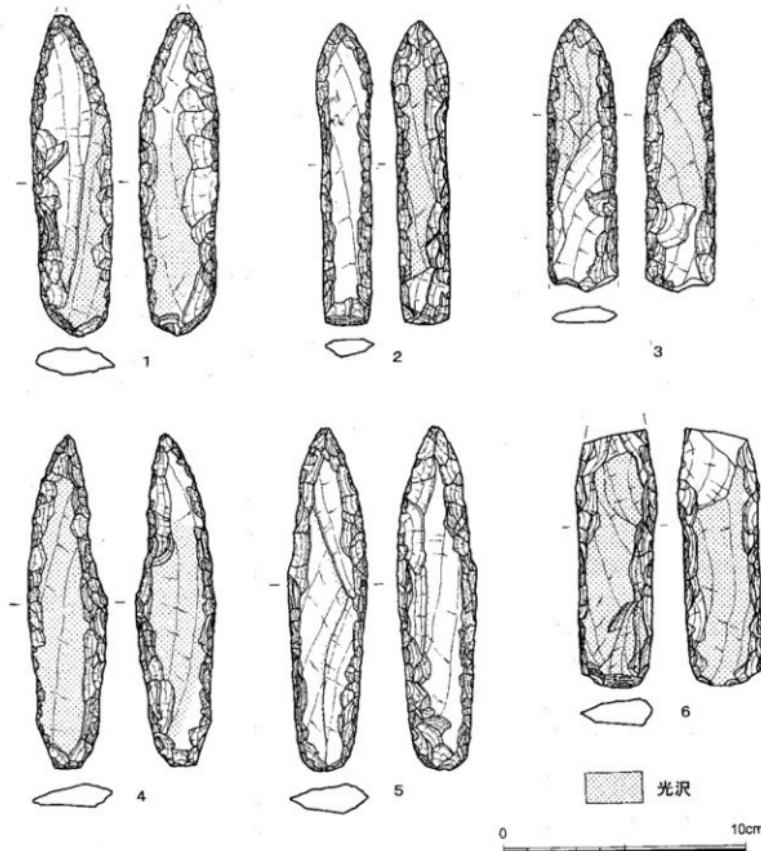
4. 打製石剣(図6)

南方(済生会)遺跡から出土した打製石剣には表面に光沢がみられるものがある。この打製石剣にみられる光沢を金属顕微鏡で観察してみると、表面に凹凸がみられ、滑らかな凸部が島状に広がっている(写真11~16)。打製石庖丁にみられた「Aタイプ」に類似する使用痕と同様の特徴をもつ。また、摩滅が顕著な部分では、表面が平滑で光沢が面的な広がりをしており、このような特徴も打製石庖丁と類似している。一方で、打製石鋤にみられたような縦方向の明瞭な線状痕はみられず、打製石鋤の使用痕とは考えにくい。また光沢は、研磨が行なわれている場合にも生じることがあるが、その場合、表面に凹凸は全くみられず全体が非常に平らな面をしているので、やはり研磨による光沢とも異なる。

のことから、打製石剣にみられる光沢は打製石庖丁と同様の使用痕であり、イネ科の植物を対象

したものであると考えられよう。ただし、当然このことは打製石庖丁と同様に穂摘具として使用されることを意味するわけではない。打製石剣にみられる光沢は、いずれも打製石剣の周辺に施された二次調整によって切られており、これらの光沢が打製石剣のかたちに仕上げられる以前に、形成されたものであることがわかる。つまり光沢のみられる打製石剣は、本来は打製石庖丁として使用されていたものが、後に打製石剣に転用されたことを示している。

このような、打製石庖丁を転用した打製石剣は、南方(済生会)遺跡のみならず、岡山県南部や香川県北部など、金山産サヌカイト製の打製石庖丁が用いられる中部瀬戸内地域では、広くみられる。中部瀬戸内では、打製石庖丁を素材として打製石剣を製作することが、石器の製作体系の中に組み込まれていたと考えられよう⁽⁴⁾。



第6図 光沢をもつ打製石剣

おわりに

以上、金山産サヌカイト製の打製石庖丁、打製石鋸、打製石剣にみられる使用痕の特徴について論じた。サヌカイトは他の石材に比べて、表面が風化しやすく、また使用痕の生成過程に特有の性質をもつ。そのためか、サヌカイト製石器の使用痕研究は、他の石材の石器と比べて十分に行われてきたとはいがたいように思う。今後、さらに詳細な研究をすすめていく必要があるだろう。

(岡山大学埋蔵文化財調査研究センター)

注

- (1) 使用痕の観察には、オリンパスMHS60の金属顕微鏡を用いた。通常、石庖丁などの使用痕観察は200倍前後で行うことが多いが、南方(済生会)遺跡から出土したサヌカイト製の打製石庖丁は、非常に使用痕が発達しており、高倍率ではかえって観察しにくいため、50倍もしくは100倍で観察した。
- (2) 打製と磨製の石庖丁を用いて、福の収穫実験を行った、山田しようと山田成洋によれば、打製の方が、磨製よりも切れ味が良く、一定時間あたりの収穫も多いことが指摘されている(山田・山田1992)。
- (3) 南方(済生会)遺跡から出土した打製石庖丁の摘みとり方法に、「穂の折り返し」を想定したが、裕・長池遺跡出土の資料を用いて、サヌカイト製の打製石庖丁の使用方法を復元した山元敏裕は、磨製石庖丁と同様に穂の折り返しを行わない方法や、縁のように穂を刈りとる方法を想定している(山元1993)。このような違いが生じた理由としては、地域の違いによる要因や、南方(済生会)遺跡と裕・長池遺跡出土の打製石庖丁で、大きさや形に違いがあることなどが考えられるが、詳細については今後の課題とした。
- (4) このように、打製石庖丁は打製石剣の製作と深い関わりをもつ。サヌカイト製打製石庖丁の生産・流通の状況については、金山周辺で製作されたものが、製品のかたちで中部瀬戸内の各集落に搬入されたと考えられる(高田2001)。各集落に搬入された打製石庖丁の大半は、もちろん、そのまま石庖丁として使われ続けるが、打製石庖丁には打製石剣を製作するにちょうど適した大きさのものがあるため、その一部を必要に応じて打製石剣に転用したのであろう。また、光沢がみられない打製石剣についても、形態的に打製石庖丁を素材としたと思われるものがあることから、本来は打製石庖丁として入手したが、それを打製石庖丁として使用する以前に、打製石剣に転用したものも存在したことが想定できるだろう。

参考文献

- 阿子島 薫 1989 『石器の使用痕』考古学ライブラリー56 ニュー・サイエンス社
梶原 洋・阿子島 薫 1981 「貞岩製石器の実験使用痕研究—ポリッシュを中心とした機能推定の試みー」『考古学雑誌』第67巻第1号
高田浩司 2001 「吉備における弥生時代中期の石器の生産と流通」『古代吉備』第23集
御堂島 正 1988 「使用痕と石材—チャート、サヌカイト、凝灰岩に形成されるポリッシュー」『考古学雑誌』第74巻 第2号
御堂島 正 1991 「磨製石庖丁の使用痕分析」『古代文化』第43巻11号
山田しよう・山田成洋 1992 「静岡県内出土の「石庖丁」の使用痕分析」山田成洋・伊藤律子編『川合遺跡 遺物編2』財団法人静岡県埋蔵文化財研究所
山元敏裕 1993 「石器の組成と形態の特徴」藤井雄三・山本英之他『裕・長池遺跡』高松市教育委員会・建設省四国地方建設局



写真 1 打製石庖丁：図 1-1 ($\times 50$)

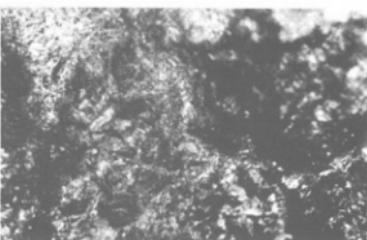


写真 2 打製石庖丁：図 1-1 ($\times 100$)

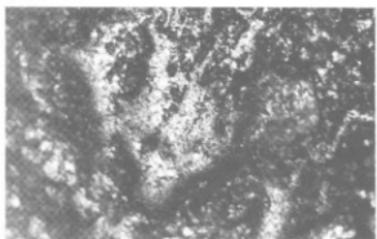


写真 3 打製石庖丁：図 1-2 ($\times 50$)

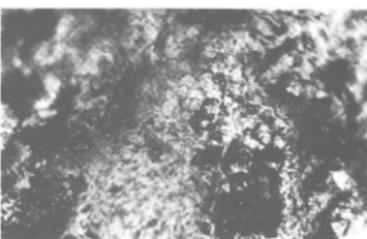


写真 4 打製石庖丁：図 1-2 ($\times 100$)

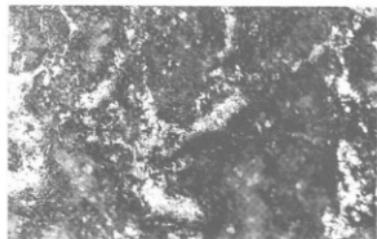


写真 5 打製石庖丁：図 1-3 ($\times 50$)



写真 6 打製石庖丁：図 1-1 ($\times 100$)

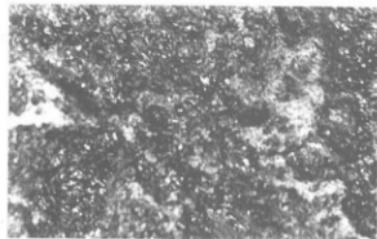


写真 7 打製石鎌：図 5-1 ($\times 50$)



写真 8 打製石鎌：図 5-1 ($\times 100$)

第7図 南方（済生会）遺跡出土石器の金属顕微鏡写真（1）



写真9 打製石鋤：図5-2（×50）



写真10 打製石鋤：図5-2（×100）



写真11 打製石剣：図6-1（×50）

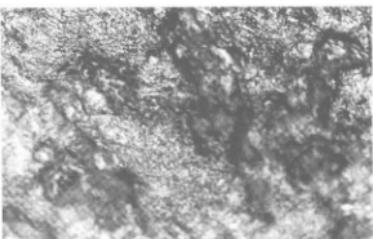


写真12 打製石剣：図6-1（×100）

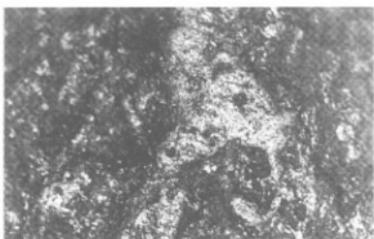


写真13 打製石剣：図6-2（×50）

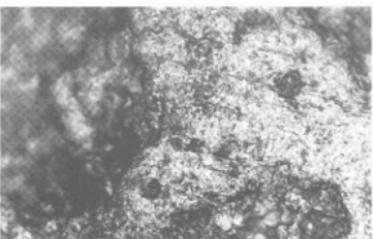


写真14 打製石剣：図6-2（×100）

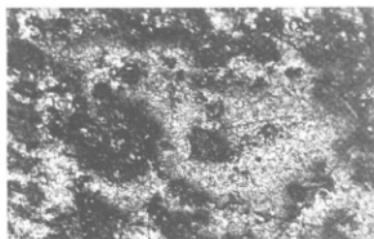


写真15 打製石剣：図6-3（×50）

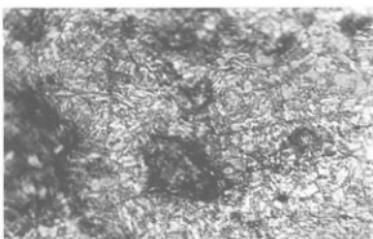


写真16 打製石剣：図6-3（×100）

第8図 南方（済生会）遺跡出土石器の金属顕微鏡写真（2）

利用案内

所在地 岡山市網浜834-1

開館時間 午前9時から午後4時30分まで

休館日 日曜日、国民の休日に関する法律に規定する休日、年末年始の休日

入館料 無料

交通案内 両備バス・岡電バス

岡山駅・天満屋バスステーションから新岡山港行・岡山ふれあいセンター行・桑野営業所行・

湊倉益行 「網浜中」下車、徒歩5分。

所要時間 岡山駅から約15分。

岡山市埋蔵文化財センター年報1

—2000年(平成12)年度—

発行年 2002年3月31日

発行 岡山市教育委員会

岡山市大供一丁目1番1号

編集 岡山市埋蔵文化財センター

印刷 有限会社サンコープリント

